



第十八章  
大尾

英國財政史  
トーマス・ダブネル・デーリ氏著



114  
A1436  
8



政史

第十八章

馬鈴薯ノ不成熟○穀物ノ大輸入○金貨派出○  
 一千八百四十七年十月ノ恐慌○銀行條例ノ一  
 時廢止○佛國ヲ恐怖ス○其真ノ原因○一千八  
 百四十八年ノ變革○佛國共和政治○穀物ノ大  
 下落○該民黨執政ノ死去○「テルロ」侯ノ政治  
 ○其錯誤○ロルド、アベルヂン氏宰相ニ任ス  
 ○土耳其ニ於ケル宗旨爭論○魯國布臘國ノ保  
 護職ヲ要請ス○土帝「サルタン」ノ剛毅○魯兵  
 ルーツ河ヲ渡ル○英佛ノ應援ヲ要ス○宰相等  
 ノ混雜○維也納會議○英佛ノ兵君子坦丁ニ進  
 ム○「アベルヂン」氏ノ辭職○「バルマリストン」氏

大正十一年四月  
大隈侯爵郵寄贈

宰相ニ任ス并ニ其真ノ意計○魯帝ノ死去○維也納會議○「セバ」ストポ「ル」ノ一部ヲ失ス○「ウ」ルス城ノ陥落○平和ノ條約ヲ調印ス○貿易空虛ノ状態○紐克ニ於ケル恐慌○金貨ニ流出○印度ノ叛逆○一千八百五十七年十一月倫敦ニ於ケル恐慌○第一銀行條例一時廢止○英國ニ於ケル印度事務歳入刑獄犯罪教育等一般ノ状態○終局

是書ノ記者ハ之レヲ世ニ公ニセシヨリ已ニ十年ノ星霜ヲ經過シタリ而シテ其以來即チ一千八百四十七年一月一日以來理財上及ヒ貨幣上ニ於テ種々重大ナル変更ヲ生シタリ故チ此等諸篇ノ記者ハ既ニ出版シタル者ニ第十八篇ヲ追加シ且ツ之レヲ是書ノ第二版ニ附記スルヲ

適當ナル時節ト思惟セリ夫レ此ノ如クニシテ而シテ後初テ記者ハ其力ノ及フ丈ケ能ク此論說ヲ完全ナラシメタリト謂フモ可ナリ何トナレバ今追加セタル篇ハ一千八百五十七年ノ終リニ至ル迄ノ事蹟ヲ登記スルノミナラス若シ將來ニ至リ第三版ヲ要スルニ當テハ則チ其著手ヲシテ頗ル容易ナラシムヘキ切アレハナリ故ニ記者ハ今再ニ篇ヲ一千八百四十七年ノ初ニ起ス蓋シ此年ハ貨幣上ノ困難ヲ極メ且ツ英國ノ外他ニ邦國ニ曾テ先例ナシトモ謂フ可キ程ノ難澁ナル年ナリキ  
一千八百四十六年ニ「サ」ト「ロ」ハ「ト」ニ「ピ」ト「ル」ハ「大」ニ「列」ニ「顛」ノ穀物ト外國ノ穀物トノ競争ヨリ生スル所ノ結果ニ對シテ英倫ノ地主ヲ保護スル一切ノ條例ヲ全ク廢棄スルヲ得タリ是レ吾人ノ既ニ上文ニ於テ觀察セシ所ナリ而

シテ當時ロベルト氏該條例ノ廢棄ヲ國會ニ議定セラ  
ル、ヲ得タルヤ自己ノ政黨ヨリモ寧ロ反對黨ノ助力ニ  
由ルモノ蓋シ大ニナリ之レカ為人生シタル結果ハ則チ  
廢穀物保護條例議案ノ法律ト為リシヤ忽チ同氏ノ権力  
ヲ失ヒシニ在リトス抑モ民黨カ「サ、ロベルト、ピール氏ニ  
助力シテ右條例ヲ廢棄セシメタルモノハ蓋シ該黨ハ第  
一ニ人口頻リニ増殖シテ人民無傭役ニ困シムノ情勢ニ  
右條例廢棄断行ノ早晚社會上及ヒ政治上ニ已ムヘカラ  
サルヲ知レリ第ニハ此断行ハ又タ王黨ヲ分離シ而シ  
テ更ニ嚴王黨ト「サ、ロベルト、ピール」及ヒ其直接ナル同  
類トノ間ニ必ラス治シ難キ所ノ隙ヲ生セサルヲ得サル  
ヲ認識シタルハナリ斯ノ場合ニ於テ吾人ハ民黨ノ「ピ  
ール氏」ニ助力スル思想ハ王黨ヲ分離セント欲スル冀望ヨ

ヲ生セシコトヲ保スルヲ得可シ而シテ民黨ハ其冀望ヲ直  
チニ満足スルヲ得タリ乃チ王黨ノ地主ハ「サ、ロベルト」  
氏カ穀物保護條例ヲ廢棄シタルヲ見テ且ツ怖レ且ツ怨  
ミ終ニ民黨ヲ援助シテ同氏ノ政權ヲ剥奪スルニ盡カセ  
リ而シテ一千八百四十七年一月十九日議院開會ノ時ニ  
於テ「ロルド、ジョン、ラッセル」ハ大藏卿ニ任セラレ「サ、チャール  
ス、ウー」ドハ租稅卿ニ任セラレタリ但シ其位置ハ最早所  
謂ル蕃薇ノ苗床ニ均シキ虚器ニアラス而シテ此内閣ノ  
更迭アリシヨリ「ロルド、バルメル」ストンハ外務卿トナリ  
再ヒ外務省ヲシテ陰謀暗算ノ巢窟ニ為サシムルノ機會  
ヲ得タリ然レ其陰謀暗算タルハ英國ノ真正ノ名利ニ  
關係スル所ニ就テ考レバ有害無益ノ所為タルヲ免カレ  
ス又タ同時ニ「エ、トル、グレイ」ハ殖民地總裁トナリ其平生

歳  
目

ノ持論ヲ實際ニ施行スルノ機會ヲ得タリ蓋シ同氏ハ一  
種ノ持論ヲ主張シタルカ爲メニ其名世ニ顯ハレタリ其  
持論ハ又々其實價ヨリモ寧ロ他人ノ考案ニ甚シク反對  
スル事實ノ爲メニ知ラレタリ又内務ハ「エトルグレイ」ノ  
親戚「サー、ジョージ、グレイ」之レニ任セラレタリ蓋シ此「ジョー  
ジ、グレイ」内閣中ニテ鏘々タル人ナリ抑モ當時ノ内閣  
タルヤ大半ハ中等ノ智徳ヲ有スル人ナリ過キス故ニ「ロ  
ベルト、ピール」氏ヨリ時々助カヲ得ルヲ無シハ其権カヲ  
保持スル能ハサリシモ亦タ知ルヘカラサルナリ然レモ  
幸ニ氏ハ其夭折ノ時ニ至ル迄其助カヲ請求セラル、キ  
ハ常ニ之レニ應シテ其カヲ尽サレタリ  
穀物禁輸入法ヲ廢棄セシ條例ノ言辞ヲ閱スルニ是法ノ  
廢棄ハ之レヲ漸々ニ実行シ一千八百四十九年ヲ以テ終

ニ全廢スヘキモノナリトアリ然レモ茲ニ天災ノ起ルア  
リテ右漸次廢棄ノ主義ヲシテ行ハレサレシムルニ至レ  
リ蓋シ天災ハ議院ノ議決條例ト雖モ之レニ抗スル能ハ  
ス其薄脆ナルヲ猶ホ軟風ノ一種ナル遊糸ノ如シ其天災  
トハ何ソヤ即チ一千八百四十六年ノ秋ニ當リ嘗テ大ニ  
大不列顛及ニ愛耳蘭ニ於テ馬鈴薯大ニ乾枯シ其收穫ニ  
大凶歉ヲ告ナタリシカ今又乾枯病再發シ其凶歉旧時ヨ  
リモ甚シキヲ是ナリ愛耳蘭ノ人民ハ大半該草根ニ頼リ  
テ其生命ヲ保ツ者ナルニ同國ノ馬鈴薯ハ盡ク乾枯腐敗  
セリ而シテ蘇格蘭ノ高地ニ於テモ亦々同一ノ損害ヲ受  
タリ然レモ英倫ニ於テハ下等社會ト雖モ穀物ヲ常食ト  
スル故ニ其不幸ニ罹ルヲ稍ヤ鮮カキ  
然リト雖モ右天災ノ結果ハ忽チ政治上ニ顯ハレ第一月

初旬ヲ以テ議院ヲ開キタルニ衆議眞皆一時変ニ感動シ穀物并ニ各種食用品ノ禁輸入法ヲ解キ又舊航海法ヲ全廢シ以テ目下ノ急ヲ救済セサルヘカラサルヲ觀察セリ是故ニ一千八百四十七年ノ會議ニ於テ先ニ二個ノ條例ヲ議決シ以テ右ニ法ノ廢棄ヲ確定セリ其他又タ同會議中議院ノ議決シタル政策アリト雖此等ハ右第一号ニ号ノ二條例ヲシテ實地ニ其效ヲ著シクセシムルニ欠クヘカラサルヨリ出ル者ナレバ只之レヲ第二位ノ政策ト名クルモ可ナリ而シテ其政策ノ一二ヲ舉ケレハ則チ愛耳蘭ノ貧民ヲ救済スル為メニ設クル所ノ條例(一千八百三十三年ノ濟貧律ノ奇異ナル後嗣是レナリ及ヒ持ニ此凶歉ノ慘毒ヲ可成丈輕減スルノ目的ニテ八百万封度ノ公債ヲ募集シ且ツ之レヲ適用スル所ノ條例ノ如キ

是ナリ)夫レ此凶歉ノ慘毒タルヤ一千八百五十一年ノ報告ニ據レテ該國ノ人民ニテ死去或ハ逃奔セシ者約千五百万人ノ多キニ及ヘリ然レニ此凶歉天災ノ結果ハ特リ政治上ニ止マラス又々等シク慘毒ノ結果ヲ理財上ニ生スルニ至レリ而シテ其理財上ノ結果タルヤ二三ノ達觀者ハ之レヲ預知セシト雖氏實地商業ニ從事シ此ノ如キ結果預知スルト預知ヤサルトニ巨大ノ利害ヲ有スル商賈輩ノ全ク意外ニ起リシハ奇異ト言ハサルヲ得ス抑モ馬鈴薯ノ收穫ニ凶歉ヲ告グルノ極度ヲ確認シ得ヘキ時期ト為リシヤ實貨幣ノ流通ト諸國間ノ貿易トヲ制理スル所ノ理財法ヲ熟知スル二三ノ達觀者ハ則チ一千八百四十四年ノポール制定銀行條例ニ係ラズ數月ノ中ニ英國ノ流通紙幣非

常ニ減縮シ從テ理財上ニ恐慌騷擾ヲ惹起シ終ニ破産零  
落ノ慘狀ヲ商人社會ニ見ルニ至ルヘキヲ明知セリ  
世ノ達觀者ハ皆十一千八百四十四年銀行條例ノ制定ヲ  
以テ当局者ノ一大失錯ト思惟シ而シテ其建議者勸奨者  
ノ榮譽ヲ害スルノミナラス實地施行上ニ於テ必ラス鉅  
去スヘカラサル障礙ニ逢遇セサルヲ得スト論述セリ人  
若シ是書ヲ通觀スルハ余モ亦タ其論者中ノ一人タル  
ヲ証明スルヲ得ヘシ

註 是書ノ記者ハ讀者ニ向テ此主義ニ就キ一千八百四  
十七年二月出版ノ「ブリヂス、コーターリト、クビウ」雜誌  
中通貨論ト題スル論說ヲ通觀アランコトヲ請フ其論說  
ハ則チ余ノ記スル所ニシテ篇中將ニ來ラントスル財  
政上ノ恐慌騷擾ヲ可成文明瞭ニ指示シ又タ一千八百

西十四年決議銀行條例ヲ將來ニ維持シ得ヘカニサル  
ハコトヲ預言セリ  
馬鈴薯ノ收穫凶歉ノ全損害已ニ人目ニ明カナル事實ト  
ナリシヤ從テ忽チ此ノ國ニ穀物及ヒ各種食用品ノ非常  
ナル輸入ノ意起スルコトノ疑フヘカラサレヲ見ル抑モ此  
ノ需用タル突然非常ノ需用ニシテ豫メ期待シタル需用  
ニアラサルカ故ニ右不意ノ穀物輸ニ對應シテ物品ヲ輸  
出スル能ハサルヤ明ラカナリ已ニ物品ヲ輸出スル能ハ  
ストスルハ從テ貿易權衡ノ此ノ國ニ不利ナルヨリ生  
シタル差金ハ金銀ヲ輸出シテ之レヲ補償セサルヲ得ス  
金銀ヲ輸出スルハ必ラス大ニ英國銀行ノ準備金ヲ減  
額スルニ該銀行ノ準備金甚シク減少スルヲ遭ハ、一千  
八百四十四年ノ銀行條例ヲ停止スルノ已ニ得サルニ

至ルヘシ若シ之レヲ停止セサレハ全商會社ヲシテ不測  
ノ困難ニ陥ラシムルヲ免カレサルヘシ夫レ将来ノ成果  
ニ就キ右余カ見解タルヤ荒唐無稽ノ妄説ニアラス大ニ  
據ル所ノ理由アリテ然ルモノナリ然レモ其理由ハ余輩  
今ヨリ十年ノ後チ銀行條例第二停止ヲ論述スル時ニ於  
テ之レヲ畧陳セント欲ス今斯ニ於テハ左ノ事實ヲ序述  
スレハ十分ナリト信ス金銀ノ海外ニ濫出スル愈々甚シ  
ク之レカ為メ一千八百四十七年一月十四日ニ於テ巴ニ  
英國銀行其割引ノ歩合ヲ増シテ三分五厘トナシ同月二  
十一日ニ於テ又夕四分トナセリ然レモ金貨濫出ノ勢ハ  
猶ホ漸次増進ノ態ナリ故ニ一千八百四十六年十二月二  
十六日ニ於テ英國銀行ノ準備金ハ一千五百零九万封度  
ノ巨額ナリシモ一千八百四十七年三月二十日ニ至テハ

一千二百九十万零三千封度トナレリ而シテ金貨ノ需用  
依然トシテ少シモ減スルヲナシ此ニ於テ特リ商業社會  
ノ恐怖スルノミナラス該銀行支配人モ亦々大恐懼シ同  
年七月八日ニ其割引歩合ヲ増シテ五分トナセリ其明年  
ノ春ニ至リ物品輸出ノ増加シタルカ為ニ自カラ稍々  
貿易ノ推衡ヲ恢復スルヲ得タリ然リト雖モ是レ久シク  
持續スヘキ景況ニアラス其年末ニ至テハ穀物及ニ各種  
食用品ノ未曾有ノ大輸入ヲ惹起スルヤ必セリ然ルニ租  
稅卿ハ之レヲ觀察スル能ハス愚カニモ右貿易推衡一時  
ノ恢復ヲ賴ミ適ニ人民ヨリ總代人ヲ同卿ニ送ル時機ノ  
後レサルニ當テ政府ノ遠ニ一千八百四十四年制定銀行  
條例中英國銀行ノ紙幣發行ニ係ル條目ヲ停止セラレン  
トヲ請願シタルヲアルモ及テ之レヲ蔑視シ其請願ヲ受



理ヤス帝ニ之レヲ受理セサルノミナラズ、總代人ノ開陳  
スルカ如キ危害ノ将来ニ起ルヲ辨駁セリ、押モ租税卿  
、チヤールレス、ウード氏ノ無智無識ニシテ時事ニ暗キヤ  
此ノ如ク其レ甚シ吾人ヲシテ殆ント其愚ヲ信スルニ難  
カラシム然リト雖モ該請願ノ此ノ如キ取扱ハ則チ是危  
險ノ時ニ在テ同氏ノ自カラ正當ト思惟シ或ハ他ヨリ斯  
ク勸奨セラレテ行フタル処分ニ外ナラサルヲ如何セン  
一時物品輸出ノ増進シタルヨリ金銀ノ濫出ヲ潔キ止メ  
タルヤ吾人ノ期待ヤシ如ク果シテ殆ントも全夏季中其權  
衡ヲ持續シ得タリト雖モ已ニ秋季ニ至テ穀物ノ輸入再  
ニ増進シ從テ金銀ノ濫出又々甚シキ増進ノ勢ヲ顯セリ  
是故ニ八月二十日英國銀行支配人ハ交換期限ノ向フ一  
箇月以後ニアル諸手形ノ割引歩合ヲ騰貴シ五分五厘ト

ナシ交換期限ノ向フ二箇月以後ニアル諸手形ノ割引歩  
合ヲ昂騰シテ六分トナセリ然ルニ金貨ノ需用益々増進  
スルノ勢ニナルカ故ニ同月五日ニ支配人ハ各種諸手形  
ノ最小引歩合ヲ五分五厘ト定メリ此時ニ當テ小麥ノ價  
直ノ下落セシ景況ヲ熟考シタル人ハ勿論苟モ此ノ如キ  
理財上ノ變動ヲ思考スル才能ヲ有スル人々ハ必ラス皆  
ナ財政上ノ恐慌騷擾ノ當時ニ免カルヘカラサルヲ觀察  
シタルヲ信ス左ノ表ハ三月ヨリ十二月ニ至ル穀物ノ價  
格表ナリ蓋シ十二月ニ於テハ穀物ノ輸入已ニ甚シク増  
進シタルヲ見ル夫レ此時ニ當テ通貨ニ非常ノ減縮ヲ生  
シタルカ故ニ從テ英國產物品ノ通貨上價直ヲ甚シク内  
外ニ下落セリ吾人若シ此情況ヲ觀察スル時之レニ次テ  
發生シタル財政上ノ困難ハ驚クニ足ラサルヲ知ルヘシ

英國ニ於ケル小麥大麥燕麥ノ平均價直

一千八百四十七年	志	片	片	志	片
三月	七五	四四	五二	八	三
四月	七五	四四	四九	五	三〇
五月	八八	九	五二	一一	三三
六月	九二	一〇	五二	一一	三四
七月	七九	二	四七	八	三一
八月	六六	三	四〇	三	二九
九月	五二	九	三三	三	二三
十月	五四	九	三二	九	二二
十一月	五三	三	三三	一	二三
十二月	五二	三	三〇	九	二一

貿易ノ景氣愈々衰頽シ金銀益々濫出シテ止マサルカ故  
 九月二日ニ於テ銀行取締後ハ十月十四日迄ノ如キ短  
 期ナルモ五分以上ノ利息ニテラサレハ政府証券ノ抵當  
 ニテ貸附ヲ為スコトヲ拒辞ヤリ又夕同月二十二日ニ至リ  
 交換期限三箇月ノ後ニアル諸手形ハ其割引ノ歩合ヲ騰  
 貴シテ五分五厘乃至六分トナセリ英國銀行ノ金銀準備  
 愈々減少セシカ故ニ人民ノ疑懼愈々甚シク幾ント限リ  
 ナキ恐慌騷擾ヲ財政上ニ現出スルニ至レリ此ニ於テ人  
 心恟々行ク所トシテ禍將ニ到ラシトス人宜ク其力ノ及  
 フ丈ケ各自ヲ保護スヘシトノ歎声ヲ聞カサルハナシ而  
 シテ終ニ全國ヲ舉テ紙幣交換要求騷擾下金融閉塞疑懼  
 恐慌ノ慘状ヲ現スルニ至ルヲ見ル其情勢已ニ斯ノ如キ  
 ヲ以テ十月一日該銀行取締後ハ貸借期限ノ如何程短期

ナルモ政府証券ノ抵当ニテ貸附ヲ為スルヲ拒辞シ又  
 諸手形ノ割引トテモ其歩合ノ如何ニ拘ハラズ最モ鞏固  
 ナル性質ノ手形ニマテサレハ之ヲ割引スルヲ肯セサ  
 ルニ至レリ然リ而シテ十月下旬トナルモ右危殆ノ情勢  
 ハ愈々増進シ諸銀行者ノ破産困難愈々増進シテ恐慌騷  
 擾日々愈々甚シキニ至ルコトニ於テ十月二十五日取締  
 役ハ又ハ其割引ノ歩合ヲ昂騰シテハ分トナセリ  
 情勢已ニ斯ノ如キヲ以テ執政者ハ一千八百四十四年ノ  
 制定ビール銀行條例ヲ停止セサルヲ得ス若シ之レヲ停  
 止セサルハ全國ノ商業社會必ラス非常ノ困難ニ切迫  
 シ從テ國內一般ニ商業ノ活動ヲ見サルニ至ルヘシ是レ  
 僅々ノ愚人ヲ除クノ外既ニ公衆ノ明知スル所ナリ且ツ  
 此ノ決案タルヤ理論上ニ實際上ニ然ラサルヲ得サルモ

ナリシ其故何トナレハ十月二十五日ニ至ルマテ恐慌  
 騷擾ノ情勢ハ日々愈々緊急ニシテ益々擴充シ終ニ各商  
 人皆ナ自己ヲ鞏固ニスルノ策ヲ執リ若シ領得セラルヘ  
 キ貨幣アルハ損失ヲ歴ハス互ニ先ヲ争ヒ猶ホ之レヲ領  
 スルノ時ニ到ラサルモ早ク已ニ之レヲ占ムルニ至レリ  
 左ノ表ハ即チ英國銀行金銀準備ノ減少ニ從テ該銀行流  
 通紙幣ノ減縮(但シ準備金ノ減少スルニ從テ又ハ流通紙  
 幣ニ減少ヲ生スルハ即チ一千八百四十四年ノ銀行條例  
 ニ由テ制定スル所ナリ)トヲ示スモノナリ蓋シ該銀行紙  
 幣ハ此國全通貨ノ由テ以テ主宰左右セラル、所ノモノ  
 ナリ

一千八百四十七年	預金發行、兩課ニ準備 スル金銀地金及貨幣	流通紙幣	割引歩合
	封度	封度	

八月二日	九、三三〇、〇〇〇	一八、八八〇、〇〇〇	五分、五分半、六分
八月五日	九、二五〇、〇〇〇	一八、六九〇、〇〇〇	五分半 但シ葉小歩合
九月二日	八、九六〇、〇〇〇	一八、一〇〇、〇〇〇	五分半ヨリ六分ニ至ル
九月二十三日	八、七八〇、〇〇〇	一八、〇八〇、〇〇〇	五分半ヨリ六分ニ至ル
十月一日	八、五六〇、〇〇〇	一八、七一〇、〇〇〇	五分半ヨリ八分ニ至ル
十月二十五日	八、三一〇、〇〇〇	銀行條例停止	八分

上文ニ陳述セシ所ノモノハ即チ一千八百五十七年十月二十五日ニ於ケル通貨上ノ情勢ナリ人若シ英國銀行ノ流通紙幣カ減縮シテ一千九百万封度ナルハ一千八百四十六年以來既ニ其例ヲ見タル如ク此國ノ尋常貿易忽チニ困難切迫スルヲ覺知シ而シテ英國銀行ノ流通紙幣ニ若干封度ヲ減縮スルハ必ラス全國ノ通貨ニ其三倍ノ減縮ヲ生スル事實ヲ思考セハ自々々當時ノ執政者ガ此

困難ノ情勢ニ際シ危險ヲ冒シ變化ヲ試行セサルヲ得サルニ至リシ所以ヲ觀察スルニ難カラサルヘシト信ス貨幣上ノ恐慌騷擾已ニ此ノ如ク甚シキニ至テ最モ謹慎有識ノ商人ハ皆チ其商業上ノ取引ヲナスニ尋常ノ商理ニ率由セマス互ニ相疑懼シ甲商貨幣ヲ領得スルハ乙商已レ自カラ之レヲ領得スルノ機會ヲ失ヘリト思惟スルニ至レリ故ニ此時ニ當テ貨幣ハ頻リニ諸人ノ攬領スル所トナリ一大變化アリテ右危險ノ情勢ヲ停止スル時ノ至ル迄ハ人其損失ヲ厭ハス貨幣ヲ領得スルニ熱心スルヲ免カレサルヘシ然リ而シテ當時ノ商業社會ハ斯ク危殆ノ情勢ニ逢過シ自カラ彼ノ「カルタ」<sup>ブラック</sup>ニ於テ逐次ニ幽死セシ不幸ナル英人ト今マ同一ノ場合ニ居ルノ思ヲナスモノ、如シ抑モ該黒穴ニ幽死セシ狀況ヲ見ルニ

最モ窓ニ近キ所ニ居ル人々ノ空氣ヲ呼吸スルヤ則チ窓  
ニ遠キ所ニ居ル人々ノ空氣ヲ呼吸スルノ幸ヲ減却シ終  
ニ酸素全ク吸收シ盡サレ人々逐次ニ窒息幽死シ其明朝  
ニ於テ猶ホ生キ残ルモノハ僅々四五人ナリシ是レ一千  
八百四十七年理財上ノ恐慌騷擾ニ逢遇シタル各商人ノ  
困難ニ正當ノ譬喩解明ナリ故ニ八月ノ下旬ニ至ル迄苟  
モ右ノ情勢ヲ曉通スル人々ハ政府ノ早晚必ラハ干涉セ  
サルヲ得サルヲ確認シテ疑ハサルナリ而シテ疑ヲ存  
スル所ハ政府果シテ何日ニ干涉スルヤコアリ仮令兵力  
ニ訴フルモ到底政府ノ干涉ヲ試ミサルヲ得サル事ニ至  
テハ疑ヲ容レサルナリ然リト虽モ「サト、ロベルト、ピール  
氏(但シ同氏ハ當時執政者ノ謀議セシ所タルヤ疑ヲ容レ  
ス)及ヒ其黨与(但シ所謂ル改進黨ノ領袖多ク此ノ黨与中

ニアリ)皆チ傲慢ニシテ強情ナレハ其自定シタル銀行條  
例ヲ以テ嘗テ其最モ有益ノ效果ヲ生スルノ期ト言ヒシ  
時ニ當テ自カラ之レヲ廢スルヲ屑トセサルヘシ然ラハ  
此ノ輩ハ何時迄其停止ヲ猶豫シ右恐慌騷擾ノ情勢ヲ放  
任シテ干涉ナサル乎ニ至テハ何人モ斷言シ能ハサリ  
シ所ナルヲ知ルニ至ルハ其時ニ至ルハ其時ニ至ルハ其時  
然リト雖モ十月二十五日ニ至テ終ニ政府ノ干涉ノ斷行ニ  
逢遇セリ夫レ政府此時ニシテ干涉ノ政策ヲ舉行スルニ  
アラスシハ倫敦府諸私立銀行者其貸借差金ノ金額ヲ英  
國銀行ヨリ取去ルノ結果ヲ見ルハ英國銀行取締役ノ既  
ニ當時ノ議者ヨリ暗示セラレシ所ニシテ取締役ヨリ又  
々租稅御并ニ其同役ニ報知セシ所ナリ蓋シ該差金タル  
々其平均額數二百万、封度ト三百萬野度トノ間ニアリ此

時ニ當テ復令二百万封度ヲ英國銀行ヨリ引去ルモ其結果ハ必ラス全商業社會ニシテ失神ノ状態ニ沈淪セシムルニ至ラン更ニ之レヲ明言スレバ商業社會ヲシテ商業ノ活動ヲ失ハシムルニ至ラシ是レ國家ノ滅亡ト云フモ敢テ過言ニアラサルヘシ其故何トナレハ商業社會カ失神ノ状態ニ沈淪スルモ國ハ固ヨリヒツサルヘシト雖モ現行政法ハ必ラス之レカ為メ癒治スヘカラサル中風症ニ罹リ終ニ顛覆ニ至ルヘキカ故ナリ当時英國政府ハ則チ此危殆ニ逼迫セリ其顛覆ヲ免カレント欲セハ一千八百四十四年ノ銀行條例ヲ停止セサルヲ得ス故ニ右ノ情勢ヨリ必然ノ成果ハ「ジョーンズ」名ヲ以テ英國銀行取締役ニ該條例ヲ奉スルニ及ハサルコトヲ命スル内閣令ノ發行是ナリ

右内閣令ノ發行ハ其後ニ非常ノ效果ヲ發生セリ乃チ英國銀行ハ之レカ為メ低廉ノ歩合ニテ自由ニ諸手形ヲ割引スルカ故ニ其紙幣ヲ製造スルカ為メ該銀行ノ紙漉車ハ殆ント運動ノ休息スル時ナキニ至レリ而シテ豪商及テ諸割引所モ今ハ請求ニ應シテ自由ニ貸附ヲナシ割引ヲ為ストトハナレリ此ノ如クニシテ人心忽チ變化シ昨日迄ハ恰モ食人者ノ如ク其隣人ヲ殺シテ一時タリ已カ生命ヲ延ヘント企圖セシ者モ今日ハ再々正真正正人類ニ復歸シ而シテ恐慌騷擾全ク其終ヲ告ケルニ至レリ抑モ此ノ危運ノ為メ各個人ノ損害セシ多少今マ之レヲ推算スルモ其益ナカルヘシ蓋シ其損害高ナルヤ其大抵ヲ推算シ得ヘシト雖モ其推算ノ根據ニ至ルニ十分ナル事實ノ今日ニ證スヘキモノナキヲ如何ヤ然レモ其損

害ノ巨大ナリシハ之レヲ想像スルニ苦マサルナリ  
一千八百四十七年ニ於テハ通貨上ノ非常ナル變動変化  
ハ則チ上文ノ如シ而シテ其他ニ該年ノ財政史ハ愛耳蘭  
ノ貧民救助ノ為メ國債ヲ募集シタル事ノ外皆ナ尋常通  
例更ニ異状ナシ夫レ國內ノ人民皆ナ貧苦難渋ナリシカ  
故ニ從テ政府ノ歳入ニ減額ヲ生セリ乃チ一千八百四十  
六年ニ集收費ヲ除テ五千三百七十九万零一百三十八封  
度ナリシカ一千八百四十七年減額シテ五千一百五十四  
万六千二百六十四封度トナレリ又々人民ハ外國ニ移住  
スルモノモ前年ニ比スレハ無論非常ニ増加セリ乃チ移  
住表ニ據レハ一千八百四十六年ノ移住民ハ其數僅々千  
二万九千八百五十一人ナリシニ一千八百四十七年ニ於  
テハ二十五万八千二百七十人ノ多キニ及ヘリ又々人民

ノ甚シク貧苦難渋ナリシカ為メ同年著シク人口ノ増殖  
ヲ慫慂シタル效果ナルヲ見ル蓋シ人類其生活貧苦難渋  
ニシテ人口ノ繁殖ヲ見ルハ即チ上帝自然ノ法ナリ夫レ  
一千八百四十七年間婚姻ノ數ハ前年ニ比シテ著シク減  
少セリ乃チ一千八百四十六年中ニ婚姻ノ數十四万五千  
六百六十四個ナリシカ四十七年減シテ十三万五千八百  
四十五個トナレリ然リト雖モ凶歉饑饉ノ人口繁殖ヲ慫  
慂スルマ實ニ非常ニシテ大ニ結婚ノ減少ヨリ生スル所  
ノモノヲ補償スルニ餘リアリ乃チ一千八百四十六年ノ  
出産高五十三万九千九百六十五人ナリシカ一千八百四  
十七年ノ出産ハ五十六万三千零五十九人ナリシヲ見ル  
然リト雖モ當時人民ノ斯ノ如ク困苦難渋ナリシマ特リ  
歳凶歉ニ由ルニマテス一千八百四十六年ニ於ケル鉄

道建設投機ノ泡沫ノ破烈シタル效果ニ由テ大ニ其難澁  
ノ度ヲ増セリト言フモ也シテ其正論失ヌルモノニア  
ラス

一千八百四十八年ハ吾人ノ預メ期待セシ如ク果シテ財  
政上ニ早ク已ニ不祥ノ妖雲ヲ現出セリ抑モ一千八百四  
十七年ノ歳出ハ歳入ニ超過スルヲ大數三百萬(即チ二百  
九十五萬六千六百八十四封度)封度ナリシ此ノ歳入不足  
タル固ヨリ速ニ之レヲ補償スルノ道ナカルヘカラスコ  
トニ於テ執政者ハ二ヶ年ヲ限り産業税三分乃至五分  
ニ増進シテ歳入ノ不足ヲ補償スルノ建議ヲ為セリ然レ  
氏此ノ如キ建議ハ決シテ公衆ノ是認セサル所ナリシノ  
ミナラス反テ徒ニ其不満ヲ惹起スルニ過キス夫レ産業  
税タルヤ此課税法ヲ始メシ時ヨリ既ニ輿論ノ不正ナル

性質ノ税法タルヲ喋々セシ所ナリ故ニ「サ、ロベル」  
氏ガ現行産業税ヲ舉行スルニ當テモ唯三箇年ヲ限り  
之レヲ行コノミト云フカ如キ詐偽ノ方畧ニ由テ稍ヤ之  
レヲ實行シ得タルナリ而シテ「サ、ロベル」氏ガ該課税  
法ノ實行ニ就キ主張セシ理由ハ唯「當時ノ歳收缺乏ヲ  
補填スルニ已ムヲ得ヌ云フニ外ナラサリシ同氏嘗テ云  
ク如何ナル場合ニ於テモ如何ナル等級ヲ設クルモ公平  
無偏ノ分等産業税ハ到底實際ニ行ハルヘカテサル事ナ  
リト同氏スラ猶ホ且ツ然ラ然ラハ則チ公衆ノ之レヲ一  
時已ムヲ得サル不正ノ課税法トシテ認許シタルヤ疑  
容レサルナリ是故ニ今該課税ヲ増シテ五分トナサン  
ヲ建議シタルヤ忽チ物議ヲ惹起シ民心ヲ激怒シ轟々噴  
々其不是ヲ鳴ス至リ其之レヲ鳴スノ甚クキヤ時ノ大



政大臣「ロルド、ジョン、ラセル」氏モ大ニ志縮シテ世議ヲ避ケ  
シ「フ」ヲ企圖セリ是實ニ危急ノ時ト言ハサルヲ得ス何ト  
ナレハ此ノ時ニ於テ人民カ該課稅ヲ不公不正ノ稅ト認  
ムル「フ」ノ甚シキヤ其現行ノ割ニテ之レヲ持續スルモ猶  
ホ危キカ如クナレハナリ茲ニ於テ終ニ当局者ハ租稅院  
券一千七百万封度ヲ發行シ及ヒ二三姑息ノ政策ヲ施シ  
以テ一時ノ急ニ應ジ而シテ同年ノ内貿易ノ回復スル「フ」  
アリテ國庫ノ缺乏ヲ補償スルニ至ルヘシト期待セリ然  
リト雖兵實際ノ景況ハ稍ヤ其期望スル所ノ如クナラサ  
リシヲ見ル

佛蘭西日耳曼伊太利ニ於ケル政黨ノ情勢ハ英國内閣ノ  
父シク安カラヌ事ニ思ヒシ所ノモノナリ夫レ佛國路局  
「フ」リッ「フ」ハ一千八百三十年ノ變革ノ後ニ彼ノ懦弱執迷ナ

ル暴主「チャールズ」十世ニ續テ實位ヲ踐ミシカ今マ其覆轍  
ヲ踐シトスルニ至レリ抑モ「ナポレオン」ノ佛國ヲ統治セ  
シ時ニ當テマ希世經綸ノ大材能ク國ノ財政ヲ整理シ其  
統治ノ間ハ佛國ノ財政ヲシテ其民ニ最モ安全幸福ナル  
情況トナラシメリ一千七百九十三年ニ變革アツテ為メ  
ニ政府債ノ殆ント全額ヲ鋤除セリ蓋シ政府債ハ則チ該  
變革ノ原因ナリシヲ知ル而シテ其後ニ殘リシ僅々ノ國  
債ハ「ナポレオン」ガ嘗テ首領政治ヲ顛覆セシ時ニ於テ  
盡ク之レヲ銷還セリ此ノ如クニシテ該帝統治ノ間ハ佛  
國ニ國債ノ負擔ナカラシメタリ然リト雖モ該帝「エ」  
「バ」島ヨリ歸リ終ニ「ワ」トル「ロ」ニ敗績シタル後ニ至リ  
同盟諸國ハ此ノ機會ニ乘シ佛國ノ國力ヲ挫折セント決  
定シ此ノ殘忍ナル目的ヲ遂クルニ最良ノ方畧ト思惟シ

巨重ノ貢金ヲ佛民ニ課シ復王路易十八世ヲ強迫シテ國  
債ヲ募集セシメタリ茲、於テ佛國、其國債ヲ負擔セ  
リ此レ是後ニ起リシ变革ノ原因ナリ路易十八世及ヒ其  
後嗣「チャールズ」十世統治ノ間ニハ國債稍ヤ増加スト雖  
著シキ増額ヲ見ス又タ一千八百三十年ノ变革ノ如キ之  
レヲ專ラ國債ノ然ラシムル所トスルハ未タ其正鵠ヲ得  
タルモノニアラス何トナレハ該变革タルヤ人民ノ自由  
ト足ルヲ知ラサル專制政府ノ專制權トノ間ノ爭鬪ニ外  
ナラサレハナリ然リ而シテ路易「ピルプ」<sup>ル</sup>「ピルプ」<sup>ル</sup>十世ニ  
繼テ位ニ即キシガ此王モ亦タ先主ト均シキ不幸ニ逢遇  
セリ抑モ路易「ピルプ」<sup>ル</sup>王ハ公然人民ノ自由ヲ妨害セスト  
雖ハ隱然賄賂ヲ用ヒテ以テ自己ノ勢力ヲ維持セント企  
圖ヤシカ故ニ巨額ノ金ヲ浪費濫用スルヲ免カレス茲ニ

於テヤ忽チ公債ヲ増シテ二倍トナセシムナラズ所謂  
ル町人<sup>シキ</sup>王ノ施政費<sup>シキ</sup>世人此王ヲ混名シテ町人王ト云ノ如  
キモ亦タ暴増シテ「ナホレオン」ガ佛蘭西伊太利「ヒードモ  
ント」白耳義和蘭及ヒ「ライン」河ニ濱スル地方等都テ當時  
佛蘭西帝國ノ中ニ含有セシ廣大ノ國土ヲ統治シタル時  
ニ於ケル施政費ニ殆ント二倍ノ巨額ニ達セリ是レ皆ナ  
人民ノ膏血ヲ以テ支辨スルモノニアラサルハナシ然レ  
此ノ如ク甚シク其膏血ヲ絞ラレハ佛人ノ未タ嘗テ  
經驗セサル所ナレハ政府ニ向テ不懣ヲ鳴スヲ免カレス  
然リ而シテ其他ニ又タ人民ノ不懣ヲ増スヘキ情勢ノ多  
ク偶發シタルヨリ其結果ハ即チ一千八百四十八年ノ叛  
亂变革ヲ来セシヲ見ル  
右佛國ニ於ケル变革ノ亂タルヤ英國ノ宰相及ヒ一千八

百十九年以來常ニ各宰相ヲ左右セシ國會改負等ノ既ニ  
遠ク前ヨリ先見豫知スル所ナリシカレバ其変乱ノ近キ  
ニアラントスルヲ見テ甚シク恐怖周章セリ蓋シ政治上  
ノ情勢佛國ニ於ケルカ如キニ至ラハ必ラス政府ノ顛覆  
ヲ醸生スルニ至ルヲ知ルカ故ナリ然リ而シテ當時我國  
ノ執政者ハ又々皆ナ貧民救助法ハ壓制ノ大懣氣辨タル  
ヲ知ルカ故ニ佛國ニ此ノ法ノ設ケナキニ驚キ特リ此ノ  
法ノ設ケナキニ驚クノミナラス町人王奢侈且ツ貪欲ニ  
シテ益々人民ノ膏血ヲ絞ルカ為メ飢餓・迫リ不懣ヲ抱  
クノ貧民其活路ヲ得ント欲シ巴里府ニ群集スル者日ニ  
益々多キヲ加フルヲ見テ悚然其禍機壞裂ノ遠カラサル  
ヲ憂慮セリ且ツ此ノ時ノ遺産分散法ハ今日猶ホ佛蘭西  
ニ行ハル、モ當時之レカ為メ該國ノ實力ニシテ常ニ其

干城タルハキ地主ノ三百五十万人ノ破産零落ノ有様ニ  
逢遇セシメタルハ世人ノ皆ナ知リシ所ナリ蓋シ佛國ニ  
此ノ法律アルカ故ニ長子タル者ハ孳子皆ナ其諸弟  
ノ産ヲ購買スルカ為メ其所有地ヲ抵當質入セサルヲ得  
サルニ至リ之レカ為メ地主ノ費用大ニ増シルビコン氏  
ノ推算スル所ニ據レバ乃チ地租ニ抵當ノ利息及ヒ證印  
稅ヲ加ヘテ之レヲ佛國ノ全地子ヨリ減スルトキハ地子  
モ驚クハク減少シ地子全額ハ六千三百万封度ナルニ地  
主ノ領收スル所ハ僅々一千四百万封度ニ過キサルヲ見  
ル茲ニ於テ事物ノ情勢漸ク巴里府倫敦府ニ於ケル「  
又教徒及ヒ諸株券賣買人ヲシテ恐懼ヲ懷カシムルノ場  
合ニ推移シ变革ノ動乱邑ニ佛國ニ破裂セシトス一度ニ  
其破裂スルニ當テヤ其機會ニ乘シ一千八百一十五年中ニ

「マテルニツケ」カスレ、「子セルロツト」ハルデシ「アルク」ノ募集  
シタル國佛國ニ鋤去ス、其レ誰人ハル、問ハスルイ  
ス、ヒリッブニ繼テ王トナルモノ、利益タルヤ瞭然トシテ  
明カナリ其故何トナレハ該國債ヲ鋤去スルキハ之レカ  
為メ特リ國王ヲシテ國內全地主ノ保助ヲ得セシムルハ  
ミナラス又夕佛國ヲシテ政州第一ノ強國ナラシムルニ  
至ルカ故ナリ夫レ佛國ノ株式取引所ニシテ倒ル、ア  
ラハ埃太利和蘭ノ株式取引所モ之レト共ニ滅亡セサル  
ヲ得サルヘシ而シテ右取引所ノ皆ナダナルニ至ラハ英  
國ノ株式取引所モ之レニ繼テ亡アヘキヤ然ラサルヤノ  
問題ニ至テハ當時株式ノ取引ニ關係セシ人々ノ頗ナル  
恐懼戰慄セシ所ナリ  
一千八百四十八年二月十四日ニ於テ世人ノ喋々先言セ

シ変革ノ動乱終ニ破裂シ其騷擾昂ノ沸クカ如ク巴里府  
ノ諸街道皆ナ保障ヲ築キ柵欄ヲ設テ行通ヲ塞カル、  
至レリ然レ此ノ時ニ王ハ既ニ全ク民望ヲ失シ殆ント  
獨夫ノ状態ナレハ唯タ一時ノ戦ニシテ其勝敗ヲ決シ君  
権黨カ「ア」レンスノ女公ヲ推シテ攝政ヲ府ヲ設立ヤン  
ト試ミタルモ成ラス終ニ共和政治ノ設立ヲ布告スルニ  
至レリ佛國ノ公債ハ此時ニ鋤去セラル、ナラント思ヒ  
ノ外天猶ホ之レヲ鋤去スルヲ欲セサリシモノカ恰モ英國  
ノ國債政策カ不思儀ニ再三其滅亡ノ免カレタル如ク終  
ニ其滅亡ヲ此時ニ逃レタリ蓋シ「テ」ルチン氏（同氏ハ之）  
ヲ政治家ト稱スルヨリモ寧ロ詩人ト評スルヲ適當ト信  
ス之レカ領袖タル假新政府アルモ更ニ國債ノ処分ヲ企  
圖セズ國會アルモ瑣々タル紛論爭議ニ專心ヲ苦メ時

ヲ費シ賢良ノ大統領ヲ撰定スルヲ怠リ茲ニ於テ「レオ」三世ハ「ボナパルト」ノ英名ノ光ヲ藉テ終ニ大統領トナリ久シカラズ好機會ヲ得テ國會政治ヲ顛覆シ一時皇帝ノ位ヲ踐メリ一度ヒ皇帝ノ位ヲ踐ミシヤ其人民殊ニ佛國ノ骨髓ニシテ其子弟ヲ以テ常備軍ヲ編成セル地主ヲ已ニ歸服セシムルノ策ヲ運ラサスシテ六十万ノ砲兵ニ由テ保護セラル、專制主義ノ僧侶株式取引所ノ賭徒紙幣取引ノ商人公債証書并ニ株券ノ賣買人等ノ好意ヲ得シ「ト」ヲ勉メリ夫レ皇帝ノ此政畧ヨリ如何ナル成果ヲ生スヘキ乎ハ識者ヲ待タスシテ明ラカナリ

二月ノ二十二日巴里府ノ動乱ニ次テ發生セシ時變ノ狀勢ハ一時頗ル壓制權ヲ全歐洲ニ波及スルノ效果ヲ顯ハセリ當時英國ノ執政者ハ之レヲ觀テ竊ニ驚懼シ此變

ニ應ヌルニ「レ」謹慎主義ヲ以テスルニ如ク今セシト思惟シ一千八百三十年七月佛國ニ變革アリシヲ敢テ之レニ干涉ヤス謹慎主義ヲ執リ及テ之レヲ是認シ右變革政府ノ君主町人王ト親睦ノ誓ヲ為セリ一千八百四十八年二月該國ニ於テ舊政府ヲ顛覆シ共和政府ヲ設立セシ時ニモ敢テ之レニ干涉セサルノ「レ」ナラス同シク謹慎主義ヲ以テ之レヲ是認シ「ラマルチン」ト「ドリスノウ」ロル「ルイ」ブラシク其他ノ嚴共和政黨ト親睦ノ誓ヲ為セリ蓋シ我政府カ此ノ如ク進取ノ氣力ヲ失ヒシモノハ他ナシ一千八百十九年ニ紙幣交換條例ヲ制定シタルカ為メ兵力ヲ以テ佛國ノ變革主義ヲ鎮壓スル勢力ヲ全ク挫折シタルニ由ル是故ニ理財家中「カテル」ト「ボ」トモ評スヘキ「ロシ」マ「コ」レ「ト」氏ヲ除クノ外夜令此時佛國ノ變革ニ干

涉シテ其結果ニ「ボルボン」朝ノ回復ヲ見ル。為メニ國債  
ヲ十六億封度ノ巨額ニ暴増シ六千万封度乃至七千万封  
度ノ利息ヲ引換ノ割合毎「オンス」三封度十七志十片半ノ  
本位ニ金貨ニ秤量セラレシ通貨ヲ以テ支辨スルハ我國  
民ノ猶ホ負擔シ能フ所ナリト妄想セシモノアルヲ知ラ  
ス干涉主義ノ當時ニ行ハルヘカラサルヤ此ノ如シ故ニ  
恭順主義ヲ取り「ボナバルト」如キ者ヲシテ以來佛國ノ  
地ヲ踏マシメサルヘキヲ締盟シタル維也納條約ヲ全廢  
スルノ外他ニ又々如何トモスル能ハサリシ此ヲ以テ我  
政府ハ竊ニ此ノ恭順ノ策ヲ行ヘリ蓋シ其之レヲ行フニ  
容易ナルヲ故ナリ  
一千八百四十七年八月通貨上ニ生シタル危險ハ其惡果  
ヲ一千八百四十八年及ヒ一千八百四十九年ニ流ゼリ其

惡果タルヤ一千八百四十九年中貿易ノ不景氣ナリシカ  
為メ大ニ其慘毒ヲ増セリ蓋シ該年中貿易ノ不景氣ナリ  
シハ一千八百四十八年歐洲各國政治上ノ艱難ニ遇ヒシ  
ヨリ生セシ自然ノ成果ナリ一千八百四十八年十二月ニ  
於テ英國銀行ノ流通紙幣ハ世間ニ貨幣ノ使用減シタル  
カ為メ其流通高減縮シテ一千八百七十四万四千封度ト  
ナレリ當時貿易ノ不景氣ナリシヤ此ノ如ク夫レ甚シ此  
ヲ以テ貧民ハ皆テ傭役ヲ失ヒ殆ント活路ニ迷フニ至リ  
貧困飢餓ニ逼迫スル者ノ許多ナルヤ一千八百四十九年  
一月一日ニ於テ唯獨リ英倫及ヒ「威爾斯」ノミニ寺領ノ救  
恤ヲ受ケシ者九十三万四千四百十九人ノ多キニ達セリ  
之レヲ詳説スレハ窮民ノ數英倫威爾斯全入口ノ每十七  
人ニ就キ殆ント一人ノ割合ナリ此ノ如ク窮民ノ愈々貧

苦難淡ナルニ從テ人口ノ繁殖愈々甚キヲ見ル夫レ一千八百四十八年ニ於ケル婚姻ノ數ハ唯々十三万八千二百三十個ニシテ一千八百四十七年ノ結婚數ニ超過スル甚タ少小ナリ然レモ出産ノ數ハ然ラス一千八百四十九年ニ於ケル出産ノ數ハ五十七万八千一百五十九人ニシテ遠ク一千八百四十八年ノ出産數ニ超過ス蓋シ一千八百四十九年ハ大難歲ノ翌年ナルカ故ナリ然リ而シテ余輩カ上章ニ於テ合本銀行ノ利害ト該銀行ハ少シモ之レカ設立ニ由テ廢棄ヲ企圖セラレシ私立銀行ヨリ鞏固安全ナルモノニアラサル事トニ就キ開陳シタル理由ハ一千八百四十七年ノ危險ニ由テ果シテ其確論タルヲ實證スルヲ得タリ是レ該年危險ノ情勢ヲ觀察シタル人ノ皆ナ知ル所ナラン夫レ財政上ノ損害タルヤ私立銀行者ノ不

謹慎ヨリモ合本銀行取締役ノ魯莽ナル處置ヨリ起ルモノ多キニ居リシヲ見ル是レ其性質ニ就テ觀察スルハ固ヨリ然ルヘキノ事理ニシテ驚キ疑フヘキ事ニアラス何トナレハ私立銀行者ハ其管理スル事務皆ナ自己ノ事ナルカ故ニ其事業ノ盛衰ハ直接ニ其利害ニ關係スト雖合本銀行取締役ハ然ラス唯々僅々ノ株ヲ有スルニ過キサレハ其事業ノ盛衰ニ利害ヲ有スルヲ又々僅ナルカ故ニ其委任セラルルノ事業ノ鞏固安全ニ反對タル取扱ヲナスニ至リ易キヲ以テナリ一千八百四十九年ノ財政ハ一千八百四十七年四十八年ノ財政ニ比スルニ其形狀尋常ニシテ著シキ變動ヲ見ス然レモ同年中ニ發生シタル二三ノ事實ハ其關係甚大ニナリ就中航法ノ全廢ト自由貿易政策ノ行ハルニ時ニ

於ヶ穀物ノ平均價直トノ二事ヲ畧陳ス。モ是著撰ノ  
趣旨外ニアラサルヲ信ス。蓋シ此ノ二事實タルヤ將來ニ  
於テ幾分カノ影響ヲ此ノ國ノ財政ニ及ホスヘク思ハル  
カ故ニ茲ニ之レヲ陳述スルモ決シテ贅言ニアラサル  
ナリ

穀物ノ禁輸入ヲ解キ港ヲ開テ外國ノ穀物ヲ自由ニ輸入  
スルコトヲ許シタレモ猶ホ保護主義ノ法制ニシテ當時ニ  
存行セシ者アリ之レヲ全廢セサルヘカラサルコトニ至リ  
テハ當時苟モ此ノ如キ理財主義ニ明カナル人々多ク皆  
ナ断案セシ所ナリ夫レ穀物禁輸入法ニ廢棄タルヤ固ヨ  
リ已ムコト得サルノ情勢ニ出シモノナリ乃今人口毎三年  
ニ殆ント一百万人ノ割合ヲ以テ増殖スルカ故ニ大ニ我  
外國貿易ヲ擴充スルニアラサレハ数百万ノ力役者其力

役ヲ得ルノ道ナキヤ明ナリ而シテ外國貿易ヲ擴充セン  
ト欲セハ世界中穀物ヲ産スル國々ニ其穀物ヲ我國ニ輸  
入スルノ自由ヲ与フルニアリ何トナレハ其國々ニ向テ  
製造品ノ輸出ヲ増進スルハ其増加輸出製造品ノ代リ  
トシテ穀物ヲ輸入セサルヘカラサルカ故ナリ是レ則チ  
穀物禁輸入法ヲ廢スルコトノ當時ニ止ムヘカラサル情勢  
ナリ然リ而シテ穀物禁輸入法ヲ廢スルノ後久シカラス  
又タ航海法ヲ廢セサルヲ得サルノ情勢ニ至レリ夫レ外  
國ノ穀物生産者ニシテ其商船ノ自由ニ其産物ヲ海運以  
ルノ便ヲ有セサル者我國人ニ向テ汝カ国法律ニ由テ其  
海運ノ業ヲ自國ノ船主ニ專有セシム此レカ為メニ吾輩  
ハ手足束縛セラレタルカ如シ故ニ假令汝輩其製造品ヲ  
我レ送ルモ吾輩ハ如何シテ我カ穀物ヲ汝カ國ニ送り



得へるヤ船舶海運ノ貿易ハ穀物ノ貿易ト均シク自由ニ  
アラサルヘカラサルナリト言ヒシコアラシ其時我カ國  
人ハ如何ナル答辞ヲナシ得タル乎蓋シ英國當時ノ情勢  
ヲ觀ルニ決シテ此ノ如キ論理ニ向テ確答ヲ試ルヘキ國  
情ニアラサルナリ抑モ「コロンセル」ノ航海法ヲ制定シタ  
ル時ニ當テヤ此ノ國ノ輸入品ハ皆ナ榮耀品ニシテ之レ  
カ消費ヲ省カント欲セハ容易ニ省クヘキカ如キ物品ニ  
止マレリ然レモ其輸出品ハ皆ナ外國人ニ必需ノ物品ナ  
リシ乃チ此ヲ詳説スレハ一千七百年代ニ當リテヤ佛國  
ノ葡萄酒精西班牙葡萄酒「ブラジール」ノ組糸「サクソニー」  
ノ貨段「メリノ」ノ羊毛印度ノ絹布「ベネチヤ」ノ玻璃和蘭  
ノ青魚「ボロクナ」ノ臘腸「ニアポリタン」ノ通心麵ノ如キハ  
我カ國人之レヲ消費セサラントテ欲セハ容易ニ省クヘ

クシテ之レヲ輸入セスルハ生活シ能ハサルカ如キモノ  
ニアラスト雖モ英國産ノ錫鉛粗毛布革及テ鉄器ノ如キ  
ハ右ニ掲載スル各國ノ必需品ナリシヲ以テ右海外各國  
ハ一步ヲ我國ニ譲リ我國ノ都合ニ從テ我ト貿易スルヲ  
嘉納セリ然リト雖モ今日ノ輸出入表ハ全ク之レニ反對  
ス今ヤ我國ニ於テ活路ヲ外國貿易ニ依頼スル巨多ノ窮  
民アリ其窮民ノ為メ外國貿易ヲ擴充スルニハ自由船舶  
海運ト自由穀物貿易カ政治上社會上ニ止ムヘカラサル  
情勢トナレリ是故ニ穀物禁輸入法ハ一千八百四十六年  
巴ムヲ得サルノ情勢ニ廢セラレ航海法モ亦之レヲ持  
續セシト試タルニ拘ハラヌ一千八百四十九年同シ情勢  
ニ全廢セラレタリ夫レ右ニ法ノ廢棄ノ結局ノ成果ハ猶  
ホ今也ニ其全豹ヲ見スト雖モ其一班ハ既ニ人目ニ明カ

ナルモノトナレリ  
 港ヲ開テ終ニ外國ノ穀物ニ輸入ノ自由ヲ與ヘタルハ實  
 ニ一千八百四十九年ナリ之レカ為メ生シタル直接ノ成  
 果ハ果シテ當時開港ノ效果ト本位金貨ニ由テ其價格ヲ  
 秤量セラレ通貨ノ結果トヲ觀察稽考シタル人々ノ先言  
 ヤシ所ニ違ハサリシヲ見ル乃テ外國ノ穀物ニ輸入ノ自  
 由ヲ與フルヤ小麥ノ價直ハ忽チ頻リニ下落シテ毎「コ  
 トル」ニ付キ三十六志ノ平均價直ニ至ラントス故ニ若シ  
 國內ノ各市場ニシテ殆ント充分ニ供給セラル、トアラ  
 ハ其價直愈々下落シ「ピール」氏制定紙幣交換條例ニ由テ  
 其交換ヲ回復シタル時ノ價直ニ下落セサルヲ得ス而シ  
 テ燕麥大麥ノ價格ノ如キモ小麥ニ割合シテ下落スヘシ  
 右三種ノ麥三箇年間ノ平均價格ハ即チ左ノ如シ

大麥	一千八百四十九年	一千八百五十年	一千八百五十一年
小麥	四四	四〇	三八
大麥	二七	二三	二四
燕麥	一七	一六	一八
大麥	九	五	九
小麥	三	三	六
燕麥	六	五	七

一千八百五十二年 五千十三年 於テ穀物ノ收穫ニ稍ヤ凶  
 歉ヲ告クルニ一千八百五十四年 五十五年 五十六年ト相  
 續テ收穫又々甚タ凶歉ナリ而シテ此收穫凶歉ノ為メ  
 頗フル投機ノ風潮ヲ各市場ニ惹起セリ而シテ其成果ハ  
 小麥ノ價直ヲ下落シ其平均價直一千八百五十四年ニ於  
 テ毎「コルトル」ニ付キ七十二志四片一千八百五十五年ニ  
 七十四志八片一千八百五十六年ニ六十九志二片一千八  
 百五十七年ニ五十六志四片トナルニ至レリ然リト雖モ

歳一長豊饒ノ運ニ變轉シ三歳乃至四歳ノ收穫中等以上ノ豊饒ナルヲアラハ穀物ノ價直必ラス大ニ下落シ恐ラク一千八百五十一年ノ價格ニ下ルニ至ランモ亦タ未タ知ルヘカラス是レ識者ヲ待タスシテ明カナリ蓋シ此ノ如キ豊饒ノ運ニ遭ハ、初テ一千八百四十六年ニ決行シタル穀物禁輸入法廢棄政策ノ利害得失ヲ實驗スヘシ其政策ノ結果カ此國ノ地子及ビ歳入上ニ影響スルモノヲ確知スヘシ然レ其豊運ニ逢遇スル迄ハ之レヲ明知スルニ由ナカルヘシ

航海法ノ廢棄ニ就テハ其效果穀物禁輸入法ノ廢棄ヨリモ一層著ルヲ見ル抑モ「<sup>レ</sup>」<sup>ル</sup>制定ノ航海法タルヤ一千八百四十九年之レヲ全廢スル前父シク既ニ百方大ニ輕減セラレタリ是レ左表ニ掲載スル成果ヲ觀察セ

ルニ當テ先ツ記憶セサルヘカラサルナリ蓋シ航海法ノ此ノ如ク輕減セラレタルハ相互條約條例ト稱スル條例ノ手段ニ由レリ此ノ條例ニ由テ我政府ハ海外諸國ノ内其船舶海運ニ係ル同一ノ規則ヲ輕減ヤシ各國ノ為メニ報酬トシテ我航海法ノ最モ嚴刻ナル條目ヲ輕減スルヲ得タリ其相互條約ヨリ生ヤシ結果ノ如キハ既ニ之レヲ上章ニ陳述セリ左ノ表ハ一千八百四十三年ヨリ一千八百五十七年ニ至ル間ノ航海法輕減廢棄ノ成果ヲ一目ニ瞭然タラシムルモノニシテ年々ニ我海運貿易ガ外國人ニ蠶食セラル、ノ著シキヲ證明スルニ足ル

船貨及ビ輕荷ヲ積テ合同至國ノ諸港ニ出入シタル英國ト外國船トノ噸數表

英國船	外國船	合計
-----	-----	----

一千八百四十三年	七一八一	二六四三	九八二四
一千八百四十四年	七五〇〇	二八四六	三〇六二
一千八百四十五年	八五四六	三五三一	二〇七三
一千八百四十六年	八六八八	三七二七	二四一五
一千八百四十七年	九七一二	四五六六	一四二七
一千八百四十八年	九二八九	四〇一七	一三三〇
一千八百四十九年	九六六九	四三三四	一四〇〇
一千八百五十年	九四四二	五〇六二	一四五〇
一千八百五十一年	九八二〇	六一五九	一五九八
一千八百五十二年	九九八五	六一四四	一六一三
一千八百五十三年	一〇二六八	八一二一	一八三九
一千八百五十四年	一〇七四四	七九二四	一八六六
一千八百五十五年	一〇九一九	七五六九	一八四八

一千八百五十六年	一一二四五	八六四三	二一五八
一千八百五十七年	一一三六九	九四八四	二二一七

右噸數表、一千八百四十三年ヨリ一千八百五十七年ニ至ル合同王國ノ統計摘要ヨリ採萃スルモノニシテ一千八百五十八年第五号ヲ以テ政府ノ公達シタル官報ニ係ル

右ノ噸數表ニ據ルハ英國船ノ増加ハ十五ヶ年間ニ僅ク七ヨリ十三ニ至ルノ割合ニ過キサレモ英國海運貿易ニ使用セラル、外國船ハ二ヨリ九ニ至ルノ割合即チ四倍ノ増加ヲナセリ之レヲ詳スレハ外國船噸數タルヤ一千八百四十三年ニ於テ英國船噸數ニ比較シ二個半ト七個トノ割合ナリシカ現今九個半ト十三個半トノ割合ナルヲ觀ル蓋シ我海運貿易ニ斯ノ如ク衰頽ヲ顯スルニ當

リ英國ノ船主ハ百方カヲ尽シ非常ニ勤勉勵精シ以テ負  
税ノ輕キ外國人ト競争シ大ニ蒸氣カヲ使用シ大船ヲ製  
シテ中容ノ船舶ニ代用シ噸數ニ比例シテ水夫ヲ減省シ  
而シテ數百萬封度ヲ費用シテ其大船ヲ納ルヘキ多クノ  
船槽ヲ建築セリ然リト雖其勉力皆ナ無益ニ屬シ一モ  
其効果ヲ奏セズ外國ノ船舶毎年ニ益々英國船ノ海運貿  
易ニ蠶食ス故ニ右ノ噸數表ヲ以テ正當確實ノモノトシ  
現行事物ノ情勢ヲ久シク變更セサルモノトスルハ今  
ヨリ十五箇年ノ後ニ英國商船ト外國商船トノ間ニ如何  
ナル割合ヲ顯ハスニ至ルヘキ乎ハ識者ヲ待タスシテ明テ  
カナリ之ヲ畢竟スレハ課税ヲ減シテ大ニ我海運商船  
ノ負擔ヲ輕クスルノ外向後我商船ヲシテ負税ノ輕キ外  
國船ニ向テ競争ヲ持續セシムルノ方策ナキヤ今已ニ明

カナリ夫レ航海ノ熟練ト勤勉トハ我國ノ海運貿易ニ大  
ナル功ヲナスモノナリト雖其人力ノ成シ得ヘカラサル  
事ヲ成シ得ルモノニアラス故ニ減税ノ外又々如何ナル  
手段ヲ施スモ到底負税ノ重キ船舶ハ負税ノ輕キ船舶ニ  
壓倒セラレサルヲ得ス  
一千八百五十年五十二年ト三箇年間ハ政黨ノ  
軋轢ト政治上ノ變遷トニ著シカリシト雖其財政上ニ重  
大ノ變動ヲ見ス一千八百五十年ノ秋一日サハ、ロベルト、  
ポトル氏馬ニ跨リ遊園ヲ騎行セシカ誤テ落馬シ不幸ニ  
シテ死セリ夫レ同氏ハ曩ニ穀物禁輸入法ヲ廢棄シタル  
ヨリ人民多數ノ信用ヲ失ヒ政權ヲ其反對黨即チ王黨ニ  
譲リシト雖其今再々其政柄ヲ執ラント企圖セシモノ、  
如シ是レ獨リ余ノ私見ニアラス世ノ論者ヲ舉テ皆ナ同

一ノ觀想タリ抑モ同氏處世ノ生運ハ之レヲ幸福ナリト  
言ハンヨリ寧ロ奇異ナリト言ハサルヲ得ス何トナレハ  
世間ニ同氏ノ如ク大ニ頌譽セラレタルモノ鮮ナク又タ  
同氏ノ如ク甚ク罵詈ヲレタルモノ亦タ稀ナレハナ  
リ而シテ同氏ハ此ノ如ク大ニナル頌譽ヲ得ヘキ功勞ア  
リシニアラス又タ此ノ如キ非常ノ罵詈ヲ蒙ルヘキ罪  
アリシニアラス蓋シ同氏ノ民望ヲ失ヒ榮譽ヲ傷ケ其處  
世ノ総体ヲ誤ルニ至リシモノハ實ニ同氏往昔ノ一大誤  
策即チ一千八百十九年ノ紙幣交換條例是レカ遠因トナ  
レリ又タ該年以來頻リニ發生シタル政變ヲ以テ皆ナ右  
條例ノ結果ナリトスルモ敢テ失當ニアテサルヘシ何ト  
ナレハ該年ヨリ以來時變能クピール氏ヲ制御シテピ  
ール氏時變ニ率先スル能ハサリシカ故ナリ然リト雖モ同

氏モ亦タ善良ノ志望ヲ抱キ非凡ノ才智ヲ具ヤシ豪傑ナ  
レ之レヲシテ一層泰運ノ盛世ニ在ラシメハ一層福ノ  
宰相タリシナラシモ亦タ知ルヘカラサルナラ夫レ同氏  
ノ行跡ニ就テハ後世ノ人頗ル其觀察ニ因シムヘシ何ト  
ナレハ其行跡タルニ纏繞錯雜ニシテ隱微ナルカ故ニ後  
世ニ生レテ同氏ノ行跡ヲ鮮明シ性質ヲ分拆ヤント欲ス  
ル者ハ遠ク政治上ノ變動變化ノ内幕ニ入テ其原因ヲ探  
損セサルヲ得サレハナリ  
然リト雖モ此年ノ上月外交上ニ一大事變ヲ發生セリ其  
事變タルヤ當時不幸ニシテ若シ疾ク其結果タル後患ヲ  
鋤去シ得スハ英國財政史中ニ著明ナル事實タランモ  
亦タ知ルヘカラサルナリ故ニ後世ノ龜鑑トシテ之レヲ  
茲ニ記セサルヲ得ス抑モ其事變トハ何ソ乃チ外務卿

ルド、パルメルストン氏傲慢ニシテ無智英國ト佛國トノ  
間ニ隙ヲ生シ殆ント戦乱ノ禍機ヲ破裂セントヤシト是  
ナリ此ニ於テ佛國政府ハ果斷ヲ以テ其公使「エム、トロウ  
ン、ツ」リ、リエウ氏ヲ倫敦府ヨリ呼戻シ而シテ和親ノ妨害  
者「ハ」ルメルストン氏終ニ自己及ビ此國ノ屈辱トナルカ  
如キ表裏ヲ外交上ニ為スノ已ムヲ得サルニ至レリ  
此怪シキ喧嘩（但シ之レヲ諍論ト言ハンヨリ寧ロ喧嘩ト  
云フヲ適稱ト思惟ス）ノ顛末ヲ詳細ニ序述スルハ著撰ノ  
主旨ニアラサルガ故ニ唯々其大要ヲ畧陳スルヲ以テ滿  
足セサルヲ得ス抑モ其喧嘩ノ原因ヲ考フルニ嘗テ我外  
務省ト希臘政府（時ニ「オゾ」其國王タリ）トノ間ニ英國ノ  
保護ヲ要請シ或ハ要請スト稱シタル一個人ノ處分ニ就  
キ紛論諍議ヲ生シタルガ原因トナリ希臘ノ官吏ハ隱然

魯國ニ慫慂セラレテ英國ニ對シ甚々疑ハシキ處置ヲ行  
ヒ又々我外務卿「パルメルストン」氏ハ傲慢ニモ希臘ニ對  
シ該國若シ強國ナラハ必ラス行フニ由シナカル暴行ヲ  
為スニ至レリ茲ニ於テ佛國政府其仲裁ニ入り双方折合  
ノ勸解ヲナセシニ双方之レヲ承諾セリ然ルニ我外務卿  
ノ忽チ右折合ノ條約ヲ破リタルハ言語ニ絶スル傲慢無  
智ト言ハサルヲ得ス而シテ佛國共和政治ノ外務「セ」子ラ  
ル、ラビ「シ」氏ハ右背約ヲ聞クヤ直チニ佛國公使ヲ倫敦府  
ヨリ呼戻セリ當時此英斷ノ處置ニ就キ誰アツテ佛國ノ  
外務卿ヲ非難シタルヲ見ス蓋シ妨害者「ハ」パルメルスト  
ン氏ナル判然トシテ明ラカナルナリ抑モ同氏ハ雅典  
府ニ講和ノ成ラサルヨリ其商議ヲ倫敦府ニ移シ此處ニ  
於テ前假條約ニ基キ佛希兩公使ト自己トノ間ニ本條約

ヲ決定ヤンコヲ約束シ而シテ今マ遠ニ其約束ニ違背シ  
タルカ故ニゼコラル、ラビ、氏ハ直キニ其背約ノ状ヲ國  
會ニ報告シ兼テ公使ヲ呼戻シタルコヲ告知セシ滿場ノ  
議負一齊ニ其英断ヲ稱讚セリ而シテ此事ノ英國ニ聞ユ  
ルヤ人民ノ驚愕騷擾大方ナラス倫敦府中恰モ鼎ノ沸ク  
カ如シ貨幣市場ノ如キハ擾乱狼狽実ニ名状スヘカラス  
而シテ人皆ナ精神ヲ失ヒ其考フル所ヲ知ラサルニ至レ  
リ然ルニ魯國ジント、ペートル、ブルグニ於テハ英佛間ニ  
戦乱ノ破裂ヤントスル報ヲ得ルヤ皆ナ大ニ喜悅シ相祝  
賀セリ就中魯帝ニコラスノ如キハ天バルメルストンヲ  
下シテ其心願タル英佛間ノ戦鬪ヲ醸成セシムト想像ス  
ルニ至ル然レモ血氣多望ノ人屢々其期望ヲ誤ルカ如ク  
魯帝果シテ其期望ヲ誤レリ何トナレハ兩國間ノ紛議モ

戦争破裂ニ至ラスシテ止ミタレハナリ其戦争ノ破裂ニ  
至ラスシテ止ミタルモノハ蓋シ当時我國ノ情勢ニ於テ  
開戦ヲ語リ殆ント佛國ニ向テ開戦ヲ談スルハ狂タルヲ  
免カレス此ヲ以テ、<sup>ポ</sup>ルド、バルメル、<sup>スト</sup>ン氏ハ速ニ背約ノ  
罪ヲ謝シ兩國間ノ隙ヲ平和ニ医治ヤン、<sup>リ</sup>ヲ勉メタリシ  
ガ幸ニ宣戦ニ至ラスシテ六月二十一日但シ佛國外務卿  
カ其公使ヲ倫敦ヨリ呼戻シタルハ五月十四日ナリ、<sup>ゼ</sup>子  
ラル、ラビ、氏再々其國會議院ニ於テ左ノ趣意ヲ演說セ  
リ英國女王今マ終ニ倫敦條約ニ復スルコヲ承諾シ四月  
二十七日雅典府ニ議定セラレタル條約ノ條目(但シ議定  
セラレタルモ猶ホ實際ニ舉行セラレサリシモノナリ)ニ  
代用スル四月十九日倫敦府ニ議定セラレタル條目ヲ以  
テスルヲ是認シタルハ急ニ干戈ヲ動かスニ及ハスト此



ニ於テ我邦人初テ皆ナ心胸ヲ安堵シ耳目鼻口感覺ヲ復シ互ニ面ヲ見合其次ノ始末ヲ尋マルニ至レリ此時ニ於テ世人多ク非凡ノ政治家セテ子ラルラビ氏ノ功ヲ稱シ此ノ如キ獨力ノ功業ハ同氏再ヒ之レヲ成サント欲スルモ恐クハ又々此ノ如キ不慮ノ好機會ニ逢遇セサルヘシト言ヘリ

是時ニ當テ英國ノ人民ハ佛國トノ葛藤此ノ如ク異常ノ壯勢ヲ顯ハスヲ見テ自カラ其胸裏ニ佛國ノ所存ニ就キ疑懼ノ心ヲ惹起セシガ兩國間ノ情勢猶ホ安心ノ場合ニ至ラサルヲ以テ疑懼ノ心ハ依然今日存シテ解ケサルヲ見ル然リ而シテ曩ニ「ロルド、バルメルズ、トン」氏ハ紛議ヲシテ平和ニ終ラシメシカ為メ倫敦條約ニ復スルノ旨ヲ佛國政府ニ報シ以テ其歡心ヲ復ヤント期望シタルニ案ニ

相違シ佛國ノ大統領直チニ其報状ヲ送シ其報使ヲ推反セシカ故ニ我國民ハ且ツ驚キ且ツ鬱悶シ而シテ以來終ニ心ヲ安ムル時ナキニ至レリ蓋シ我國民カ不安ノ心ヲ懷クヤ久シカラズ國會ノ議決條例ニ由テ之レヲ表明シタルヲ見ル其議決條例ハ余輩心ラス之ヲ後文ニ畧陳スヘシ何トナレハ其條例ヲ制定シタル原因ノ異常ナリシカ如ク其成果モ亦タ異常ナリシガ故ナリ  
「ロルド、ジョン、ラッセル」氏執権ノ内閣ハ漸次民望ヲ失ヒシカ幸シテ一千八百五十二年迄其権ヲ持續シ得タリ「カリ、ロベルト、ポール」氏夭壽ノ死ヲ為シタル後ニ至テ殊ニ益民望ヲ失シ威權著シク衰頽シ特リ敵黨ノ輕侮ヲ受ルノミナラス自己ノ黨與モ亦タ蔑視スルニ至リタレハ人皆ナ其執政ノ久シカラサルヲ觀察セリ然リト雖モ此時ニ

一ノ困難ハ繼テ政ヲ執ル人々ヲ求ムルニアリ之レヲ求  
ムル何故ニ困難ナル乎蓋シ此時ニ當テ舊王黨モ民黨ト  
均シク人民ノ尊信ヲ失ヒ兩黨共ニ恰モ其詭偽ヲ攬テセ  
ラレタル欺騙者ト一般ニ人民ノ蔑視スル所トナリタレ  
ハナリ政黨皆ナ此ノ如キ狀勢ニ沈淪シタルカ故ニ時ノ  
志士屢々黨与ノ結合ヲ試行シタレモ尽ク失敗シ政治ノ  
機軸將ニ敗壞セントスルニ似タレハ仮令壓制ニ依ルモ  
樹立政黨ノ精神ヲ揮擢シ以テ政機ノ運動ヲ活潑ニヤサ  
ルヲ得サルニ至レリ  
一千八百五十二年例ノ如ク國會ヲ開設ス時ノ執權議場  
ニ入りイハモナカラ國會改良主義ニ就キ空漠ノ演説ヲ  
為シ議院ニ諂諛シ以テ尊信ヲ博クセント企圖シタリ夫  
レ此時ノ急務ハ佛國トノ葛藤ニ就キ我國上下ノ皆ナ抱

懷スル憂慮疑懼ヲ減輕センガ為メ國王ノ防禦ヲ強フス  
ルノ策ヲ運スニアルヲ以テ執權ロルド、ジョン、ルセル氏  
是開會ニ際シ各地方豫備軍ノ策ヲ建議ヤリ此兵制政策  
タル其費用少クシテ實效アルヘキ策ナリシガ故ニ政黨  
確執ノ内情ヲ知ラサル人ハ皆ナ此策ノ建議ニ抗論スル  
モノハナカカルヘシト思惟セリ然リト雖モ實際ハ之レニ  
反シ右政策ノ建議ハ終ニ當時ノ執政内閣ノ顛スル基本  
トナレリ  
ロルト、ポルメルストン氏甚シク右兵制政策ヲ建議ヲ駁  
抗論セリ茲ニ於テロルト、ジョン、ルセル氏ト雖モ尚「パルメ  
ルストン」ノ不正不義ナルニ驚キ且ツ之レヲ憤怒シ果斷  
ヲ以テ同氏ヲ内閣ヨリ黜ケタリシカ其成果ハ終ニ内閣  
ノ顛覆ヲ來セリ抑モ「パルメルストン」氏ノ斯ク不面目ニ

内閣ヨリ黜ケラレタルヤ甚シク之レヲ恨ミ頻リニ復讎  
ヲ時ノ内閣ニ試ント企圖シタリシカ速ニ其目的ヲ達ス  
ヘキ助勢ヲ得タリ蓋シ是際ニ於テ人皆ナ浮薄ニシテ所  
謂ル平生ノ主義ニ背馳スルヲ恥トセス故ニ王黨ト雖モ  
同氏ニ助勢スルヲ肯シ「ビ」ル黨ノ如キモ元來其主義王  
ノ敵黨ニシテ又「ラ」ジカル黨ノ朋黨ニアラズト雖モ亦  
タ今民黨ノ爪牙トナルヲ喜悅シ而シテ「ラ」ジカル黨モ亦  
タ政治上ノ變動变化到底社會ノ害トナルモノニアラサ  
ルヲ知り直チニ右ノ政黨ニ結合セシヨト終ニ一種異常  
ノ政黨ノ結合ヲ現出セリ而シテ右結合政黨ノ其目的ヲ  
達スルニ必先ツ内閣ノ兵制政策建議ニ抗論スルガ緊要  
ニシテ之レニ抗論スルハ甚タ容易ナリシモノ、如シ此  
ヲ以テ該結合政黨ハ各地方豫備軍ヲ編成スルヲ今日

ニ無益ナル理由ヲ考案シ而シテ各地方ナル言辭ヲ刪除  
セサルハカラサルヲ主張シ以テ右建議ノ政策ニ抗セン  
ト決セリ蓋シ各地方ナル言辭ヲ刪除スルハ全議案ノ廢  
棄ニ異ナラサルナリ茲ニ於テ「バル」マストン氏ハ乃今意  
地惡ク全議案ノ廢棄ニ均シキ修正ヲ動議シ九人ノ讚成  
ヲ得タリ此時「ロ」ルド、ジョ「ン」セ「ル」氏ハ最早久シク其執權  
ヲ維持シ得ヘカ「ラ」サルヲ悟リ速ニ其職ヲ「辞」セザル  
「ロ」ルド、ジョ「ン」セ「ル」氏執權内閣カ斯ク異常ニ分裂瓦解シ  
タルカ為メ女皇陛下ニ後任ノ採用上ニ就キ非常ノ困難  
ニ遇ヘリ蓋シ民黨ハ是内閣分裂ヨリ既ニ著ク萎靡衰頹  
シ殆シト其勢力ヲ社會ニ失シタルニ又タ一種ノ公敵ヲ  
其黨中ニ見ル是レ他ナシ「ロ」ルド、バル「マ」ルスト「ン」并ニ其  
徒黨ト民黨中ノ「ケ」レ「ト」セ「リ」ト「上」派トノ分裂確執即チ

是ナリ此時ニ於テ王黨モ亦ハ分裂セリ然レド其果害民  
黨ノ如ク甚シキニ至ラサシ、ロベルト、ビール氏ノ黨與  
ハ其徒少ナシ且ツ其文武政治上ハ主義持論曖昧トシテ  
甚タ明カナラサルカ故ニ民黨ノ尊信ヲ得ル能ハス又タ  
事ト場合ニ由リ改進黨主義ニ偏スルトアルヲ以テ保守主  
義ノ王黨ノ尊信ヲモ亦タ得ルニ由ナカリシ是故ニ「ビ  
ル」黨ハ兩政黨ノ間ニ在テ博物史ニ所謂ル「オル」ソリン  
チヤス、パラドキガスノ位置ヲ占メ獸ニアラサ禽ニアラ  
ス魚ニアラサルガ如シ當時樹立政黨皆ハ此ノ如ク衰頹  
シ一モ政治ノ機軸ヲ執リ之レカ運動ヲ活潑ナラシムル  
ニ十分ノ勢力ヲ有スル政黨ヲ見サルニ至レリ「ラジカル  
黨」アリト雖モ是レ固ヨリ取ルニ足ラズ茲ニ於テ女皇陛  
下ハ「ホブソン」派ノ撰用ノ外他ニ執權ヲ定ムルノ道ナシ

ト思惟ヤレド「ロルト」氏ヲ擧テ執權ヲ任セラル  
而シテ同氏ノ一議ニ及ハス直ニ其職ヲ奉シ他ノ執政官  
ヲ撰用シテ内閣ヲ組織シタルハ世人ノ頗ナル驚キ且ツ  
怪ミシ所ナリ「カ」  
新任ノ内閣タルヤ乃チ大藏卿「ロルト」、（オフトロリス）租稅卿「チ  
スレト」リ「大法官」サ「エト」ワルド、スウ「ガ」シ「今」ロルト、シ  
ント、レ「チ」ル「ト」改稱ス外務卿「ロルト」、マルメ「ス」ブリ「ト」  
内務卿「ウ」ル「ポ」ル「ト」海軍卿「ノ」ド「サ」ム「ハ」ル「ラ」ン「ド」侯「ヲ」以「テ」  
之「レ」ヲ組織ス抑モ此内閣ハ租稅院長官「ゲ」ス「ト」リ「氏」ヲ  
除クノ外智力ニ不足スルモノニアラス又タ前内閣ニ比  
較シテ德義ノ劣リタルモノニアラス故ニ當時誰アツテ  
「セル」ド「テ」ル「ビ」ロ「ルト」、マルメ「ス」ブリ「ト」ノ「サ」ム「バ」ト「テ」  
「ンド」侯「ヲ」非難スル利「ハ」心「ヨ」リ路「ニ」當「ル」ヲ以「テ」セ「シ」モ

ノアルヲ見ス然リト雖凡世人皆ナ此内閣ノ十二箇月ヲ  
経過セスシテ必ラス顛覆ニ至ルヲ確信ス故ニ「デルビー」  
氏等ノ晏然路ニ當ルヲ見テ驚キ怪マサルハナシ蓋シ王  
黨ノ首領タル彼輩ノ愚カニモ路ニ當リシ所以ノモノハ  
他ナシ彼輩其平生ニ慣用スル一家ノ論事矩ニ由テ自カ  
ラ欺キ民黨今マ全ク民望ヲ失スルカ故ニ人民多数ノ信  
用心ヲス已ニ帰スヘシト考案シ而シテ茲ニ二黨ノ外ニ  
尚ホ一黨アリテ人民多数ノ信用已ニ之レニ帰スルヲ知  
ラサルニ坐スルヤ疑ヲ容レサルナリ。  
「ロルド、デルビー」氏ノ執権政府ハ其執政ノ初日ヨリ已ニ  
國民多数ヲ尊信ヲ失ヒシカ故ニ久シカラスシテ顛覆ニ  
至リ終ニ重大ノ事務ヲ行フニ暇ナカリシト雖凡其執政  
ノ間ニ企圖セスシテ自然ト有益ノ一真理ヲ證明セリ其

有益ノ一真理トハ何ソヤ乃チ向後英國ニ於テ嚴勤王主  
義即チ嚴守旧主義ヲ實際ニ維持スル能ハサル事是ナリ  
此事理タルヤ則チ一千八百五十二年ノ「デルビー」氏執権  
政府ノ能ク之レヲ證明シテ各人ヲ満足セシメタル所ナ  
リ而シテ該執権政府ハ元來智力ニ乏シカラサルヲ以テ  
政治上ノ主義持論ニ影響セサル政策ハ皆チ容易ニ之レ  
ヲ舉行シ得タリ且ツ執権「ロルド、デルビー」氏聰明英果ニ  
シテ人民ノ心ヲ安センカ為メ「サト、ロベルト、ポール」氏制  
定ノ自由貿易條例ヲ廢棄スルノ意ナキヲ表明セリ然  
リト雖凡國會議改良ノ問題ニ至テハ曖昧タル適辭ヲ用  
テ確答ヲ与ヘサリシヲ見ル蓋シ此ノ遁辭ノ政畧ガ同氏  
執権政府ノ顛覆ヲ促シタルヤ疑ヲ容レサルナリ何トナ  
レハ其他ノ政務ニ於テハ該執権政府ノ進路甚タ平滑ニ

シテ其進行ヲ障礙セシモノナキガ故ナリ夫レ然リ而シテ當時該政府ヲ敵視スル者ハ皆ナ右政步艱難ノアル所ヲ知リ專ラ鋒ヲ之レニ向ケ亦タ他ノ点ヲ攻撃スルヲ意トナサス民兵編成議案モ異議ナク議決セラレダスレリリ氏ノ報告セシ歳入出豫算モ古今租稅卿報告セシ同豫算ト一般ニ容易ク國會ノ是認スル所トナレリ而シテ特ニ進撃ヲ蒙ムリシ点ハ即ケ國會議院改良ノ問題ニ就キ確答ノ遁辭是ナリ

此ノ時ニ當テ執政官ハ其時ノ定期會議ヲ速ニ終ヘンヲ欲ヤシヨリ七月一日急ニ國會ノ會議ヲ延期シ次テ又々之レヲ解散シ而シテ新撰ノ下院ニ多數ヲ制セント期望ヤリ然レ氏實際ハ其期望ノ如クナラス議員撰挙ノ畢リシ時ニ於テ己ニ「ロルド、デルビー」及ヒ其同僚ノ皆ナ少

數ノ不幸ニ遭ヒ速ニ其職ヲ退カサルヲ得サルヤ瞭然トシテ明カナリ  
一千八百五十二年十一月新撰ノ議院ヲ開設ス是會議ニ於テ衆議員ハ自由貿易主義ノ維持方ト砂糖稅ノ科目ニ就キ其將來ノ奉行ヲ執政官及ヒ下院議員ノ多數ニ請負ハシムルノ目的ニテ長々シク辨論諍議ヲ費シタル後テ財政ノ一大難題ノ審議ニ取リ掛リシガ此議題ニ於テ租稅卿「デスレーリ」氏終ニ自己ト其同僚ノ上ニ當時ノ内閣ヲ顛覆スルノ所存ニテ結合シタル政黨ノ進撃ヲ來セリ是ヨリ先キ「デスレーリ」氏嘗テ其撰舉者タル「バクキン」ガハムサヤ「郡」農民ニ面語セシ時ニ當リ自カテ得策ト思惟シテ農民ニ約束スルニ其黨与若シ路ニ當テハ殊ニ農ノ利ヲ計テシテ以テセリ而シテ不幸ナルカナ

「ラスレーリ」氏ハ此時租税卿トナレリ故ニ農夫ハ頻リ  
ニ前言ノ履行ヲ以テ同氏ヲ責ム然リト雖其財政困難  
ノ時ニ際シテ如何ナル政策ヲ施シ以テ農夫ノ為メニ其  
前言ヲ履ミ得ヘキ乎余輩其策ヲ知ラス然レド同氏ハ是  
非トモ一策ヲ試行セサルヲ得サル情勢ニ逼リ終ニ麥芽  
税ヲ半減スルノ建議ヲナセリ夫レ此税ヲ平減スルハ  
忽チ歳入ニ不足ヲ告クル故ニ家税ヲ増サシムルヲ得サル  
ノミナラス又夕既ニ重荷ノ産業税ヲ尚ホ一層重荷ニナ  
スノ已ムヲ得サルニ至ルヘシ然ラハ是ニ一方ノ毒ヲ移  
シテ萬方ニ流傳スル拙策ナルノミ蓋シ麥芽税ノ最大害  
タルヤ國産税法制ノ惡果ニ外ナラサレハ仮令特リ該税  
ノ一部分ヲ減少スルモ決シテ人民ノ負擔ヲ輕クスル著  
シキ効果ヲ見ルヘシ然ルニ政府ノ歳入ニ二百五十万封

度ノ減額ヲ生スルニ至ラン又夕産業税ノ如キハ其賦課  
ノ重キ既ニ不正不義ノ極度ニ達シタレハ是上ニ其賦課  
ヲ増加スルハ暴虐ヲ加フルモノト言ハサルヲ得サルガ  
如シ當時國稅此ノ如キ情勢ナリシヲ以テ右建議ノ結果  
ハ該自亡議案ノ草案者ヲ除クノ外人々々先見期待セシ  
所ニ違ハザリシヲ見ル乃チ該議案ノ議場ニ出ルヤ甚々  
猛烈ニ駁撃セラレ決ヲ取ルニ至テ原案讚成者二百八十  
六人ニ向テ三百五人ノ駁論者アリ多数ニ由テ廢案ニ決  
シ執政官ノ失敗トナレリ斯ノ如クニシテ或ハ勤王主義  
ニ由テ此國ヲ統治セント企圖シタル王黨執權政府モ茲  
ニ其終ヲ告ケ「ロルド、デルビ」氏及ニ其同僚皆ナ直チニ  
其職ヲ辭セリ  
夫レ「ロルド、デルビ」氏及ニ其同僚ヲシテ政路ヲ退カシ

ルハ甚タ容易ナリシト雖其後任ヲ選定スルハ非常  
ニ困難ナリシヲ見ル屢々政黨ノ結合ヲ試ミタレモ  
失敗ヤリ蓋シ此ノ時限ニ當リ執政官ノ軋轉分裂更迭ノ  
甚シキヤ人之レヲ見テ昔年ノ預言ナル到底何人モ實地  
衣食ニ窮スルニアラサレハ執政官タルヲ肯ヤサルニ至  
ルヘシトノ語ヲ引説スルニ至レリ

然リト雖モ英人ノ為ス能ハサル所ニ蘇格人遂ニ之レヲ  
成セリ「ロルド、アバル」侯夥多ノ商議ヲ盡シ一種ノ内  
閣ヲ組成スルヲ得タリ其商議ノ如何ハ記スル難クシテ  
寧ロ之レヲ察スルヲ易シトス此内閣タルヤ異種殊性ノ  
者ヨリ組成スルヲ以テ若シ適當ノ名ヲ附セハ宜ク伶人  
内閣ト稱スヘシ蓋シ其服色ハ雜駁ナルニ取ル也  
抑モ「ロルド、アバル」ハ彼ノ世又ヲシテ其主義ノ在ル

所ヲ曉ルニ苦マシムル「ピール」黨ノ一派ニシテ混合主義  
ノ一政治家ナリ當時乃チ執政ノ地ヲ占メリ「ドスト  
」氏モ亦同シク曖昧主義黨ノ一派ニシテ租稅卿タリ  
而シテ最モ怪異ナルハ「ジョン」バルマストンノ二氏  
其職位ヲ相々交換スルヲ是ナリ「バルマストン」氏職ヲ内  
務ニ奉スルモ内事ニ從事セス「ジョン」氏外務ニ在リ而シ  
テ外事ヲ知ラサルヤ猶ホ「バルマストン」氏ノ内事ニ於ケ  
ル如シ又々此雜駁内閣中ニ於テ「ジョン」レス、ウー、ド、ヤ、ム  
ス、グ、ラ、ハ、ム、ノ二氏モ亦タ其職ヲ得タリ即チ一ハ會計檢  
査院ニ在リ一ハ海上裁判所ニ長タリ之レニ加テ「ジョン」レ、  
改進黨タル「ウ、リ、ア、ム、モ、ー、ル、ス、ウ、ル、ス」氏ヲ以テ工部ノ長  
官ニ任セシハ此内閣ノ雜駁ヲシテ其極ニ達ヤシメシト  
謂ッヘシ斯クハ如クニシテ一千八百五十二年十二月英



民ノ意表ニ出テタル政治上ノ一機關ヲ構成セリ而シテ  
此ニ一奇怪事ハ國內ノ或地方ニ於テハ人此内閣ヲ以テ  
其軋轢ニ依リ却テ強大ノ勢力ヲ有スヘシト誤認スルニ  
至ルヲ是ナリ然レバ其後速ニ其強弱ヲ驗スヘキ時変ニ  
逢遇セリ

一千八百五十三年ノ國會ハ外面ヨリ觀ルキハ世運隆盛  
日光ト共ニ赫々ノ時ニ開テタルカ如シ是ヨリ先キ「カリ  
ホルニヤ州ニ金坑ヲ發見シタルカ為メ著シク歐洲ニ該金屬  
リヤ州ニ金坑ヲ發見シタルカ為メ著シク歐洲ニ該金屬  
ノ流入シ金貨政洲ニ増加シ而シテ英國銀行及ニ米國州  
立銀行ヲシテ一層鞏固安全ノ地ニ立タシメントスルノ  
情勢ナリ然ルニ當時ノ政府並ニ銀行取締役タル者皆ナ  
暗愚ニシテ金屬増加ノ供給ヲ賴テ各種紙幣ヲ増發スル

ノ基本ト為スルハ其安全ヲ増サスシテ却テ其危險ヲ加  
フルヲ知ラザリシモノ、如シ夫レ此時ニ方リ政府ヲシ  
テ尋常ノ智徳ヲ有セシメハ必ラス直ニ金貨ヲ鑄造流通  
シ銀行紙幣ヲ廢シ以テ一ハ各商估ノ利ヲ計リ一ハ銀行  
ヲシテ世ノ信憑ヲ奇貨トシ妄ニ約束手形ヲ發行スルヲ  
止メ專ラ正金ヲ以テ其業ヲ營マシメシナラン然リト雖  
氏此ノ如キ財政政策ヲ當時「バルヂン」執權政府若クハ  
他ノ英國執權ニ望ムハ恰モ荆棘ノ葡萄ヲ産シ薊樹ノ無  
花果ヲ生スルヲ望ムト一般ナルヘシ然リ而シテ米國大  
統領及ニ其上院ノ如キハ其所見英國執政ニ優リシモノ  
ト言ハサルヲ得ス何トナレハ今合衆國ニ八億方封度國  
債ノ重荷アルヲ見ス又夕一年ニ六千万封度ノ課稅ヲ負  
擔スルノ困難ナケレハナリ然レバ當時泰西洋ノ兩岸ニ

在テ金貸商ハ昔日ヨリ一層過大ノ投機ヲ營ムノ新資ヲ  
得ルヲ以テ妄意ニ自カラ祝シ并テ他ヲ賀セリ而シテ其  
祝賀スルノ甚シキヤ此國ニ於テ投機者ノ耳朶ヲ悅バス  
為メ世ノ繁榮ヲ頌歌スルヲ以テ其職ト為セシ彼ノ班吹  
手輩モ一千八百四十七年ノ財政困難以來一二年間遺響  
既ニ絶エ寐トシテ聞ユルナキ鼓腹擊壤ノ歌典ヲ再興シ  
以テ之レヲ頌歌スルニ至レリ十二月二十四日初メテア  
バルデン内閣ノ成立セシキハ英國銀行ノ準備二千一百  
三十六万七千封度ノ巨額ニ上リ而シテ一千八百五十三  
年三月十九日ニハ減シテ一千九百十七万六千封度トナ  
シ此狀報タルヤ實ニ執政者ヲシテ其精神ヲ振起シ財  
政救済ノ政畧ヲ計畫セシムルニ足リシト魚氏後ニ時変  
ノ為メ中途ニシテ其志ヲ挫キ其政畧ヲ永続スルヲ得サ

リシハ豈ニ冷ムヘキニ非スヤ  
一千八百五十三年ノ國會ハ例會ノ如ク開場シテ事ヲ議  
ス是ノ會議ニ於テグラドストン氏其理財家タルノ名ヲ  
博セント欲シ其平生ノ持論ノ如ク借リ替ヘノ方策ニ由  
リ公債ヲ簡單ニセンコトヲ企圖シ而シテ南海株券債永代  
年酬金債ヲ他債ニ変更スルノ考案ヲ建議セリ此方畧々  
ルヤ唯ニ其名ヲ変スルモ其公債ノ公債タルヤ依然トシ  
テ変スルコトナシ又タ同氏ハ貧民ニ一層苛刻ノ稅ヲ課シ  
以テ收入稅ノ改正ニ著手セント欲スルノ意アリ然レモ  
此際一二時変ノ起ルアツテ為メニ此ノ些末ノ財政方畧  
ヲ抛擲シ一層重大ノ政務ヲ取ラサルヲ得サルニ至レリ  
蓋シ其政務タルヤ永代年酬金債南海株券債ヲ鉤治修補  
スルノ比ニ非ラサルナリ

是ヨリ先キ「ロルドバルマストン」氏恰モ魯帝ニコラスニ  
内通シ其深蘊ナル野心ヲ逞スルノ機ヲ得セシメント勉  
メタルガ如ク英政府ト佛國國會トノ間ニ一ノ葛藤ヲ醸  
シ殆ント破裂ニ至ラシメントシタルハ余輩既ニ之レヲ  
上文ニ陳述セリ然リト雖此終議ノ後々佛國政府ハ強  
迫ノ改革ニ逢遇セリ蓋シ其改革タルヤ其國會常ニ内乱  
ノ惱ス所ト為リ「ボナバルト」大統領ヲ監視スルヲ急リシ  
ヨリ忽チ其顛覆スル所ト為ル茲ニ於テ「ルイス、ナボレヲ  
ン」ハ「ナボレヲン」一世ノ蹟ニ倣ヒ自僭シテ皇帝ノ位ニ昇  
レリ夫レ此改変タルヤ英國人ノ甚ク悦ビサル所ナリシ  
ヲ見ル其悦ビサリシ所以ノモノハ蓋シ共和政治ノ名ヲ  
聞クモ猶ホ恐怖ノ色ヲ作ス者固ヨリ此國ニ少カラスト  
雖其貴族概テ皆ナ聰明ニシテ佛國國會ヲ以テ諸政黨確

執軌轡ノ甚シキ恰モ一癲狂院ト一般ノ者ヲナシ國會ハ  
決シテ恐ル可キノ隣國ニ非サルヲ知レリ然リト雖其新  
帝三世ニ至リテハ其情勢全ク之レニ異ナル所アリ乃チ  
其國ヲ統治スルヤ全ク兵士ノ力ニ依リ而シテ帝ノ其兵  
士ニ於ケルヤ恰モ羅馬帝ノ其近衛兵ニ於ケルカ如ク其  
寶祚ヲ踐ミシモノハ專ハラ兵士ノ助力ニ由ルカ故ニ帝  
ノ一身ハ殆ント兵士ノ左右シ得ル所タル言ヲ待タスシ  
テ明カナリ然ラハ此兵士此大將ヲ頂キ何レノ方向ニ進  
行スルモ當時未ダ測知シ能ハサリシナラン是レ我國人  
ガ右佛國ノ政變ヲ悦ビサリシ所以ナリ  
故ニ佛帝ノ位ニ昇ルヤ初ノ程ハ英國兩議院ノ公然非認  
ノ色ヲ現ヤシノミナラス新聞紙上ニ於テモ置々噴々其  
僭奪ヲ非難セシト雖其運昌ニ其權定スルニ及テ我國

民自カラ又々謹慎主義ヲ維持スルヲ上策ト思惟スルニ  
至リシヲ以テ以テ外面ニ親睦ナル同盟條約英佛兩政府  
ノ間ニ成リ而シテナポレオン三世陽ニ堅ク之レヲ遵守  
スヘキノ意ヲ表セリ然リト雖モ其本意ニ至テハ當時世  
人ノ頗アル疑ヲ容レシ所ナリ蓋シ佛帝ガ英國ノ其同盟  
タルヲ悦ビシモノハ我國ノ実力ヲ誤認セシニ出ルト否  
サルトハ得テ知ル可カラスト虽モ是時ニ當テ奧國ハ佛  
帝ヲ忌怖シ魯帝モ亦々之レヲ友情視セス而シテ普國ハ  
魯ノ黨与タリト是レ帝ノ觀察セシ所ナリシカ故ニ殊ニ  
英國ノ同盟ヲ擇ビ假令其誠然テサルモ外面我英國ノ一  
大友國ト為レリ  
一千八百五十三年ノ始メニ方リ「アハル」テ「執權政府」ノ  
佛國ニ對スル狀勢ハ即チ此ノ如シ當時天下安穩ニシテ

歐洲各國專制ノ君主皆ナ其位ニ復シ得タレハ依然トシ  
テ其舊考ヲ脱却セス又々新シキ思想ヲ得ルニ至ラサリ  
シ然リ而シテ佛帝ノ如キハ句辭ノ媒介ヲ假リ以テ各國  
ノ歡ヲ買ハント勉メタリ然レモ其句辭タル唯々人ヲシ  
テ益々其本意ヲ疑ハシムルニ過キサリシ其句辭ノ一ニ  
曰ク此帝國ハ和親ヲ保守スヘシト然リト雖モ久シカラ  
ス其句辭ノ詭詐タルヲ發露セリ  
當時歐洲ノ騷亂ハ北方ヨリ来レリ初メ魯帝常ニ軍界上  
若クハ政界上若シク共ニ軍界政界ノ大勲ヲ建テ以テ其  
治世ヲ眼著ニセントスルノ志アリテ其機ノ熟スルヲ待  
シガ今ヤ彼ノ「カザリ」ニ世ノ時以來時々魯王ノ間ニ隱  
見シタルノ葛藤ヲ破裂スルノ期到ルト信ヤシモノ、如  
シ蓋シ是時ニ當テ英佛互ニ外面ニ親睦ヲ表スト虽モ其

衷情ニ交誼ノ實ナキカ故ニ合従協力ヲ事ヲ起スニ至  
ラサルヘシ是レ魯帝ノ能ク知リシ所ナリ魯帝ハ又タ以  
為ク英國ノ如キハ如何ニ其怒ヲ惹クモ戰ヲ歐洲ニ開ク  
ヲナカルヘシ況ヤ魯國ト戰ヲ開クハ萬々アテサルヘ  
シト是レ實際ノ經驗ニ由テ帝確知シ得タル所ナリ乃チ  
一千八百二十九年魯國ノ全權公使嘗テ「ウルリント」侯  
及「ビール」侯ヲ侮慢セシ「アリ又タ魯帝嘗テ「ビキゼン」  
ヲ没收シ「ポーランド」國ヲ并吞シ又タ「ダルハム」侯ノ嘗テ  
使命ヲ魯ニ奉シテ「ダルダ子ル」岐ヲ過ルニ當リ強迫シテ  
其銃砲ヲ船外ニ出サシメシ「アリ又タ條約ヲ破リ「クラ  
コ」ノ自由倉庫ヲ破壊セシ「アリ是レ皆ナ英國ニ取テ  
甚シキ國辱ナリ然ルニ英國其問罪ヲ干戈ニ訴フル能ハ  
サリシヲ以テ魯帝ハ自カラ英國ノ已ニ服従スルヲ確信

シ此機ニ乘シ以テ土帝ヲ滅サント欲セリ佛國モ亦タ左  
ノ情勢ニ依リ期セシテ其好機ヲ魯帝ニ與ヘサルヲ得  
サルニ至レリ是ヨリ先キ數百年間宗教ノ軋轢羅馬希臘  
兩教會ノ間ニ起リ互ニ凌轢ヲ極メリ就中當時土領ノ一  
部タル「パレス」タイン中ノ聖地ノ占領ニ就キ永遠ノ諍鬪  
ヲ惹起セリ蓋シ是諍鬪タルヤ此時迄ハ回徒ニ愉快ヲ與  
ヘ之レヲシテ聖教平和仁道ノ儀範ノ斯ク怪異ナルヲ冷  
笑セシムルニナリシカ今ヤ其爭論一層ノ激烈ヲ加ヘリ  
蓋シ其爭鬪ノ一大原因ハ兩教會互ニ聖墳神宝ノ保守者  
タルヘキノ推理ヲ爭フニ在リシカ兩教會自カラ折合ノ  
和ヲ決スル能ハサルヨリ遂ニ土帝ノ仲裁ヲ仰クニ至レ  
リ帝深ク慮ル所ナクシテ卒然希臘教ノ僧徒ヲ以テ保守  
者タルヘキニ決ス嗚呼帝ノ此請願ニ應ヤシハ他日ノ一

大不幸タリ何トナレハ是仲裁ヲナシタルカ為メ大怨恨  
ヲ羅馬教徒ニ招クノミナラス又タ新帝「ナポレオン」三世  
羅馬法王ノ心ヲ得シガ為メ右ノ紛議ニ干涉シ仲裁ノ不  
當ヲ以テ王廷ニ伺フニ至リシカ故ナリ  
本論ノ主意外ニ出テ左ノ如キ陰謀暗算ノ顛末ヲ縷述ス  
ルハ或ハ讀者ヲ倦シムルナラン佛ノ全權公使土帝ヲ説  
破シテ前キノ仲裁判決ヲ取消シ且ツ帝ヲシテ佛國ガ羅  
馬僧徒ノ為メニ干涉スヘキ舊條約上ノ推理ヲ有スルヲ  
承認セシメタリ蓋シ土帝ハ佛國ノ干涉必分ヲ以テ至愚  
至惡ノ相交ハルモノト為セシナラン何トナレハ是レ魯  
帝ヲシテ其野心ヲ逞フスルノ機ヲ得セシムルニ外ナラ  
サレハナリ夫レ佛土間ノ是紛議タルヤ其愚笑ヲニ勝ヘ  
タリ其背理賤シムニ餘リアリト雖モ魯帝實ニ之レガ挑

撥者ニシテ佛ハ其術中ニ陥リシモノタル疑又容レズ茲  
ヲ以テ魯帝ハ此機ヲ失ハス已レモ亦タ土帝ニ迫リ之レ  
ヲシテ已レテ承認シ希臘教徒ノ保護者ト為サシメント  
ス蓋シ當時希臘教徒ハ歐洲土領人民ノ大半ニ居リ而シ  
テ其教法ハ又タ回教徒ノ大ニ尊崇スル所タリ然テハ則  
チ希臘教徒ノ保護者タル性質ヲ魯帝ニ与フルキハ勢ヒ  
必ラス歐洲土其帝國ヲ以テ滅スルニ至ルヘシ魯帝能ク  
之レヲ知ル故ニ今ノ時ヲ以テ土帝ニ迫リ其承諾ヲ取ラ  
ント決心セリ  
魯帝ハ其決心ヲ実行セシカ為メ其寵臣「メシス」チコフ侯  
ヲ遣シテ「コンスタンチノポリ」ニ赴カシム當時「チセル  
ロ」トヲ除クノ外魯廷ノ内閣皆固執ツテ以為ラク  
今回ハ土帝勢必ラス魯帝ヲ承認シテ希臘教徒ノ保護者

ト為サニルヲ得サルヘシ而シテ其承認ノ結果ニ歐洲土  
領ノ込滅ヲ来スモ英佛之口ニ救援干渉ヲ為スニ至ラサ  
ルヘシト然レモ此ノ先見ハ大ニ實地ト相違シ英佛二國  
非常ノ英斷ヲ以テ土耳其帝國ノ安寧ヲ保護スヘキヲ保  
証シ土帝モ亦タ危急且夕ニ迫リ計策出ル所ナキヲ以テ  
直ニ其保護ヲ受クルトニ決シ一方ニ向テハ則チ斷然  
ンスキコフ候ノ要求ヲ拒絕シ以テ魯廷ノ威迫ニ應シ又  
々一方ニ向テハ英佛兩政府ニ進取ノ干渉ヲ請ヘリ此時  
ニ際シテ英國公使「ゴンスタンチノール」ニ在ラサリシ  
ハ蓋シ英國ノ僥倖ナルカ如シ然レモ佛公使ハ該都ニ在  
リシヲ以テ直ニ一國ノ英氣ヲ奮ヒ以テ其軍艦ヲタルダ  
キルニ峽ニ送レ此舉ヤ實ニ動止ヲ判別スルノ斷行ナ  
ルシカ故ニ怜々スバババババババババババババババババ

ニ遠巡スルヲ得ス其心之レヲ好マサルモ不得已其軍艦  
ヲシテ佛國軍艦ノ後ニ続カシメリ是ニ於テ「ゴンスタンチ  
ノール」ノ「プル」ヲ去レリ  
此ノ如クニシテ外面宗教ノ為メニスル陰謀暗算尽ク失  
敗ニ至レリ蓋シ所謂聖墳神室ハ唯々其陰謀暗算ヲ突  
行スル口実ニ外ナラサリシ魯帝ノ之レヲ意ニ介セサル  
ハ猶ホ土帝ニ異ナラス而シテ佛帝及ヒ其同盟タル「アハ  
ル」テ「ン」候ノ之レヲ意ニ介セサルハ又タ猶ホ魯帝ニ異ナ  
ラス而シテ當時其紛議ノ實点ハ魯帝ガ土帝ト其臣下ト  
ノ間ニ干渉スルヲ得ニキヤ然ラサルヤニ在リ而シテ佛  
政府ハ斷然魯帝ニ其干渉ノ權チキヲ明言セリ嗚呼「アハ  
ル」デ「ン」候其驥尾ニ附キ果シテ如何ナル處分ニ出テタル

乎當時若シ佛國ノ率先スルナク之レヲシテ孤立タラシ  
メハ或ハ魯帝ノ武威ニ屈辱シ既ニ蒙ル所ノ汚辱ニ倍徙  
スルノ汚辱ヲ加ヘタルモ亦タ測ルヘカラサルナリ然リ  
ト雖モルイヌナホレオン帝ハ此場合ニ際シ逡巡遲疑以  
テ怯弱姑息ノ舉動ヲ示ス能ハサルノ情勢ナリ何トナレ  
ハ此時帝若シ逡巡遲疑以テ果斷ノ處置ニ出ル能ハス  
ハ歐洲ノ人民怨テ之レヲ蔑視スルニ至ラン誰ナ亦タ之  
レヲ尊信スル者アランヤ況ヤ其兵士ニ至リテハ或ハ帝  
ヲ蔑如シテ其廢立ヲ議スルニ至ランモ知ルヘカラス然  
ラハ帝ノ安危存亡ノ機此ニアリト言ハサルヲ得ス是レ  
帝ノ斷行處置ヲ取リシ所以ナリ魯帝其計畫ノ盡ク失敗  
シ終ニ鷲鳥ノ欲ヲ満足スル能ハサレシヲ以テ遺恨更ニ  
解ケサリシカ尚ホ前敗ニ懲リス又タ一策ヲ工夫シ威嚇

手段ヲ以テ英國ノ執政者ヲ驚カシ以テ佛國ト分離セシ  
メント企圖シ終ニ開戦宣告ニ及ハスシテ出兵シ直ニ  
ラス河ヲ渡リモルダヒヤ及ヒウテキヤニ占據ス夫レ此  
出兵ノ舉タルヤ戦禮ニ從テ戦ヲ宣告セサルモ實ニ之レ  
ヲ宣告スルニ異ナラス而シテ土人モ亦タ之レヲ宣戦ナ  
リト認メ憤然其氣力ヲ揮擢シ兵力ニ依テ以テ其権理ヲ  
保護スルノ決意ヲ表セリ  
狂猛ナル魯帝此舉ヲ取ルノ報英國ニ達スルヤ則チ其内  
部ノ驚駭騷擾實ニ非常ナリシ今ヤ実戦ノ殆ント避クハ  
カラサル情勢ニ逼迫ヤシモノ、如シ然レモ四箇國ノ内  
何レノ國モ未タ其軍備ヲ為サ、リシモノハ蓋シ魯帝ハ  
自カラ信シテ以為ク英國ハ寧口如何ナル國辱ヲ招クモ  
必ラス局外中立ヲ守ルヘシ已ニ然ルキハ佛國必ラス不



快ヲ英國ニ懷キ亦々中立スルニ至ラント是レ帝ノ二國  
ニ向テ軍備ヲ為サ、リシ所以ナリ又々「アバ」侯ハ  
和議ニ依テ土人ヲ平穩ニ静メ「メン」スチ「コ」フ侯ヲ安穩  
ニ「ゴ」シスタ「ン」チ「ノ」ア「ル」ヨリ退カシメント思惟セリ佛  
國政府ノ思考モ亦々此ニ出タリシ是レ兩國ノ軍備ヲ為  
サ、リシ所以ナリ而シテ土國ハ又々英佛兩國ノ干涉ニ  
依テ容易ニ魯ノ侵入ヲ阻遮シ得ヘキヲ信シ其軍備ヲ怠  
リシカ今其藩國ノ侵掠ヲ蒙ルヲ觀テ則チ斷然意ヲ決シ  
公ニ開戦ヲ宣告シ次テ兵ヲ國境ニ出シ夫ニ平素ノ頑心  
ヲ破リテ同盟諸國ニ請ヘリ  
茲ニ於テ英國内閣ハ進退維レ谷マリ其内閣ガ古來未々  
實驗セサル非常ノ困難ニ際會セシモノ、如シ詩アリ曰  
ク

和不可媾戰不可開  
事之至此嗚呼悲哉  
今ヤ英國政府實ニ魯國ト戦ヲ交エントス然レ此之レカ  
為メ要スル軍資ニ至テハ巨額ノ公債ヲ起シ以テ之レニ  
充ルニ非サレハ他ニ支出ノ道ナキカ如シ而シテ之レヲ  
募集ヤシ乎金貸社會タル「ジュ」ウス教徒ハ如此キ戦争ノ費  
ニ供スルニハ「一」シルリ「ン」グヲモ貸スヲ好マサルヘシ是  
レ執政者ノ能ク知リシ所ナリ蓋シ「ジュ」ウス教徒ニ對シテ  
ハ貴族「マ」カウ「レ」ノ保証モ往昔ノ著名ナル「バ」ロン、マン  
カウ「ヤ」ンノ保証ト一般ニ效カヲ有セザルナリ況ヤ「ジュ」ウ  
ス教徒ハ數年前嘗テ二層卓觀ノ紳士前キノ「ロ」ルト、ア「シ」  
バルト「ン」アレキ「サ」ン「ダ」一「バ」一「リ」ン「グ」侯ヨリ一度ニ戦争  
ノ破裂スルヲアリテ出軍二回ニ及ブ「ハ」ハ必ラス銀行紙

幣交換ノ停止ヲ惹起スヘキコトヲ聽キ而シテ皆ナ自カラ  
能ク銀行紙幣交換停止ノ自己ニ損害タルヲ知ル是故ニ  
彼輩ハ其停止ノ不幸ニ遇ハンヨリ寧ロ魯帝ヲ倫敦府ノ  
トワリヲ拔ヒテ之レニ常守兵ヲ置クニ遇フヲ悦ブモ亦  
タ知ルヘカラサルナリ且ツ夫レ彼輩ハ皆ナ當時ノ智者  
ナリシカ故ニ若シ銀行紙幣交換停止ニ加ヘテ軍費ノ需  
用數年續クコトアラハ國債ノ利息ニ拂ヒ出ス不換紙幣  
ノ非常ニ下落スヘキヲ知リ又タ一千八百十九年制定紙  
幣交換恢復條例ノ如キ條例ハ此國ノミナラス何レノ國  
ニ於テモ決シテ再々行ハルヘカラサルヲ知レリ是レ則  
チ「ジュウス」教徒ノ國債ノ募集ニ應スヘカラサルヲ知ルニ  
足レリ然リ而シテ財政ノ点ヨリ觀ルルハ佛帝ノ情勢モ  
亦タ幸福ナリト謂フヘカラス其歲入未タ一千八百四十

八年財政ノ困難ヲ治マス又タ向後之レヲ全治スルノ期  
ナキカ如シ故ニ開戦ハ佛帝ノ為メニモ亦タ非常ノ財政  
困難ヲ醸生スルモノ、如シ  
情勢已ニ此ノ如クナルヲ以テ更ニ盡ガシテ以テ平和ヲ  
補綴ヤサルヘカラス故ニ英佛土魯ノ國維也納ニ會シ商  
議ノ上一片ノ條約書ヲ作レリ其文義タルヤ曖昧トシテ  
兩意ヲ許ス魯帝ハ之レニ已レノ希望スル所ノ意ヲ含ム  
ヲ見テ直チニ之レヲ承認セリ然レモ其暗算ハ忽チ失敗  
シタルヲ見ル何トナレハ是時土帝ハ幸ニ此和議ニ決ス  
ルハ信實ナル同盟國ノ援ヲ失フニ外ナラサルヲ知リ終  
ニ彼曖昧タル條約書ヲ非認シ再々心ヲ交戦ニ決シ戰敗  
レ國亡テ後ニ止ムヘキニ決定セリ  
嗚呼不幸ナルカナ「アバル」デシ執權内閣今ヤ實戰假戰其

一ヲ免スヲ得ス而シテ實戰ハ其カノ能ク及フ所ニアラ  
ス故ニ當時假戰ノ策ヲ取リシモ畢竟已ムヲ得サルニ出  
テシナレハ決シテ深ク咎ム可キニ非ラサルナリ抑モ其  
假戰ノ策タルヤ先ツ兵ヲ君子但丁ニ送リ以テ土人ノ交  
戰ヲ抑制シ虚喝手段ニ依リ一手ニ劔ヲ按シ一手ニ條約  
書案ヲ握リ以テ平和ノ商議ニ從事セシト雖モ終ニ其望  
ヲ達スルヲ得サリシ何トナレハ魯國政府ハ當時頗フル  
富國強兵ニシテ戰ヲ恐レ和ヲ悅フノ情勢ニアラサリシ  
カ故ナリ蓋シ其財政上ノ状勢タル其豐富ヨリ英佛土ニ  
超過スルヲ遠シ又タ兵士ノ如キモ之レヲ要スルハ幾  
千万ノ多キモ立ロニ集リ而シテ其召募費ハ唯々英兵召  
募費四分ノ一佛兵召募費ノ三分ノ一ニ過キス又タ其武  
庫造兵所ハ軍器武具ヲ以テ充實ス就中其最モ幸福ナリ

シハ魯國政府世ニ信憑ヲ得ルノ厚キ是ナリ其信憑ノ厚  
キヤ英國人ト雖モ尚ホ其需用品ヲ賣与スルヲ喜ビ而シ  
テ我國製ノ彈藥硝鉛其他ノ軍用品普國ヲ經過シテ魯廷  
ニ送ラル、ハ誠ニ悲歎スヘキモ決シテ疑フ可カラサル  
ノ事實ナリシ夫レ魯帝ハ益々侵略ノ計ヲ運ラシ今ヤ海  
陸ニ由テ土國ヲ畧セントスルモノ、如ク其艦隊ヲ「シ」  
「フ」灣ニ遣シ土國ノ艦隊ヲ襲<sup>ズ</sup>碇泊スル商船ト共ニ之  
レヲ擊破セシム此時土人ノ死傷夥シク繫泊ノ英國商船  
モ亦タ其災ニ罹レリ此報英國ニ達スルヤ圍國ノ人民勃  
然トシテ一度ニ發憤シ其暴怒恰モ狂ノ如シ又タ辨口ニ  
富ミテ思考ニ乏シキ者ハ囂々嘖々魯國ノ暴舉ヲ鳴シ益  
々民心ヲ煽動ス茲ニ於テ狂愚ノ甚シキモノハ我國ヲ再  
ビ「チ」ルソシ「ダ」シカシ「ゼ」ル「ゴ」クシ「ガ」ム「バ」イル「コ」リ

ウイドノ盛世ニ復シ大舉シテクロンスタトヲ襲撃シセ  
ントピータルズバグ<sup>ブル</sup>ルヲ焼テ灰燼トナシセバストポー  
ルヲ畧シオテスサヲ援キリベルヲ侵奪シ終ニ魯帝ニ迫  
テ我軍費ヲ償ハシムルノ時アルマシト妄信セリ佛國ニ  
於テモ亦タ均シク民心大ニ發憤揮擢ス故ニ是時迄タル  
夕子ルレスノ入口ボスボラスノベイ<sup>イ</sup>ル灣ニ留リシ英佛  
軍艦モ遂ニ進テコンスタンチノール峡ヲ過キ黑海ヲ  
横航セリ

對敵二歳其間ニ實戦ヲ好マサル國ハ頻リニ虚構拙劣ノ  
挙動ヲナシ虚勢ヲ張リシモ其虚雷常ニ真砲ノ力ニ挫折  
セラレ從テ奇怪ノ事変不慮ノ惨状ヲ現出セリ然レモ其  
顛末ヲ記スルハ此書ノ主意ニアラサルカ故ニ之レヲ畧  
シ唯々此戦争ハ我政府ノ甚々嫌セ恐レシ所ニシテ又々

避ケ免カレシト勉メタリシモノタル當時ノ情勢ニ由テ  
證明スルニ足ルヲ指示スレハ十分ナリト信ス初メ租  
稅卿ハ金貸社會ノ心ヲ安ンヤンカ為メ産業稅參芽稅證  
印稅ノ増加ト租稅院券ノ發行トニ依テ該年度ノ歳費ヲ  
支辨スルヲ公言シ以テ國債募集ノ策ヲ取ラサルノ意  
ヲ表セヨ夫レ是公告タルヤ恰モ兵士ヲ飢餓ニ窘マシメ  
テ可ナリ然ルモハ戦争ノ禍ヲ免カルベシト公告スルニ  
異ナラサルナリ何トナレハ魯國ノ如キ強國ニ向ケ戦ヲ  
維持ヤンニハ必ラス巨額ノ國債ヲ募集シテ其軍費ニ充  
テサルヲ得サルハ識者ヲ待タスシテ明ラカナレハナリ  
然リ而シテ我政府カ既發ノ紛擾ニ又々紛擾ヲ加フルヲ  
恐レ非常ノ注意ヲナマシハ固ヨリ免カルヘカラサル情  
勢ニシテ當時我國魯國ニ對敵スヘキ良策ヲ欠クヲ見テ

モ知ルヘキナリ往昔「ガザリ」ニ世カ當時ノ「ニコラス」ノ  
如ク土國ヲ侵掠セント謀ルニ當テヤ時ノ執權「ボール」氏  
ハ之レヲ威嚇スルニ唯タ魯國ノ教港ヲ封閉シ其貿易ヲ  
遮断スルヲ以テシ遂ニ女帝ヲシテ其企ヲ中止セシメタ  
リ然レモ是策ヲ行ハシニハ古來英國法學士ノ主張シ以  
テ我國ノ右手ト為セシ彼ノ諸港封閉海上視察ノ二權ヲ  
實誠<sup>ニ</sup>セサルヲ得ス而シ當時之レヲ試ミ能ハサリシハ誠  
ニ悲ムヘキナリ蓋シ其之レヲ實試シ能ハサリシモノハ  
抑モ當時若シ是權ヲ實試スルハ獨リ魯ト不可解ノ恨  
ヲ結フノミナラズ又タ普佛合衆國等ト葛藤ヲ醸スニ至  
ルヘシ何トナレハ普國ハ常ニ魯國ノ貿易ヲ取次キ佛國  
ハ常ニ該權非認ノ說ヲ唱ヘ合衆國ノ如キモ其賢明ナル  
法學士ノ是權ヲ是認スルニ拘ハラズ其輿論ハ誤テ之レ

ヲ非認スルカ故ナリ情勢既ニ此ノ如キヲ以テ英國執政  
者ハ策盡キ計窮マリ終ニ「ロルド・ジョン・ラッセル」氏ヲ其犧牲  
トナスニ至レリ蓋シ同氏ノ自カラ恥ヲ忍テ一切ノ罪ヲ  
負ヒ汚辱ヲ蒙ムラントスルノ自國ヲ救ヒ當時政府ヲ將  
ニ顛覆セントスルニ助ケタリシハ實ニ同氏ノ榮譽ナリ  
ト言フモ不可ナカルベシ夫レ維也納ノ媾和會議ニ於テ  
英廷「カウン」ト「ボール」ヲ遣シテ屈辱ノ商議ヲ為シタルハ  
其實我全内閣ノ同意ニ出タルヤ疑ヲ容レス然レモ當時  
我内閣ハ歐洲ニ對シ其責ヲ負フヲ恥テ曖昧ナル偽言ヲ  
構テ曰ク外務卿「ジョン」ニセラル候ハ内閣同僚ト其意見ヲ異  
ニスルヨリ是<sup>レ</sup>處措ヨリト嗚呼此非理ノ言譯ニ就テ何  
人モ之レヲ僅々金貸社會ノ尊信ヲ繫クニ足ルヘシトス  
ヲ斷言シ能ハサルベシ何トナレハ金貸社會ハ衆庶ヨリ

モ一層其事情ヲ明カニ觀察シタレハナリ然リト雖モ當  
時甚々是國ノ榮譽ヲ傷テタル兵事軍畧ノ宜キヲ得ナリ  
シ事ニ至テハ之レヲ以テアバルデシ執権内閣ヲ責ムベ  
カラス蓋シ武事ノ衰フルマ是時ニ始マルニアラス多年  
ノ前ヨリ既ニ少年輩ノ海陸軍ニ從役スル者皆ナ自然ト  
心ニ戦争ヲ度外視シ又タ武事ヲ講ヤス軍畧ヲ語ラス茲  
ニ於テ軍學ハ蕩然トシテ地ヲ掃ヒ嘗テ議院ニ於テ公言  
ヤラレシ如ク上ハ將帥ヨリ下ハ旗手ニ至ル迄一切ノ軍  
人終ニ歐洲ノ笑草トナリ且ツ將帥ノ無能ナルヨリ兵卒  
皆ナ非常ノ艱難痛苦ニ過ヒ實ニ人ヲシテ身慄々膽寒カ  
ラシムルニ至レリ  
一千八百五十五年一月國會ノ開場ハ右ニ序述スルカ如  
キ國家多事人心恟々ノ際ニ始マレリ是時ニ發生シタル

一事変ハ以テ將來ヲトスヘキ確証タリ乃チ「コルドジ」  
ニヤル氏民心恟々物議噴々ノ情勢ヲ見テ大ニ恐レ直ニ  
其職ヲ辞ヤシガ民心更ニ一層ノ疑惑ヲ増シ益々揣摩ヲ  
逞フスルニ至リ茲ニ於テ無根ノ説ヲ唱ヘ非理ノ論ヲ構  
ヘ喋々囂々執政者ヲ非議誣告シタルヨリ數週ヲ出スシ  
テ「アバル」テシテ執権政府ノ顛覆ヲ來セリ蓋シ該政府ノ顛  
覆シタルハ稍ヤ論者自己ノ無智無識ヲ發露スルニ過キ  
サル非難誣告ニ是レ由ルナリ  
然リト雖モ金貸社會ニ至リテハ其恐懼疑惑ニ根由アリ  
シモノ、如シ蓋シ金貸社會ハ皆ナ當時執政者ノ尽ク無  
智ニシテ戰ヲ起スノ道ヲ媾スルノ方畧ヲ知ラサルヲ  
ヲ確認シ必ラス一政変ヲ試ミント決定ヤシカ今ヤ其機  
會ニ遇ヒ其志ヲ達スルノ容易ナルヨリ進テ世人ニ與シ

終ニ「アバルデン」執権政府ヲ顛覆セリ然レモ唯々茲ニ一  
大困難ナルハ能ク戦乱ヲ鎮定シ平和ヲ補綴シ以テ彼輩  
ノ望ヲ満足スル人物ヲ得ルノ難キヲ是ナリ  
然リ而シテ茲ニ執政官ノ一更迭ヲ成セリ是ノ更迭タル  
ヤ唯々舊材料ヲ以テ新内閣ヲ組織シタルニ過キヌ是時  
「ロルド、デルビー」氏ハ深ク慮ツテ執政ニ撰マル、ヲ肯ヤ  
サリシ茲ニ於テ「ロルド、ジョシ、ラセル」氏殆ント執権ニ選任  
マラレシトスルノ状勢ナリ而シテ被選ノ人望其次ニア  
ル者ハ則チ「ロルド、バルマストン」氏ナリシガ該任選ニ大  
關係ヲ有スル人々ハ皆ナ眼ヲ「バルマストン」氏ニ著セリ  
盖シ同氏ハ今外國ノ事情ニ明カナレハ必ラス外交上ニ  
於テ能ク英断ノ処分ヲナシ遂巡遲疑スルヲナカラン而  
シテ又タ魯國ノ内情ヲ知ルニ於テ恐ラクハ他人ノ及ス

所ニ「アバルデン」同氏ハ又タ佛帝ニ好誼アリ茲ヲ以テ終ニ執  
権ニ任セラレタリ此更迭ハ實ニ二月十六日ニ在リシト  
雖レ後數日ヲ過キスシテ又タ内閣ニ一更迭ヲ生スルニ  
至ル乃チ「ロルド、ジョシ、ラセル」ハ不人望ナル「ヘルバルト」氏  
ニ代テ殖民事務局總裁ニ任シ「チャールズ、ウード」氏ハ「グ  
ドストン」氏ニ代ツテ租税卿ニ任シ「ウヰスミス」氏ハ「チャール  
ズ、ウード」氏ニ代テ會計検査院ニ長タリ是レ内閣ノ第二  
更迭ナリ時ニ二月二十二日ナリ盖シ内閣ノ是更迭タル  
ヤ國會ノ開會ニ先ツテ早ク之レヲ起シ以テ新内閣ヲ組  
織スルハ當時既ニ輿論ノ是認スル所タリ何トナレハ「ア  
バルデン」執権内閣ガ國會ノ暴風ニ過テ倒ルヘキハ既ニ  
瞭然トシテ明カナレハナリ  
「ロルド、バルマストン」氏終ニ執権ニ任シタリ氏ハ此ノ地

ニ達スルヤ許多ノ星霜ヲ經歷シ怪異委蛇タル行路ヲ經  
過シ来レリ其間各種ノ政黨ト事ヲ共ニシ各主義ノ政治  
家ト交レリ而シテ其職ニ任ヤシヤ人民皆チ揣摩ヲ逞フ  
シ憶測ヲ恣ニシ以テ英ニ侯ノ將來施政ノ方向ヲトス其  
誤解虛誕之レヨリ甚シキハ古來殆ント見サリシ所ナリ  
而シテ多數ノ人民ハ皆チ誤リ信シテ侯ハ必ラス勇敢奮  
勵以テ戰ヲ主張スルノ執權ヲラント議論ハ尽ク執權ハ  
ルマストン氏ノ教諭ニ因ルモノナリ夫レ「バルマストン  
氏ノ外交政畧ニ長スルハ更ニ疑フ可ク」スト雖モ當時  
其功ヲ羨シ得タルハ又チ不思議ノ天運之レヲ助ケシト  
言ハサルヲ得ス何トナレバ此危急ノ秋ニ方リ何人モ先  
見シ能ハサルモノナルモ屢々各國ノ命運ヲ制スル一大  
事変ノ發生シタルカ故ナリ

三月二日突然急報アリテ魯帝ニ「コラス病ニ罹リ危篤ニ  
迫ルヲ傳フ次テ又チ直ニ死去ノ變報到ル是變ヲ聞クヤ  
政洲各國皆チ愕然トシテ其死ノ急ナルヲ驚ケリ夫レ是  
變報タルヤ前ニ帝所勞ノ一暗告ヲモアラサリシ所ナレ  
ハ世人其急ナルニ驚クノ餘リ揣摩ヲ逞フシ憶測ヲ恣ニ  
シ其狀恰モ「ポール帝」アレキサシ「トル帝」ノ急死ニ次テ顯  
ハレシ狀勢ノ如シ而シテ最モ甚キ荒唐ノ疑察ヲ為ス者  
説ヲ為シテ曰ク魯國ニ於テハ金力常ニ全能ヲ有ヤリ又  
チ云ク數百萬封度ノ利益ヲ保護スル為メニ數千封度ヲ  
費ヤスハ固ヨリ甚チ容易ナルヘシ又チ云ク帝死亡ノ變  
ハ前ニ決シテ得ヘカチサリシ平和ヲ得ヤシムルモノナ  
リ何トナレハ則チ魯帝性剛頑固ニシテ一度ニ決心シ  
タル目的ハ必ラス之レヲ達セントシ若シ諫争シテ其目



的ヲ妨クルモノアルハ必ラス之レヲ罰シテ遺類ナカ  
ラシムルニ至リシカ故ナリト然レハ一證跡ノ嘗テ該憶  
測ヲ保支ヤシ者アルヲ見サルナリ夫レ魯帝ノ羅ツテ以  
テ死ニ至リシト言フ病ノ症タルヤ世人ノ未々嘗テ見聞  
セサル新症ニシテ其名ヲ「バルモナリ」ト、アポアレキシ  
ト称ス蓋シ血液肺ノ一部ニ留滯スルノ義ナリ而シテ其  
病徴タル甚タ奇異ニシテ其勢甚タ急ナリ然リト雖レ是  
事實ニ由テハ未々帝変死ノ原因ヲ推知スル能ハサルナ  
リ蓋シ此事情タル以來陰黙秘密中ニ藏匿セラレ終ニ世  
人之レヲ窺ヒ知ルニ由ナカリシガ後來モ亦タ之レヲ發  
露スルノ期ナキモノ、如シ然リト雖レ帝変死ノ為メ他  
日媾和ノ結約ヲ容易ニセシハ疑ヲ容レサルナリ蓋シ是  
レ必然ノ結果ナリト雖レ順常ノ結果ナリ

魯帝死去ノ後ニ歐洲ノ情勢漸ク平和ノ福運ニ向ヒ英佛  
魯土ノ皆切ニ望ム所ノ成果即チ戦争ヲ遏メ自他ノ便益  
トナリ若シハ自他ノ面目ヲ補フヘキ和約ヲ結フノ期ニ  
到ラントス然リト雖レ各國其威光ヲ全フヤント欲スル  
ヨリ未々俄ニ和ヲ決スルヲ肯ヤス故ニ一方ニ於テハ互  
ニ公書條約書案信書等ヲ相送り以テ和ヲ媾シ又タ一方  
ニ於テハ土領諸属地及ヒ「クリミア」ニ於テ悲戲ト評スル  
モ不可ナルナキカ如キ戦ニ從事シ数千ノ兵士ヲシテ流  
血漂杵ノ災ニ罹ラシメタリ初メ魯人ノ土ト葛藤ヲ開ク  
ヤ戦ハスシテ其志ヲ達セント計畫ヤシガ英佛ノ兵「コン  
スタンチノール」ニ到ルヲ見テ其計畫ノ行ハレサルヲ  
知リ今切ニ對戦ニ一段落ヲ置カシヨヲ望メリ佛國モ亦  
タ勝利ヲクリミヤニ得ル能ハサルヲ知り且ツ長戦ノ費

耗ノ遂ニ自國ノ貧困ヲ招クヘキヲ覺リ同ク媾和ヲ熱望  
セリ而シテ英國政府ノ如キハ是紛議ノ始メヨリ常ニ戰  
々競々トシテ此戰乱ヨリ生スヘキ惡果ヲ恐怖セシメテ  
レハ苟モ自國ノ面目ヲ我欺騙セラレ易キ國民ノ耳目ニ  
辱カシメサル程ナレハ如何ナル條約ヲ結フモ以テ平和  
ヲ取ラント冀望セリ  
此ノ如クニシテ事變皆ナ平和ノ運ニ傾向ス抑モセバ  
トポールノ都府タルヤ其武庫造兵所船具廠ト共ニ其灣  
口ノ一方ニ列リ而シテ他ノ一方ノ海面スル所ハ砲臺  
堡壘ノ固メアリ佛兵之レヲ圍ミ攻守連月是間ニ屢々血  
戰アリ而シテ魯將「ゴルトスチャコ」フ侯屢々危急ノ場合  
ニ遇テ屢々精練勇敢ヲ顯シ以テ能ク防守セリ此ヲ往昔  
「マヤナガゼ」ノア府ヲ防守シタルニ比スルモ敢テ其當ヲ

失スルモノニアラザルベシ終ニ將帥兵士非常ノ勇敢精  
練ヲ奮ヒ以テ其都府ノ一大要害タル「マ」ラコ「フ」ト稱  
スル保砦ヲ拔ケリ是レ實ニ是ノ戰爭ノ局未ナリ是ニ於  
テ魯兵ノ此堡砦ヲ守ル者ハ船ヲ以テ橋トナシ之レニ依  
リ難ナク灣ヲ横渡シ以テ對岸ノ堡砦ニ入り和約ノ調印  
セラルニ至ル迄之レヲ保守スルヲ得タリ夫レ魯人ハ  
其武庫船舶ト共ニ「セバ」スト「ポール」ヲヒビシト雖モ土領  
カ「ル」スノ城壘糧食尽キテ終ニ其手ニ落チシ故ニ其損  
ヲ償ナハリ之レヲ約言スレハ此戰爭タル其全局ニ就テ  
觀スル所ハ魯土共ニ得ル所失フ所ニ同フシテ自然ト調  
理制定ノ折合ヲ得タルモノ、如シ後世人ト雖モ恐ラ  
ク是言ヲ變スルヲナカルヘシ然ルト雖モ是戰爭ノ為メ  
ニ英國ガ其國格國威上ニ受ケタル攻撃ノ患害ハ之レヲ

医治消滅スルノ期ナカラシ  
闔國人民殊ニ金貸社會ガ平和ノ報ヲ聞キ欣然タルハ或  
ハ讚稱スヘキニ非サレモ決シテ咎ム可キニ非ス今之レ  
ヲ以テ人民ヲ責ムル者ハ此ヲ殘刻ノ論者ト言ハサルヲ  
得ス何トナレハ是和約タル之レヲ媾セサルハカラサル  
ノ時機ニシテ媾シタル和ナレハナリ夫レ當時平和ノ條  
約ハ三月第一週中ニ佛國巴里府ニ調印セラレシト雖也  
當時基督蘇生祭ニ際スルヲ以テ其吉報ノ公然式ノ如ク  
國會ニ達セシハ三月三十一日ナリ乃チ此日ロルドバ  
マストン氏自カラ下院ニ臨テ之レヲ報告ヤリ此時同氏  
和約ノ條目ヲ説明セズ唯夕一巳ノ説ヲ以テ此和約ノ英  
佛魯土ニ面目ヲ与エタルヲ陳述セシニ滿場ノ羨負之レ  
ヲ聞クヤ頗ラ爾歡喜満足ノ意ヲ表スルニ至ル是レ笑フ

ヘキ怪テハキニアラスヤ蓋シ同氏ノ愛耳蘭派ノ説明ニ  
從テ其陳述ノ意ヲ畧言セシニ抑モ和ヲ媾ヤシ時ニ當テ  
四大戰ノ狀勢ハ大ニ其面目ヲ改メ其國光宣戰ノ時ニ勝  
ルヲ遠シ故ニ魯人満足シ土人悦ビ佛人歡喜シロルドバ  
ル<sup>ロマ</sup>ストン氏ニ至テハ一層大ニナル光榮ヲ擔テ歡喜雀躍  
スルニ至レリ然リ而シテ是和約ニ就キ今ヲ斯ニ評論ヤ  
サル一大<sup>事</sup>實アリ何ソヤ即チ該條約中「カ」カシヤン人種  
タル英國人民ヲ益スヘキノ一條目アルヲ見サルト所  
謂ル光榮ナル平和ヲ得ルモ之レカ為メ我貴重ナル海上  
視察ノ權ヲ失ヒシト是ナリ蓋シ此權タルヤ古來英國海  
軍主權ノ右手ニシテ苟モ是主意ヲ談スル記者法官長カ  
ムヤル侯モ其内ニアリノ皆ヲ以テ然リトスル所ナリ  
註 左ノ一篇ハロルドバカムヘル氏ガ前諸法官長言行録

ト題スル一千八百四十九年出版ノ著撰中ニ載セタル  
船貨検査(按ニ或ハ海上視察ト訳ス)ノ権ニ係ル其案ナ  
リ該著撰第二卷三百七十六葉及三百七十七葉ヲ視  
ヨ  
ウストミニスタール大法院ノ歴史ヲ觀ルニ副大  
訟師ノ職ヲ奉スルノ最モ久シカリシモノハムーレル  
即チロルド、マンス、トルド氏トス而シテ同氏ハ全在  
職中專ラカテ是國ニ海軍ノ隆盛ナル所以ノ原由タル  
我大英國固有ノ特權ヲ主持スルニ足シ以テ大ニ其英  
名ヲ輝カセリ抑モ同氏在職ノ時ニ當テ普國王其二三  
鄰邦ト謀リ萬國公法ヲ改正シ海軍ノ卓越ヲシテ戰時  
ニ其效ナカラシムルノ方法ニ為サント企圖シ左ノ如  
ク主張ス戰國ハ大洋ニ於テ中立國・船中ニ積ム敵國ノ

物品ヲ奪フノ權ナカルヘシ又戰國ノ禁賣品ト雖モ  
中立國ノ所有品ナレハ中立國人之レヲ敵國ノ港江積  
入ル、ヲ得ヘシ又々如何ナル場合ニ於テモ戰國ニ中  
立國ノ船ヲ検査スルノ權ナカルヘシ而シテ又々英國  
海軍裁判所ガ局外中立ノ義務ヲ破ルヲ名トシ中立  
國ノ船舶物品ヲ沒收スル審判處辨ヲ以テ不正不直ナ  
リト主張ス夫レ普王ノ此要請ノ條目タルヤ普國公使  
シケル氏ガシントゼームス法院ニ進呈ヤシ公書中ニ  
アリ而シテ之レニ答ヘシ精確ナル答文ヲ見ルニ該特  
權法院ノ判事「サ、ダ、ン、リ」氏大狀師「ポール」氏大訟師  
「サ、ダ、ド、リ」氏副大訟師「ム、レ」氏皆ナ之  
レニ調印セリ然リト雖モ吾人ハ確實ノ證固ニ由テ該  
答文ノ專ラ「ム、レ」氏ノ手ニ出テタルヲ知ル嗚呼余

若シ當時ニ在テ此ノ如キ答文ヲ筆稿スルノ書記タラ  
ハ不敏ナリト雖モ之レヲ評論是非スルノ學識ナキニ  
アラサルカ故ニ其答辭ノ精練ナル余ヲシテ一讀三嘆  
セシメタルベシト言ハサルヲ得ス何トナレハ其議論  
皆十分明精密確實勇偉謹慎ニシテ且ツ爭フヘカラザ  
ル許多ノ道理ト實證トヲ以テ其論ノ堡砦城壘トシ実  
ニ稱讚スルニ言葉ナケレハナリ斯ノ如クニシテ「ム  
レ」氏ハ我國推國安ヲ外交上裁判上ニ保持シ普王ノ  
新局外中立公法案ノ全部ヲ論破シ更ニ餘ス所ナク不  
朽ノ花崗石ヲ以テ基礎ヲ築キ而シテ英國海軍ノ光榮  
ヲ支持スル無窮ノ圓柱ヲ其上ニ安置セリ  
一千八百五十六年五月五日和親條約批准ノ後上院ニ  
於テ「ロルド、エルスマー」ル氏動議ノ件ヲ女皇ニ奏聞ス

ル時ニ當リ「ロルド、カムベル」氏滿場ノ議員ニ向ヒ自己  
ノ意見ナリトシテ先キニ和ヲ憐マシク為メ船貨検査  
ノ特權ヲ放棄シタル方法ハ緊密ニ是國憲法上ノ慣例  
ニ適合スルモノナリト説ケリ又タ一千八百五十六年  
五月二十二日「ロルド、コルスタ」氏此主意ニ就キ縷  
々其考案ヲ勸議ヤリ是「ロルト、カムベル」氏ハ毒殺者「パ  
ルマ」ノ審判ヲナセシカ故ニ議場ニ出ルニ由ナカリ  
シト雖モ「ロルド、ベイレ」ヨリ其意見書ヲ「ロルド、グ  
ランビー」ル氏ニ送リシカハ同氏之レヲ議場ニ朗讀ス  
而シテ該意見書ニ於テ「ロルド、カムベル」氏ガ上院ニ告  
グル所ヲ見ルニ云々余千慮萬考シテ愈々先キニ余ノ  
自カラ陳述セシ持論即チ海戰公法人改正條約ヲナス  
ハ英國ノ利益ニシテ又タ英國政府ノ之レニ從フハ其

憲法上ノ慣例ナムトノ説ヲ固執スルナリト  
今斯ニ上節ノ意見ヲ評論スルモ其益ナカルヘシ然リ  
ト雖氏余ハ一二貴紳法官長ノ忌諱ニ觸ルニ拘ハラ  
ス謹テ余カ持論ヲ陳述スルノ自由ヲ乞ハサルヲ得ス  
其持論トハ何ゾヤ乃チ將來必ラス艱難ヲ凌キ危険ヲ  
冒シ以テ斯ク卑屈ニ放棄シタル海上ノ特權ヲ回復ス  
ルノ期ナカルベカラス然ラサレハ是國モ衰頽シテ終  
ニ第二等國若クハ第三等國ニ下落セサルヲ得サルヲ  
是ナリ

斯ノ如クニシテ是戦争(世人戲ニ之レリ)戦争ト稱ス其局  
ヲ結ヘリ而シテ其宣告ノ文ヲ觀ルニ文中一語ノ戦争ナ  
ル言辭アルヲ見ス蓋シ是レ所謂ル宣告文ハ其魯國及  
テ魯帝其他ニ向テ親睦ノ情ヲ表スルモノニ過キス而シ

テ其文ノ結末ニ「ビクトリヤ」女帝ノ禮儀アル辨解ヲ掲ケ  
元來我旧同盟タル土帝ノ所領ヲ保護シ以テ之レヲ併吞  
セント企圖スルモノヲ妨クルハ已ムヲ得サルノ情実ア  
ルニ出ルモ女帝ノ實ニ安カラス思フ所ナリト意ヲ記セ  
リ而シテ終ニ和約成ルニ至テ魯國ヲ齟視スルノ情即チ  
其光榮ヲ傷シ其威勢ヲ挫キ其領地ヲ蠶食スルカ如キ志  
念ハ断然之レヲ脱却スヘキヲ鄭重ニ誓ヒシモノ、如シ  
是則チ此戦争ノ結局ニシ其宣戦ノ告文實ニ之レカ前兆  
タリシモノ、如シ  
然リト雖氏吾人若シ右戦争中我國ノ進退拳動ヲ制セシ  
所以ノ情勢ヲ觀察スルハ自カラ我國ヲシテ此奇怪ナ  
ル戯曲ヲ舞臺ヤシメタル理由ヲ知り以テ災害直チニ其  
極ニ至ラサルヲ甚クハ驚カサルニ至ラシ初メ魯帝ニ

コラス不義姦詐ノ舉ヲ以テ土帝ノ所領ヲ畧取ント謀  
 リシ件ニ當テヤ我國及ヒ合衆國ニ於テハ紙幣増發ノ為  
 メ貿易大ニ泡起ノ景氣ヲ現ハセシガ「ロルド、オーバース  
 トン」氏其他同主義ノ論ノ如キ之レカ為メ國內繁榮ノ外  
 形アルヲ見テ之レヲ隆盛繁榮ノ昭代ト稱スルニ至ル而  
 シテ當時「カリホルニヤ」ニ金坑ヲ開採シ次テ又「オース  
 トリアリヤ」ニ金ヲ産ヤシト雖大英國及ヒ合衆國ニ於テ  
 ハ該金塊ヲ以テ益々各種ノ投機ヲ營シ紙幣ヲ増發スル  
 ノ資トナスニ過キナリシ是故ニ初メ「魯土」ノ紛議將ニ破  
 裂ヤントヤシ時ニ當テハ英國銀行尚ホ其準備ニ富ミ一  
 千八百五十二年十二月二十四日ノ準備金高二千三百三十  
 六万七千封度ノ巨額ナリシト雖「後」忽チ左表ニ掲ク  
 ルカ如ク減額スルニ至レリ乃チ左ノ表ハ該準備金ノ我

國ノ損害汚辱トナリシ右戦争ノ間ニ減少シ一千八百五  
 十六年三月迄其減少ノ引續キシ状況ヲ示スモノナリ蓋  
 シ三月ニ於テ準備金ハ僅々二百五十万封度ニ減シタル  
 ヲ見ル故ニ此時ニシテ戦争ノ平定スル「ナカリヤ」ハ必  
 ラス財政上ニ前代未聞ノ大困難ヲ見シナラン

英國銀行毎週ノ報告負債高準備金高四期平均表

年 紀	流 通 額		地 金	
	封度		封度	
一千八百五十二年 十二月二十四日	二四二九五〇〇		二一三六七〇〇	
一千八百五十三年 三月十九日	二三九六七〇〇		一九一七六〇〇	
全 六月十一日	二四二三六〇〇		一八五六一〇〇	
全 九月三日	二四五六一〇〇		一七八一三〇〇	
全 十二月二十四日	二三三六九〇〇		一五四六二〇〇	





和成ルヲ以テ國內ニ公告スルヤ此ノ如キ場合ニ必然ノ  
影響ヲ民心ニ發生シ先キニハ愁雲慘黯タリシモ今ハ変  
シテ全國到ル所歡喜慶賀ノ状ヲ見サルハナシ斯ノ如ク  
ニシテ人多ク一時ノ安ヲ喜ビ平生ノ警誡ヲ忘却シ適々  
災害ハ鋤去セラレタルニアラスシテ唯々其破裂ノ期ヲ  
遲緩シタルニ外ナラサルヲ表示スル徵候ノ起ルアルモ  
等閑ニ着過シテ又々之レヲ語ルモノナキニ至レリ而シ  
テ英國銀行取締役ノ當時實ニ尚ホ安心ニ至ラザリシモ  
ノハ其然ルヘキ理由ノ存スルアレハナリ然レモ該取締  
役ノ如キハ唯々英國ノ貿易空取引ノ極度ニ達シタル  
ト憑信無実証書ノ増加ハ徒ニ社會ヲ害ムヘキ空取引ヲ  
煽動シ以テ空取引者ヲ罪科ニ陷ルハ具タルヲ觀知  
スルニ過キサルナリ抑モ空取引ノ盛ニ行ハルヤ必テ

ス奢侈ノ弊風ヲ醸生ス斯ノ如キ世ニ於テハ人外見ニ富  
豪ヲ示シ他人ヲシテ已レテ富者ト誤認セシメ以テ信用  
ヲ世上ニ得ント欲スルニ由ルナリ一千八百四十七年財  
政上ノ恐慌ハ騷擾前数年ノ間外國榮耀品ノ消費多カリ  
シモノハ蓋シ此ニ因由スルナリ而シテタリミヤ事件ノ  
其局ヲ結フニ及ビ榮耀品ノ消費一層多キヲ加フルニ至  
レリ乃チ英國ニ於テ常ニ貿易上ニ困難ヲ興フル一大原  
因アリ何ソヤ即チ其食ヲ租税ニ食ム人々多キト是ナリ  
此輩ハ皆チ直接ト間接トヲ問ハス自己ノ消費スル輸入  
榮耀品ノ代リニ輸出スヘキ何物品ヲモ生産スルモノニ  
アラス是レ常ニ貿易ノ不推衡ヲ生スル一大原因ナリ然  
ルニ一千八百五十六年ノ後チ海陸軍兵隊歸國シ各給料  
ヲ領取ヤラレテ榮耀品ニ浪費シタルヨリ益々貿易ノ不

權衡ヲ甚シクヤリ夫レ商務局ニ於テハ貿易ノ報告ヲ編  
 スルニ呼價ヲ以テ輸出ヲ算シ實價ヲ以テ輸入ヲ推算シ  
 之レヲ比較對照シテ其差ヲ認メント勉メタレバ余ハ其  
 果シテ肯綮ニ的中シタルヲ保証スル能ハス蓋シ輸出輸  
 入共ニ其計算大ナル誤リアリシナラン余實ニ之レヲ信  
 ス假令今一步ヲ讓リ該局ノ計算ヲ以テ其實ニ遠カラス  
 トスルモ尚ホ之レヲ以テ當時貿易ノ不推衡年ヲ追テ甚  
 シキニ至ル情勢ト一度ニ財政上ノ困難ニ逢過スルヲア  
 ラハ必ラス不測ノ災害ヲ免カレカタキトヲ明示スル  
 ニ足ルナリ

一千八百五十四年 封度  
 輸入 一五三三八九八三五  
 輸出 一四三五四二八五〇

一千八百五十五年 封度  
 輸入 一四三五四二八五〇  
 輸出 一四三五四二八五〇

積戻	一八六三六三五六	積戻	二一〇〇三二一五
差	一三三七五三四六九	差	一二二五三九六三五
輸出	九七一八四七二五	輸出	九五六八八〇八五
英國ノ不平均	三六五六八七四四	英國ノ不平均	二六八五一五五〇
一千八百五十六年		一千八百五十七年	
輸入	一七二五四四一五四	輸入	一八七六四六三三五
積戻	二二三九三四〇五	積戻	二二三三三七六五
差	一四九一四〇七四九	差	一六四二九二五七〇
輸出	一一五八二六九四八	輸出	一二二一五五二三七
英國ノ不平均	三三三三三八〇一	英國ノ不平均	四二一三七三三三

是レ則チ商務局ノ報告ニ由リテ編輯スル所ノモノナリ  
 又々左ノ表ハ右四箇年ノ間ニ榮耀品輸入ノ著シキ増加  
 ヲ示スモノナリ其項目ノ如キハ尚ホ之レヲ増加スルヲ

甚々容易ナリ

商務局報告 拔萃輸入品表

	一千八百五十四年 封度	一千八百五十五年 封度	一千八百五十六年 封度	一千八百五十七年 封度
椰子樹	七三一二四	一四二六四四	一六七六七八	二六七八五三
外國産珈琲	三七七四九五	三七五二二九	三三五三一七	四五四七三六
覆盆子	一三〇六七二	五二九〇九三	九七一七八二	七三九六七六
干葡萄	四五二五三二	四四四〇六九	六〇七五九八	七二九六〇七
米	九四六八五二	一六三五五七四	一九八七	一九五八七六一
生糸	五三二一四三二	四八四七三三	七二八九七三〇	一三一四三八三九
印度縮布	三〇六二三七	三一三二八五	四〇一六四五	二六五三一三
豹皮	一八五七一七	二〇一七二〇	二七八四五〇	三二九七八〇
ブランデー	一二二五三三五	九三三九九八	一二七九三一五	一八三六六四八
其他ノ焼酎	一四七五七一五	一二五四七四三	九七二八八一	一〇八四八六六

英産生砂糖	六二八九九〇三	六五二二四二二	八四三七五〇三	九五六二三四九
外國産生砂糖	三四二五八九九	三一一九四一六	二九九二二八九	五一八一三三〇
外國産精砂糖	五七九一八〇	七二二三二五	三三六四九六	七五六六五五
糖蜜	五八〇四六八	六一一六五四	七三六九三〇	九〇七〇三九
生煙草	一〇六八六九四	一三〇三〇〇四	一九八〇六九二	一八九五一〇四
葡萄酒	三六一六三六九	三〇七五七四七	三七四〇七六七	四〇八〇六七八
羊毛	六四九九〇〇四	六五二七三二五	八六六四四二〇	九六八一五四一
羊皮	四〇四〇四	二七三三三	一〇九三六二	一三三八二五

一千八百五十七年ニ至リ苟モ精密ニ英國通貨上ノ情勢ヲ觀察セシ若ハ其通貨上ニ一千八百四十七年ノ如キ危変ヲ免カレサル情勢アルヲ知レリ蓋シ是ノ時既ニ財政上ノ事物一トシテ之レヲ証ヤサルナケレハナリ而シテ英國ニ行ハル、ト均シキ空取引ノ当時又夕巴里府ハム

ホルグ及ニコニコ行ハレシヲ見ルニコウヨクニ於  
テハ一千八百五十七年ノ夏已ニ大恐慌ヲ惹起セシモノ  
如シ蓋シ金坑ノ開採アリシヨリニコウヨク諸銀行其  
準備金塊ヲ増加シタルガ故ニ之ヲ口実トシ非常ニ紙  
幣ヲ増發シ以テ產物上及ニ各種ノ株券上ニ甚シク投機  
ノ風勢ヲ煽動シ而シテ鞏固安全ヲ保持スルノ資力タル  
ヘキ金塊ヲ用テ却テ凶減ヲ招クノ具トナスニ至レリ是  
レ財政上ニ危変ヲ醸生スルニ十分ナリ然ルニ尚ホ他ニ  
一争變ノ起ルアリテ一層其危變ヲ甚シカラシメシヲ見  
ル  
一千八百五十七年八月英領印度ニ稍ヤ穩カナラサル情  
勢ヲ生シ為メニ東印度商會ヲシテ直ニ正貨一百万封度  
ヲ送致スルノ已ムヘカラサルニ至ラシメタリ而シテ是

ノ金額ヲ英國銀行ニ需要シタルハ實ニ八月十七日ナリ  
蓋シ該月ハ金貨ノ流出未タ其後ノ如ク甚シカラサリシ  
ヲ以テ該銀行能ク其求ニ應スルヲ得タ且ツ此ノ遠隔  
所領ニ於ケル不平兵士ノ叛乱ノ如キ一英人之レヲ意ニ  
介セス猶ホ以前ノ瑣々タル小非擧ノ如ク忽チ一撃ノ下  
ニ其叛徒ヲ鑿殺シ以テ之レヲ鎮定スルヲ得マシト思惟  
シ印度事件ハ心ヲ勞スヘキ大事ニアラストセシモノ  
如シ  
是時ニ當テ商業上ノ凶報頻リニ合衆國ヨリ到着セリ抑  
モ該國ニ於テハ人々諸種ノ株券ヲ以テ投機ヲ營ムノ甚  
シキヨリ鐵道株券建築會社株券其他各種株券ノ價格非  
常ニ騰昂シ一時ハ昔時英國ニ於テ所謂南海泡沫其膨  
脹ノ極度ニ達セシ時ノ外他ニ比例ナキカ如キ甚シキニ

至リシカラス其投機失敗シ空相場下落スルノ變  
運トナリ此ノ如キ場合ニ常ノ如ク忽チ瓦解倒産ノ慘狀  
ヲ商業上ニ發生セリ即チ紐約克ニ於テハ銀行ノ全數六  
十三個ノ内紙幣交換ヲ停止セシ者六十個ノ多キニ及  
ハリ一千八百五十八年七月一日允准刊行ノ銀行條例調  
査委員ノ報告ニ依ル  
當時私立商會ノ倒産ハ勿論枚舉ニ遑アラシテ英國  
ニ於テモ製造運漕ノ業ト為ス者ハ多ク此ノ災ニ連累ス  
ルヲ以テ此ノ國ニ波及スル結果ノ如何ヲ想像スル蓋シ難  
キニアラサルナリ是時米國大統領「ブカチ」氏ガ其國會  
ニ送リシ公書ニ殆ク上讀者ヲシテ痛歎ニ堪ヤラシム曰  
「我國ヲシテ理財上ニ今日ノ不幸ヲ見セシメタルモノ  
ハ特ニ紙幣政策銀行條例其宜キヲ得サルガ為メ株券ヲ

以テ投機博奕ヲ試ミルノ弊風ヲ人民ニ煽動スルニ由ル  
是レ昭々トシテ明カナリト嗚呼米國ニ於テハ人民皆チ  
其生活ニ容易ニシテ且ツ其負稅甚タ輕ク而シテ其政府  
モ亦チ財政豊ニシテ其安全長久ヲ維持スル為メニ全國  
ノ倒産ヲ其結果ニ見ルカ如キ事業ヲ不問ニ看過シ若シ  
クハ之レヲ懲通スルカ如キ貧政府ニアラズ然ルニ如斯  
投機博奕事業ノ行ハルハ豈長大息スハキニアラ  
スヤ  
註合衆國ニ於テ當時破産ノ數ハ七千三百五十二個其  
破産者負債ノ全額ハ五億三千一百万ドルラシテ而シテ  
紐約克州及其都府ニ於テ破産マシ商會ノ合計ハ一  
千九百十六個ニシテ其負債ノ全額ハ一億一千三百二  
十万四千ドルラシナリ

大  
載  
省

九月中ハ商業社會ニ疑懼頗フル甚シカリシモ未夕所謂  
ル恐慌騷擾ニ至ラサリシカ十月ニ至リ米國ニ於ケル投  
機ノ失敗空相場ノ下落ノ惡果已ニ掩フヘカラサルニ及  
テヤ其災ノ此ノ國ニ波及スル必然ノ勢トナリ而シテ苟  
モ如此主義ヲ觀察スル眼ヲ具スル者皆ナ必ラス其然ル  
ヘキヲ知レリ乃チ十月十九日ニ於テ西蘇格蘭銀行米國  
ノ反動ニ依テ甚ク危險ノ状ヲ示セリ其日ニ英國銀行ノ  
準備金銀地金ハ僅々八百九拾九萬一千封度ニシテ其準  
備紙幣ハ四百十一萬五千封度ナリ是ニ於テ該銀行取締  
役ハ利足ノ割合ヲ騰昂シテ八分ト為セリ蓋シ是レ一度  
ニ斯ク騰昂セシニアラサ十月八日ニ六分トナシ又同月  
十二日ニ七分トナシ而シテ十九日終ニ八分トナヤシナ  
リ茲ニ於テ非常ノ危変ヲ其成果ニ見ルヘキハ實ニ瞭然

トシテ疑ヲ容レサルカ如シ私立銀行者ノ如キハ皆ナ債  
附及テ割引ノ要求ヲ一切謝絶シ苟モ不用ト通宝アル中  
ハ皆ナ之レヲ英國銀行ニ預ケ以テ共同ノ安全ヲ保持セ  
ント企圖セリ斯ヨ以テ十月二十八日ニ至リ倫敦府ニ於  
テ割引商家ハ皆チ英國銀行取締役ニ告クルニ以來各商  
家ノ要求ニ應シ其金額ニ制限ナク必ラス債附ヲ為スヘ  
キ保証ヲ其銀行ヨリ得ルニアラサレハ其業ヲ持續スル  
能ハサルヲ以テスルニ至レリ其前日「リバプール」ノ「ホロ  
」銀行其業ヲ停止セリ而シテ愛耳蘭蘇格蘭「ハムバルグ」  
紐約克ニ輸送スヘキ金貨ノ需要一齊ニ起リ英國銀行ハ  
言ヲ待タス亦チ佛國銀行ニ向テモ其需要日ニ増加マリ  
而シテ十月三十日ニ巴ムヲ得サルノ情勢ヨリ初テ銀貨  
ヲ印度ニ輸送ス然ルニ國內ニ金貨ノ需要愈々甚シキヲ

以テ十一月五日割引ノ割合ヲ九分トナセリ其後二日ヲ  
經テ格拉斯ゴロノ「デヒ」ニストシ商會其店ヲ閉テ九日西  
蘇格蘭銀行破産シ十二日「ダラス」府銀行モ亦夕其轍  
ヲ踏メリスノ如クニシテ恐慌騒擾全國ニ普キヲ見ル是  
時ニ當テ商估ノ割合ヲ請フ者ハ獨リ目前通貨ヲ要スル  
者ノミニ止マラスシテ或ハ数日ノ内割引ノ止マンヲ  
恐ル、ヨリ其所持スル処ノ手形ヲ尽シテ其割引ヲ請ヒ  
シ者多カリシ是レ當時英國銀行ノ頭取「ト」氏ノ承認  
スル所ナリ同日九日ニ於テ該銀行ハ其割引ノ割合ヲ上  
ゲテ一割トナセリ斯ノ如キ情勢ニ際シテ全國賣買取引  
ノ需要ニ應ズル者ハ獨リ英國銀行アルルニ而シテ是レ  
固ヨリ久シキニ堪ユヘキニ非ラス然レモ各個人ニシテ  
金銀ヲ有スル者ハ皆ナ他ヲ疑ヒ更ニ之レニ貸與スルヲ

肯ヤスシテ大々ニ三分利附公債證券ヲ買フ之レヲ買テ  
コノ許多ナルヤ為メニ此ノ紛擾ノ際ニ於テ其價格ヲ騰  
貴スルニ至レリ同日十一日ニ至リ又夕大割引銀行「サン  
デル」リシ商會其紙幣ノ交換ヲ停止セリ是時ニシテ政府  
若シ干涉政畧ヲ施スヲナクンハ「サン」ルソシ商會ヨリ  
一層重要ノ二大商會又夕踵ヲ接シテ其店ヲ閉ツヘシ已  
ニ然ルハ英國銀行ノ厄運モ期シテ待ツヘキナリ是レ  
則チ該銀行取締役ノ「ロルド」氏ニ報道シテ  
其干涉ヲ請ヒシ所以ナリ是ヲ以テ政府ハ其十二日終ニ  
制令ヲ發シテ一千八百四十四年制定銀行條例ノ第二停  
止ヲ命ス其制令ニ即チ執權「タル」ヌストシト租稅卿「ジ  
ト」シトリビスニ連印ニテ該銀行取締役ニ許スニ一時右  
條例中不便ナル條目ヲ遵奉スルニ及ハサルヲ以テスル

之ノナリ此干涉政畧タルヤ実ニ其時ヲ得タリト謂ツベ  
 シ何トナレハ其日夕ニ於テ支出シ得ヘキ紙幣及テ貨  
 幣ノ残額ハ僅々五十八万一千封度ニ過キサルヲ見タレ  
 ハナリ左ノ表ハ即チ銀行條例調査特選委員ノ報告ニ  
 ル処ニシテ一千八百五十七年十一月十日十一日十二日  
 ノ三日間英國銀行ノ會計ノ情状ヲ示スモノナリ  
 金銀地金 準備金 割引及貸附  
 十日 七四二一 二四二〇 一一八〇三  
 十一日 六六六六 一四六二 一五九四七  
 十二日 六五二四 五八一 一八〇四四  
 止表ニ載スル十一月十二日ノ準備金ハ其内ニ支店ノ公  
 會存スルカ故ニ少シク説明ヲ要スルナリ即チ左ニ記

十日	七四二一	二四二〇	一一八〇三
十一日	六六六六	一四六二	一五九四七
十二日	六五二四	五八一	一八〇四四

スル所ハ「ケ」氏ガ調査委員ニ報告シタカ一覽表ヲ  
 倫敦 支店 合計 封度

紙幣	六八〇八五	六二五四五		封度
金貨	二七四九五三	八三三五五		
銀貨	四一〇六	五〇八〇七		
	三八四一四四	一九六六〇七		五八〇七五一

此表ニ據テ見ル所ハ其實十一月十二日ノ夕ニ於テ英國  
 銀行ノ出シ残ヤシ紙幣及テ金銀貨幣ノ合計ハ僅々三十  
 八万四千百四十四封度ニ過キス然ルニ是時私立銀行者  
 ノ預金額ハ五百四十五万八千封度アリシ是レ其翌朝ニ  
 至ラハ必ラス皆チ取戻ヲ要セラレタルナラン此ニ由テ  
 之レヲ觀ル所ハ當時若シ干涉ノ制令發ヤラル、下ナカ

大 職 當



リヤハ該銀行ハ國法ニ違背シ罰ヲ自己ニ受タル乎或ハ十一月十三日ニ交換ヲ停止シ以テ全國一般ノ交換總停止ヲ惹起スル乎二者其一ヲ免ルハ得サルハ是レ疑ヲ容レサルナリ況ンヤ此事ハ該銀行當時ノ頭取「ト」氏モ明カニ其必ラス然ルヘキ確答セシ所ナリ蓋シ該頭取ノ答辭ニ必然ナル言辭アリ今マ其言辭ノ意義ヲ限ラント試ミルモ其効ナカルヘシ何トナレハ當時世人ノ需要タル國ヨリ貨幣ニアルヘシ而シテ僅々三十八万封度ヲ以テ安クシテ能ク一百万封度ノ需要ニ應スルヲ得ンヤ決シテ應シ得ベカラザレハナリ

註問テ曰ク然ラハ此ノ情勢ニ際シ若シスリドニドニドニ街ノ銀行ヨリ私立銀行者其預金五百二十万封度但シ他ノ預金者預金ハ算入セス中一百万封度ヲ

引出スヲアラハ該銀行ハ交換ヲ停止セザルヲ得サルニ至リシナラン乎

答テ曰ク然ナリ乃テ預金者貨幣ニ之レヲ引出シ而シテ各自コレヲ蓄藏シテ又タ世間ニ流通スルヲナキモノトセハ則テ其交換ヲ停止スルニ必然ナラン然レバ若シ然ラサルハ準備金決シテ全尽スルヲナカルベシ

是レニ由テ之レヲ觀ルハ「ロ」ルドバルマストン氏ハ財政上ノ恐慌騷擾ヲ放任シ英國銀行及ヒ其國民ヲシテ困難ノ極ニ窘迫ヤシメシマ瞭然タルカ如シ夫ノ調査委員ノ報告ニ據レハ十一月十一日ヨリ三十日ニ至ル間該銀行ノ貸附及ヒ割引高ハ八百万封度ノ巨額ナリシモ當時干涉制令ニ由テ紙幣ヲ發行シタルハ僅々二百万封度ニ

止マレリ然レ氏未タ之レヲ以テ當時該銀行財政餘裕ノ  
證ト速了スヘカラス何トナレハ是時該銀行ノ入金ハ特  
リ満期手形ノ引換ト貸金返却トノ二途アルノミニシテ  
他ニ餘裕ヲ得ル路ナケレハナリ況ニヤ當時ノ收勢タル  
若シニ百万封度ノ貸付ト割引ヲ為サ、リシナラハ其満  
期手形モ引換ヲ辞ヤラレ其貸金モ返却ヲ拒マレシカ如  
キヲアリシナラニモ亦々知ルヘカラサルハルヲヤ  
然リ而シテ尚ホ茲ニ一事変アリ其事変タルヤ銀行調査  
委員及ヒ其委員ニ報告セシ銀行取締役等ノ嘗テ報告セ  
サリシ所ナルモ恐慌ガ滋蔓シテ一時交換停止ヲ英國銀  
行ニ惹起スルニ際シ其恐慌騷擾ヲ増テ七倍ノ甚シキニ  
至ラシメシモノナリ抑モ貯蓄銀行ニ預ル處ノ通宝ハ其  
實大半金持者ノ預金ナリ當時其額殆ント三千万封度ア

リ是レ皆ナ要求ニ應ジ短期報知ヲ以テ引出シ得ヘキモ  
ノナリ故ニ當時ノ執政者若シ英國銀行困難ノ内情ニ就  
キ疑懼ヲ公衆ニ起サシメタルガ如キ狂愚ヲランニハ此  
巨額ナル貯金ノ大半ハ預主ノ引出ス所ト為リシヤ疑ヲ  
容レサルナリ是レヨリ先キ一千八百四十七年疑懼騷擾  
財政上ニ起ラントヤシキニ當リ貯蓄銀行ヨリ實地引出  
サレタル金額ハ殆ント一百万封度ナリシ即チ一千八百  
四十六年ニハ其額二千六百七十五万九千封度ナリシモ  
一千八百四十七年ニハ減シテ二千五百八十三万八千封  
度トナレリ又一千八百四十八年ニ貿易ノ困難ナリシト  
人民恐懼ヲ現行貯蓄銀行ノ安全ニ懷クトヨリ前年ト同  
様貯蓄金引出ノ人氣ヲ現シ右貯金高ヲ再々減シテ二千  
四百九十八万五千七百三十封度トナセリ故ニ此貯金ノ

大  
藏  
省

大半若シカ役者ノ預ケシ所ナランニハ一層巨大ノ減額ヲ一千八百四十九年ニ見タルナラン蓋シ頻年歳凶歉ニ屬セシヨリ該年ノ一月一日ニ於テ寺領ノ救恤ヲ受ケシ貧民ノ數ハ殆ント一百万人ナリシヲ見ル而シテ當時其外ニ身極貧ナルモ未タ其救恤ヲ要スルニ至ラサル者其數固ヨリ多カラサルヲ得ヌ此夥多ノ貧民若シ果シテ該貯金ニ大關係ヲ有シ該貯金ノ大半果シテ此ノ貧民ノ預ケシ処ナリセハ實ニ該年ヲ以テ其然ルヘキヲ證明スルノ良時機ト云フヘシ然レモ其全ハ然ラヌシテ該貯金ハ多ク富者ノ預ケシ処ナルヲ以テ該年ノ結果ハ果シテ如何ト尋ズルニ全ク反對ノ結果ヲ現出シ貯金ノ総額二千四百九十八万五千七百三十封度ヲ増シテ二千五百四十八万零五百零八封度トナレリ而シテ是歲外ル實ニ

非常ノ凶歳ニシテ英國并ニ威爾斯ノ人口每十七人ニ就キ殆ント一人ノ割合ニテ寺領ノ救恤ヲ受クルカ如キ貧民ノ多キ年ナリ然ラハ此ノ一事實ハ一テ証左ニ當タルニ足ルト言フモ可ナラン乎何トナレハ此ノ一事實ニ據テ右貯金ヲ預ケシ者ハ其実多少餘贏ノ財ヲ有スル人即チ金貸者ニシテ利害ヲ商業社會ニ影響スル事変ニ有スルモ得失ヲカ役者ノ給金及ヒカ役ノ需用ニ影響スル情勢ニ有セサル人タルヲ証明スルヲ得タレハナリ夫レ今ヤ商業社會ニ疑懼騷擾愈々甚シク人心恟々タルノ際ニ方リ貯蓄銀行ニ最モ危険ナルモノハ貯金預ケ主ナリ何トナレハ疑懼騷擾一旦滋蔓シテ右預ケ主中ニ行ハルニ至テハ其危害測ルヘカラサレハナリ初メ貯蓄銀行ノ創製者タル「オールド、ジョージ、ロトス」氏ノ之レヲ創

大蔵省

立シタルヤ之レニ由テカ役社會ヲシテ利害ヲ國債政策ニ有セシメ該政策ノ安危ハ又カ役社會ノ安危ニ關スルトナシ以テ該政策ヲ保持セント欲スルノ目的ニ外ナラサリシ然レモ實際ハ其目的ニ相違シ貯金者多ク富者ナルヲ以テ客年即チ一千八百五十七年ニ於テハ預金ノ總額三千万封度余ノ巨額ニ達セリ(三千六百四十七万四千封度)當時若シ一旦其拂戻ヲ要セラルハカ如キ變アラハ忽チ此ノ金額ハ市場ニ派出セサルヲ得サリシナラニ然ラハ苟モ此ノ事理ヲ知ル者ハ皆能ク恐慌騷擾ノ一旦滋蔓スルヲアラハ如何ナル執権力量能ク銀行條例ヲ持力量續スル能ハサルヲ觀察スヘシ故ニ今後此ノ銀行條例ハ多ク廢法ニ屬セサルヲ得ス然ラハ則チ一千八百四十四年制定ノ銀行條例ヲ其廢止

ノ後ニ主唱セシ論者殊ニ其領袖ホルル等ニ於テハ其氏該條例ニ實地ノ効能アルヲ主唱セシ所以ノ理由ハ將々何レノ點ニアル乎註ホルド、オバーストン氏云ク余政治上ニ於テモ社會上ニ於テモ嘗テピール氏ト關係ナカリシ故ニ銀行條例ノ主義ニ就キ間接ニモ直接ニモ同氏ト一言ヲ相交ヘシトナシ而シテ其世ニ公ニセラレシ迄ハ其條例ノ何條目ヲモ知リシトナシ是レ或ハ信然ナラン然リト雖モホルド、オバーストン氏嘗テ其條例ノ考案ヲ草シ其ホルド(侯)ノ名ヲ記セスシテ之レヲ或人ニ委託セシナラン其或人之レヲピール氏ニ渡セシカ故ニピール氏ハ一言ヲオバーストン氏ト相交ユルニ及ハズシテ之レヲ得テ以テ舉行セシ

大藏省

モノナリ  
 余ノ見ル所ハ少シク他人ノ所見ニ異ナレリ茲ニ右論者  
 ノ該條例ヲ主張セシ所以ノ一大理由ニシテ反令論者ノ  
 明言セサルモ暗ニ證明セシ所ノモノヲ觀察スルナリ乃  
 其理由ト云フハ則チ該條例ハ之レニ所謂ル恐慌騷擾  
 ヲシテ當然ノ發期ニ先ツテ國內ニ滋蔓セシメ以テ其危  
 害ヲ輕減スルノ効アルヨリ世間ノ信用ヲ通宝上ニ保存  
 シ得ルコト是ナリ今日恐慌騷擾ノ發生スルヤ英國銀行尚  
 ホ八百万封度ヲ有スルノ時ニアリ是レ金銀地金ノ減シ  
 テニ百万封度トナリシ時ニ起ルニ比スレハ該銀行ノ安  
 全ナル固ヨリ同日ノ論ニアラス然ラハ則チ該條例ノ該  
 銀行ニ切アルハ獨リ此点ニアルノミ此條例ニ由テ紙幣  
 ノ交換主義ヲ保持シ以テ交換停止ノ災害ヲ免カレント

スルニ至テハ余其効アルヲ知ラサルナリ  
 註左ノ表ハ「ゴルマン氏」ノ報告セシ一千八百四十七年  
 ト一千八百五十七年トニ於ケル諸銀行ノ負債及ヒ資  
 産ノ一覽表ナリ

負債額	貸附及抵当額	差引純負債額	資本金	収入額
一千八百四十七年	一千八百四十七年	一千八百四十七年	一千八百四十七年	一千八百四十七年
封度	封度	封度	封度	封度
六、一四〇、三〇二	二、七四五、八九九	三、三九四、四〇三	四、七五二、六六二	二、一八七、一三二
一千八百五十七年	一千八百五十七年	一千八百五十七年	一千八百五十七年	一千八百五十七年
封度	封度	封度	封度	封度
六、七二六、八四〇	二、〇四〇、二二三	四、六八六、六一七	一、四九三、六九三	四、二〇五、〇九六
仲間ヨリ出ス所ノ資産ノ合計				
一千八百四十七年	封度	全上		封度

一千八百五十七年

全上

五九五三七五九

四六九二二五一

右額數ノ甲合計ハ十二箇ノ銀行ヲ以テ計算スルモノ  
ナリ乙合計ハ十五箇ノ銀行ヲ以テ計算スルモノナリ  
此レニ由テ夫ノ財政兩度變動前ノ空囊ト其後ノ倒産  
零落トヲ明示スルニ足ル

一千八百五十七年十一月ノ恐慌騷擾ハ通貨上ノ一大事  
変トス若シ他ニ論スヘキ緊要ノ事変<sup>レ</sup>起ルアラサレハ  
余將<sup>レ</sup>サニ之レヲ以テ此論ヲ畢ヘント欲ス然レ<sup>レ</sup>今一事  
變ノ理財上ニ最モ緊要ナル為メニ必シク論及セサル可  
カラサルモノアリ上文既ニ記セシ如ク一千八百五十七  
年ノ秋<sup>ニ</sup>シガ<sup>ル</sup>鎮臺兵ノ土兵中ニ激烈ナル一揆蜂起セ

ル<sup>レ</sup>報アリ然レ<sup>レ</sup>當時朝野ノ人民一般ニ之レヲ輕慢シ  
平常印度ノ事<sup>同</sup>シク更ニ之レヲ意トセザリシ蓋シ往  
日一揆ノ數<sup>起</sup>ル<sup>コ</sup>アルモ忽チ討滅ニ就クヲ以テ此般  
ノ一揆モ亦<sup>速</sup>ニ鎮定シ叛徒罪ニ服シ刑ニ就ク猶ホ前  
日ノ如クナルヘシト憶定セシナリ然<sup>レ</sup>時日ヲ經過ス  
ルニ随<sup>テ</sup>東洋ノ報道益々憂フヘキモノトナリ<sup>レ</sup>オウテ我  
ニ<sup>判</sup>キ<sup>テ</sup>ル<sup>レ</sup>判<sup>叛</sup>徒ノ占ムル所トナリ而シテ不平ノ感情  
已ニ<sup>ベン</sup>ガル<sup>ル</sup>全土ニ傳播シ<sup>レ</sup>ベンカル鎮兵殆ント數ヲ盡  
シテ叛徒ニ与スルノ飛報掩匿スヘカラサルニ至リ<sup>閩</sup>國  
ノ人心為メニ恟々初テ不祥ノ預言ヲ發スルモノアルニ  
至レリ

當時英國執政者ノ行フヘキ政畧ハ唯ク一策アルノ<sup>ニ</sup>何  
ツヤ乃チ土人ノ暴舉ヲ為セシ者ハ叛賊ヲ以テ論シ之レ

大 藏 省

ヲ鎮壓懲罰シ就中歐式土兵ノ如キハ宜ク背及ノ罪責ヲ  
以テ之レヲ軍律ニ處スヘキト是ナリ而シテ當時執政タ  
ル者若シ此処分ヲ以テセハ或ハ他日悔誤ノ患ナカルヘ  
シト虫兵獨リ之レヲ以テ足レリトモスシテ此叛乱ノ源  
因ヲ東印度商會管理者ノ處置其當ヲ得サルニ歸シ以テ  
其災害ノ公責ヲ該商會ニ負ハシメタリ茲ニ於テ國人ノ  
セボイス賊ノ殘虐ヲ憤ル者皆ナ之レヲ賛成セラルヲ以テ  
此騷乱ノ結局ハ忽チ東印度商會ヲ顛覆セシムルニ歸着  
セリ蓋シ下院ニ於テ二三論者ノ該商會ヲ保護維持スル  
者アリシモ忽チ反對論者ニ説破セラレタリ是時ニシテ  
該商會ノ用ユヘキ手段ハ特ニ二通ノ願書ヲ議院ニ呈シ  
以テ其採用ヲ歎願スルノ一事アルノミ而シテ此書ノ一  
ハ往時議院ガ受理スル所ノモノニ比スレハ頗ル緊要

ニシテ且ツ注意スヘキ項目ヲ具セリトス  
ロルド、ダルト、ロ、氏、バルマストン、氏ニ繼テ執權トナリ印  
度處分條例ヲ發シ以テ石争議ノ局ヲ結ビリ而シテ今マ  
其顛末ヲ詳説スルハ無用ニ屬セリトス故ニ茲ニ記スル  
ニ該條例ハ遂ニ印度商會ノ權ヲ剝奪シ管理ノ全權ヲ舉  
テ英國政府ニ付与セルヲ以テセハ十分ナリト信ス此時  
ニ方チ「ジ、クロ、」セ、君カ自カラ草シ自カラ建議シ以  
テ上院ニ歎願セル書ハ右處分ニ關シ一大疑問ヲ惹起セ  
リ而シテ之レカ答辨ヲナスハ實ニ容易ノ事ニ非ラスト  
ス其書ニ左ノ章アリ即チ  
第七  
當商會ノ株金及ヒ負債ノ總額ハ拾壹億三千萬封度アリ  
此負債タルヤ議院ノ嘗テ自カラ發議シ余輩歎願者ヲシ

テ今後之レヲ負擔スルノ義務ヲ免レシメント保証セシ  
所ナリ然ルニ今議院ハ自カラ其負債ヲ負擔スヘキヲ明  
言セサルノミナラス却テ前文條例第四十二條中ニ唯々  
印度收入ヲ以テ云々ノ言辭ヲ挿入シテ以テ公然前言ヲ  
食マントスルモノ、如シ余輩歎願者ハ請フ敢テ我公明  
正直ナル議院ニ向ヒ左ノ一事ヲ献言セント欲ス曰ク此  
ノ如キ條例ハ必シス此最大貴重ノ事件ニ就キ我英國人  
民ヲシテ疑惑ヲ抱カシメザルヲ得ス何トナレハ當商會  
ヲシテ依然其管國事務ヲ施行セシムルニ非ラサレハ印  
度政度ノ負債ト我國債トノ分離スヘキ理由ヲ見ル能ハ  
サレハナリト  
一千八百五十八年七月十四日東印度商會本局ノ命ヲ以  
テ上文ノ條目ヲ含有セル歎願書ヲ刊行シ如何ナル方法

ニ由テ所謂ル英國債ヲ印度負債ト分離シ得ヘキ乎ノ疑  
問ヲ以テ輿論ニ問ヒシモ今尚ホ其答辨ヲ得ル能ハス夫  
レ印度ノ負債タルヤ原ト印度商會ノ世信ニ依テ募集セ  
シモノニシテ獨リ印度ノ歳入ヲ引當ニシテ借入タルニ  
アラズ故ニ假令ヒ其收入ハ消滅スルモ負債義務ハ尚ホ依  
然持續スヘシ是則チ該商會ニ印度負債ヲ負擔スルノ義  
務アル所以ナリ然ラハ則チ其額數ノ如何ニ巨額ナルモ  
英國政府其負債義務ヲ負擔セシテ單ニ該商會ノ權ト  
職トノミヲ已レニ掌握スルノ理アラシヤ蓋シ印度歳入  
ハ其債ノ一小抵當トナスヲ得ヘシト雖モ該社ハ其歳入  
ニ拘ハラズ印度一切ノ負債ヲ負擔スルノ義務アリシモ  
ノナリ故ニ論者アリテ此疑問ハ後來速ニ大論題トナル  
モノニアラスト断言セハ之レヲ鹵莽ノ人ト評セサルヲ

大  
藏  
省



得ス然リ而シテ印度ノ暴動今マ稍ヤ其形狀ヲ変スルモ  
其勢焰尚ホ旺ナリ蓋シ叛賊寡兵ニシテ堂々タル戰場ニ  
立ケ英兵ニ抗スルヲ得サルヨリ戦況一変シテ奇兵戦ト  
ナルヘキハ世人ノ先見シ得タル所ナルヘシト余之レヲ  
信ス然レモ戦況ノ変化ヲ以テ未タ平安ノ運ニ向フモノ  
ト認ムルヲ得ス。仮令ヒ今マ一步ヲ譲リ此反乱ハ全ク鎮  
定スベシトスルモ尚ホ未タ印度處分ノ困難ヲ除却スト  
謂フヘカラス蓋シ印度ノ收入ハ将来決シテ其國費ヲ償  
フニ足ラザルニ至ルヘシト何トナレハ将来鎮撫ノ為メニ  
夥多ノ歐兵ヲ夫ノ地ニ備ヘサルヲ得サルハ勿論戦ニ夫  
ノ地ノ百事ヲ整頓スル為メニ将来久シク其歳入ヲ用費  
スルノ多カルヘケレハナリ故ニ久シカラズシテ必ラス  
印度ノ財政上ニ社會ノ秩序上ヨリモ一層醫治スルニ難

カルヘキ困難ヲ見ルニ至ラン是モ多ク思考ヲ費ヤスシ  
テ自カラ分明ナル事理ナリトモモモモモモモモモモモ  
今マ印度ノ收入其支出ヲ償フニ足ラサルハ時期將サニ  
近キニ在ルヘシト為スルハ尋常ノ見識ヲ具スル人類ノ  
決シテ是認スヘカラサル條例ヲ以テ印度ト英國ノ經濟  
ヲ分離スルニ至ランモ亦タ知ルヘカラサルナリ若シ然  
ル中今後東印度商會ノ如キ者アリテ女皇陛下ト負債  
ノ中間ニ介入スルヲナキカ故ニ女皇及ニ其内閣ハ印度  
ニ其負債ヲ消還スル能ハサルモノタルヲ免カレサルヘ  
シ然リ而シテ今マ茲ニ一言セサルヲ得サルモノハ印度  
ニ於テ所謂ル國信ヲ失フモ其他何レノ地方ニ於テモ  
亦同シク國信ヲ失フニ至ルノ恐レアルコト是ナリ夫レ印  
度國債ニシテ棄捐セラルルコトアラハ坤輿ノ人皆テ之レ

トシテ将来他所ニ於テ同性質ノ負債ヲ棄捐スルノ前  
徴トナスヘシ若シ然ルモ夫ノ破壊シ易キ我國債政策  
ノ存立スル所以ノ基礎タル國譽國信ハ終ニ頹敗スルニ  
至ランモ亦シ知ルヘカラサルナリ嗚呼今ヤ此ノ如キ情  
勢將ニ迫近スルハ余輩ノ能ク保証シ得ル所タリ苟モ利  
害ヲ此情勢ニ有スル者豈ニ注目ヤサルヘケンヤ夫ノ口  
ルドアルハマトルス氏ノ常テ若シ印度ノ救入其債ヲ償  
却スルニ足ラスンハ何人カ其責ニ任スルヤノ疑問ニ應  
スルノ時期已ニ来ラントス是レ蓋シ勢ノ避ク可カラサ  
ルモノナリ  
上ニ記載シタル事変ト為メニ英國ノ政治上ニ釀生シタ  
ル変状ヲ茲ニ畧陳スルモ可ナラン抑モ是時ニ當テ印度  
政府ハ積山ノ債ヲ負ヒ怨恨不邁ヲ庶民ニ懷カシメ其危

殆ナルヲ累卵ノ如クニシテ将来平安ノ福運ニ向フノ見  
込更ニナク帝ニ其見込ナキノミナラス向後ハ背叛鎮撫  
ノ為メ今回常備兵ヲ其國ニ置キシヲ以テ其費用支辨ノ  
為メニ将来非常ニ歳收ヲ増加スルノ止ムヘカラサルニ  
至リタレハ既ニ其收税ノ重キヨリ衰頹ヲ極メタル其國  
ノ工業ヲ尚ホ一層甚シク衰頹ヤシムヘキヤ疑ヲ容レサ  
ルナリ然ルニ茲ニ又々守旧主義ノ衰微ヲ徴スヘキ政治  
上ノ激変ヲ我本國ニ發生シタルヲ見ル是ヨリ先キロル  
ド、パルマストン氏銀行條例停止ノ制令ヲ發シ金貸社會  
ノ危急ヲ救ヒ大ニ其感謝ヲ得タリト雖モ其後不幸ニシ  
テ又々佛帝ノ無礼ナル要求ニ從フノ色ヲ顯ハシタルカ  
為メ政黨多数ノ信用ヲ失テ終ニ其職ヲ解ケリ其無礼ナ  
ル要求トハ何ソ即チ變更ヲ英國ノ法律ニ求ムルト是ナ

大  
載  
省

リ蓋シ其変更ヲ要求スル所以ノ意思ハ他ナシ其影響ニ  
由テ帝ノ現ニ僭立スル位ヲ一層鞏固安全ナラシメント  
企圖スルニアリ然リ而シテ「ロルド・バルマストン」氏ノ執  
權ヲ解キシヨリ政權再度守舊黨ノ執ル所トナレリ抑モ  
其守舊黨執政官ノ政ヲ施スヤ稍ヤ其主義ヲ変シテ自由  
ノ政畧ヲ行フヨリ大ニ民望ヲ得タルカ故ニ現世ノ人々  
ニ向テハ勤王主義ト雖決シテ全滅ニ歸セサルヲ證明  
シ又タ「シモトス」エルドン「カスレリ」諸氏黄泉ノ靈ニ向  
テハ諸氏在世ノ時ニ於テ人民ニ一層ノ自由權利ヲ与ヘ  
テ以テ自黨政府ヲ鞏固ニセント企圖セザリシヲ悔ヒシ  
ムルモノト如シ蓋シ右諸氏在世ノ時ニ於テ其主義ニ格  
言トセシモノハ即チ「人民」如何ナル場合ニ於テモ法律  
ニ干渉スルヲ推ナシ唯タ之レニ服従スルハ義務アルノ

ト云フノ甚シキニ至リシモノナリ然リト雖モ今ヤ星  
移リ物換リ全國ノ政黨皆チ民權自由ヲ許スノ緊要ナ  
ルヲ少ナクモ理論上ニ是認スルノ世運ニ歸著セリ既ニ  
理論上ニ是認セラル、トアラハ到底實際上ニ是認セラ  
ルノ時アラサルヲ得サルナリ  
抑モ此著撰タルヤ曩ニ第一板ヲ世ニ公ケニセシニ意ノ  
外ニ公衆ノ愛顧ヲ得タリ而シテ今ヤ此ノ追加ヲ第二板  
ニ附スルノ幸ヲ得テ其局ヲ結フニ當リ記者ハ其終身主  
張シテ毫モ変スルヲナキ理財上ノ意見ヲ斯ニ畧陳セン  
ト欲スルナリ夫レ收稅重課ノ害タル英國命門ノ癆瘡ト  
ナル既ニ久シ而シテ以來政府ノ変更政黨ノ分合輿論ノ  
變轉固ヨリ少ナカラスト雖モ之レニ拘ハラス重課收稅  
ノ病害ハ權ヲ貪ル暴勢者ノ確執政黨ノ軌轢ノ間ニ在テ

大  
藏  
省

浸々トシテ増進ス左ノ表ハ一千八百四十七年以來收税ノ増進ヲ明示スルモノナリ

大英國歳入出ノ合計比較表

年	純歳入		歳出		餘贏		不足額	
	封度	封度	封度	封度	封度	封度	封度	封度
一千八百四十七年	五、一五、四六、二六四	五、四、五、二、九四八	〇	〇	二、九、五、六、六八四	〇	〇	〇
一千八百四十八年	五、三、三八、八七、一七	五、四、一、八五、一、三六	〇	〇	〇	〇	七、九、六、四、一九	〇
一千八百四十九年	五、二、九、五、一、七、四九	五、〇、八、五、三、六、二、三	〇	〇	二、〇、九、八、一、二、六	〇	〇	〇
一千八百五十年	五、二、八、一、〇、六、八〇	五、〇、二、三、一、八、七、四	〇	〇	二、五、七、八、八、〇、六	〇	〇	〇
一千八百五十一年	五、二、二、三、三、〇、〇、六	四、九、五、〇、六、六、一	〇	〇	二、七、二、六	〇	〇	〇
一千八百五十二年	五、三、二、一、〇、〇、七、一	五、〇、七、九、二、五、一、二	〇	〇	二、四、一、七、五、五、九	〇	〇	〇
一千八百五十三年	五、四、四、三、〇、三、四、四	五、一、一、七、四、八、三、九	〇	〇	三、二、五、五、五、〇、五	〇	〇	〇
一千八百五十四年	五、六、八、二、五、〇、九	六、〇、三、一、五、六、八	〇	〇	〇	〇	三、二、〇、九、〇、五、九	〇

一千八百五十五年	六、三、三、六、五、六、〇、五	八、四、五、〇、三、七、八、八	〇	〇	二、一、一、四、一、一、八、三
一千八百五十六年	六、八、〇、〇、八、六、二、三	七、八、一、一、三、〇、三、五	〇	〇	一、〇、一、〇、四、四、一、二
一千八百五十七年	六、六、〇、五、六、〇、五、五	六、六、〇、一、九、九、五、八	〇	〇	〇

此内消却シタル租税院証券ニ、〇、〇、〇、〇、〇、〇封度ヲ含有ス  
 歳入ノ不足ハ勿論租税院券ノ発行及至國債ノ募集ニ依  
 テ之レヲ補償セリ余輩ハ今マ國債ノ増進ヲ左ニ示サン

各年ノ終末ニ於ケル國債ノ合計

年	既定債		未定債(浮標債)		國債合計	
	封度	封度	封度	封度	封度	封度
一千八百四十七年	七、七、二、四、〇、一、八、五、一	一、七、九、四、六、五、〇、〇	七、九、〇、三、四、八、〇、五、一	〇	七、九、〇、三、四、八、〇、五、一	〇
一千八百四十八年	七、七、四、〇、二、二、六、三、八	一、七、七、八、六、七、〇、〇	七、九、一、八、〇、九、三、三、八	〇	七、九、一、八、〇、九、三、三、八	〇
一千八百四十九年	七、七、三、一、六、八、三、一、七	一、七、七、五、八、七、〇、〇	七、九、〇、九、二、七、〇、一、七	〇	七、九、〇、九、二、七、〇、一、七	〇

大 歳 省

一千八百五十年	七六九二七二五六二	一七七五六六。	七八七〇二二一六二
一千八百五十一年	七六五一二六五八二	一七七四二八〇。	七八二八六九三八二
一千八百五十二年	七六一六二二七〇四	一七七四二五〇。	七七九三六五二〇四
一千八百五十三年	七五五三一七〇一	一六〇二四一〇。	七七一三三五八〇一
一千八百五十四年	七五二二五八二七二	二二七八三〇〇。	七七五〇四二二七二
一千八百五十五年	七六六七七八五九九	二六五九六六〇。	七九三八七五一九九
一千八百五十六年	七七九三三〇八八	二八〇五〇七〇。	八〇七九八一七八八
一千八百五十七年	七七九六五五三九九	二五六二七三〇。	八〇五二九二六九九

此ノ表ニ據テ余輩ガ上ノ諸篇ニ於テ稍ヤ著シキ額數ノ  
 償還ヲ國債ニ望ムハ唯タ誤謬ナルノミト説キシトノ果  
 シテ格言タルヲ證スルヲ得タリ夫レ國ニ大事件ノ發起  
 スル時ニ當リテ其國民タル者之レニ出銀スルヲ肯セザ  
 レハ其事件ノ治マラル後ニ至テハ愈々之レニ出銀スルヲ

肯セサルヘキカ故ニ平時適々歳入ノ餘贏ヲ以テ逐次償  
 還ヲ為スアルモ一度ハ変乱ニ逢遇スルヲアラハ忽々  
 空無ニ属スハシトハ余ガ上ノ諸篇ニ屢々論述セシ所ナ  
 リ而シテ今マ其意見ノ果シテ確實ナル實際ニ證明スル  
 ヲ得タリ余輩ハ又タ此ノ表ニ據テ觀察ス英國公債ハ四  
 十餘年ヲ經過スル間ニ二回ノ假戦軍費ノ為メ殆シト一  
 千八百十五年ニ於ケル國債ト均シキ呼高ニ達セシヲ然  
 レ其市價高ニ至リテハ該年二倍ニ騰昂スルヲ知ル而  
 シテ吾人今マ一步ヲ進ミ東印度商會ノ已減シタルカ為  
 メ到底印度債ナルモノト所謂ル英國々債トヲ實際ニ分  
 離シ去ルヲ能ハサルヘキカ故ニ右印度債ハ印度商會  
 ノ株金(其株金高ハ一千八百五十八年七月十四日建白ノ  
 該會社ノ請願書中ニ記スル如ク一億一千三百万封度ノ

巨額ナリト共ニ必ラス英國國債ニ混合セラレ一切其利  
 息ヲ英國收税ヨリ支辨セラルトニ至ルヘキヲ回想シ且  
 ツ印度歳費ノ将来必ラス非常ニ増加シ又夕其歳收ノ必  
 ラス非常ニ減少スヘキヲ思考スベシ然ルキハ吾人必  
 ラス如何ナル粗暴ノ理財家モ悚然トシテ恐縮セサルヲ  
 得サルカ如キ考案ニ帰著スベシ英國ノ勉業ト耐忍ハ能  
 ク慘酷苛虐限リテキ絞血熱湯ノ收税ニ堪ユルモノナリ  
 ト妄信スルカ如キ狂人ニアラサル以上ハ誰カ思テ之レ  
 ヲ驚カサルモノアラシヤ  
 國家ノ財政斯ノ如キ凶運ニ沈淪スルニ當テヤ必ラス之  
 レニ并馳スル不祥ノ顕象即チ破産貧困ノ慘状魯莽不品  
 行犯罪ノ惡俗ヲ社會ニ見ルヲ免カレサルハ余輩之レヲ  
 明示スルニ困マサルナリ左ノ表ハ讀者ヲシテ該顕像ノ

全豹ヲ通曉セシムルニ足ラスト雖又夕以テ其一班ヲ  
 窺ハシムルニ足ルヘシト信ス讀者ノ之レヲ熟覽スルニ  
 當テ余其注意ヲ乞フ所アリ即チ下表ニ掲ケル事實真ニ  
 驚クベシト虽其時限既ニ所謂ル教育ノ設ケアリテ執  
 政者ノ如キモ巨額ノ金ヲ費用シテ頻リニ右ノ如キ患害  
 ヲ醫治スルノ方法ニ盡力シタルハ仮令著シキ切ヲ患害  
 醫治ニ奏シタルコトナキモ幾分ノ效果ナカルベカラス是  
 レ下表ヲ觀ル者ノ宜シク注意スヘキ所ナリ  
 英國并ニ威爾斯ノ諸寺領ニ於テ救助ヲ受ケシ窮  
 民ハ各歳一月一日ニ於ケル人數比較表(但シ無業  
 ヲ除ク)

一千八百四十九年	「エニオン」(寺領)	強壯人	自餘窮民	合計
五九〇		二〇一六四四	七三二七七五	九三四一九

大蔵省

一千八百五十年	六〇〇	一五一一五九	七三九三八四	九二〇五四三
一千八百五十一年	六〇〇	一五四五二五	七〇六三六八	八六〇八九三
一千八百五十二年	六〇八	一三七三一八	六九七一〇六	八三四四二四
一千八百五十三年	六二〇	一二六二二〇	六七二六〇二	七九八八二二
一千八百五十四年	六二〇	一三六二七七	六八二〇六〇	八一八三三七
一千八百五十五年	六二四	一四四五〇〇	七〇六八六九	八五一三六九
一千八百五十六年	六二四	一五二一七四	七二五五九三	八七七七六七
一千八百五十七年	六二四	一三九一三〇	七〇四六七六	八四三三〇六
一千八百五十八年	六二九	一六六六〇二	七四一五八二	九〇八一八六

其他ニ又夕無業人ニシテ生ヲ窃盜若クハ賣淫若クハ慈善者ノ施濟ニ得ル者ト無職業ノ力役者ニシテ幸ニ職人結合會社ノ助成ヲ得テ貧院官吏ノ救助ヲ乞フヲ免カレタル者ト合セテ二十万人ト測算シ之レヲ上表ノ窮民

ニ加フルハ國中常ニ貧困ヲ極ムルモノ平均殆ント一百万人ノ多キニ居ルヲ見ル即チ之レヲ総人口ニ比較スレハ毎十七人ニ付キ九ツ窮民一人ノ割合トス

〔註〕現今ニ至リ貧兒ノ脊骨ノ弯曲四肢ノ不正斜眼ノ不足等ヲ療スル為メニ不具兒施療病院ト誇稱スル一種ノ新病院ヲ多ク設立シ以テ廣ク其施療ヲ為スニ至ルヲ畢竟窮民ノ影クナリシト其貧困ノ甚シクナリシトニ源由ヤスシハアラス蓋シ小兒ノ不具ニナル者ノ多キハ父兄ノ皆ナ貧困ナルヨリ或ハ凍餓ノ不幸ニ遇ヒ或ハ不潔ノ空氣ヲ呼吸シ或ハ濕氣ニ感シ或ハ其看護ヲ怠ラル、等ノ結果ナリ

余輩ノ斯ク論スルモノハ皆ナ醫術上ノ徵候ヨリ来ルモノニシテ國患ノ根本タル國債及々收稅上ヨリ附會

大 歳 省

スルモノニアラス  
 近來外國移住スル人ノ多キヤ左表ニ明示スルカ如ク前  
 代未ダ曾テ見聞セサルノ多数ニ及ヘリト雖モ力役ノ供  
 給少シモ減ヤス反テ傭使セラルヘキ工作ナキヨリ生治  
 ヲ保持スルニ足ル給金ヲ得ル能ハサル貧民不愈ク多キ  
 ヲ加フルモノ、如シ是レ讀者ノ宜ク注意スヘキ所ナリ

大英國ヨリ他國ニ移住セシ人民ノ

一千八百四十三年	五七二一二
一千八百四十四年	七〇六八六
一千八百四十五年	九三三〇一
一千八百四十六年	一二九八五一
一千八百四十七年	二五八二七〇
一千八百四十八年	二四八〇八九

一千八百四十九年	二九九四九八
一千八百五十年	二八〇八四九
一千八百五十一年	三三五九六六
一千八百五十二年	三六八七六四
一千八百五十三年	三二九九三七
一千八百五十四年	三二三四二九
一千八百五十五年	一七六八〇七
一千八百五十六年	一七六五五四
一千八百五十七年	二一八七五
十五年ノ合計	三、一五二、二八八

破産増進ノ数ニ就テハ其精密確實ノ計算表ヲ纂輯スル  
 ニ由ナシ何トナレハ近年ニ至リ穩当閉店極テ多クシテ  
 公裁ヲ經テ官廳ノ帳簿ニ記セラレタル破産ハ割合ニ少



ケレハナリ然リト雖モ吾人令マ左ニ掲載スル比較表ヲ見ルモ又タ以テ破産ノ驚クベク増進シタルヲ證明スルニ足ルヘシ夫レ一千七百年ヨリ一千八百年ニ至ル迄ハ一千七百九十三年ヲ除クノ外公裁ヲ經テ官廳ノ帳簿ニ記セラレタル破産者ノ歳数一千人ニ過キサリシガ一千七百九十三年ニ於テハ一千八百零二人アリシ今ヤ則チ然ラス僅々六七ノ商業都會ニテモ破産者ノ数殆ント一千七百九十三年ノ破産人数ニ等シキヲ見ル

リバプールのノ	七一	一〇六
マシキスタ	七三	一一〇
ビルミンナム	一七九	二六九
リトヅ	一四〇	二一〇
<small>一千八百五十八年八月三十日迄破産セシ箇数</small> <small>一千八百五十八年ノ箇年ノ割合</small>		

ブリストル	六四	九六
イセーター	二八	四二
ニウカスル	四一	六一
倫敦	三九七	五九五
合計	九九三	一四八九

斯ク序述シ来リテ今マ終ニ犯罪者ノ統計表ヲ掲載スルノ期ニ到着ス而シテ余ハ断シテ言ハントス是統計表ト雖モ前陳閉店者ノ統計表ト同シク決シテ精宥ノ推算ヲ得ル能ハサルナリ蓋シ一千八百五十四年刑事裁判法ヲ舉行シタリシヨリ審判ヲ陪審官參坐ノ郡裁判所ニ受クヘキ等ノ詞訟モ現今多クハ陪審官ノ參坐ヲ得スシテ獨リ判事ノ粗畧ニ審判スル所トナレリ此粗畧ノ裁判法タル犯罪者夥シクシテ之レヲ禁獄スルニ許多ノ獄舎ヲ要

大 裁 省

シ之レヲ審判スルニ数多ノ判事檢事ヲ要スルカ如キ時  
 ニ必需ノ法ナリシヤ疑ヲ容レスト雖其法ノ結果ハ犯  
 罪者ヲシテ法網ヲ泄シ入牢ヲ免カレシメ以テ大ニ犯罪  
 者ノ実数ヲ陰蔽スルニ至ルナリ故ニ表中一千八百五十  
 四年新刑事裁判施行ノ後ニ係ルモノハ讀者宜ク其实数  
 ニ陰蔽アルヲ推考スベシ  
 左ノ表ハ收税貧困罪惡ノ并馳増進シタル実況ヲ證明ス  
 ルニ足ル

年 紀	入牢人員數
一千八百四十三年	二九五九一
一千八百四十四年	二六五四二
一千八百四十五年	二四八〇三
一千八百四十六年	二五一〇七

一千八百四十七年	二八八三三
一千八百四十八年	三〇三四九
一千八百四十九年	二七八一六
一千八百五十年	二六八一三
一千八百五十一年	二七九六〇
一千八百五十二年	二七五一〇
一千八百五十三年	二七〇五七
一千八百五十四年	二九三五九
一千八百五十五年	二五九七二
一千八百五十六年	一九四三七
一千八百五十七年	二〇二六〇

右ノ表ハ勿論法庭ノ審判ヲ經タル罪人ノ數ヲ示スノミ  
 其他ニ同罪ヲ犯シテ法網ヲ泄シタル者蓋シ鮮少ナカル

新刑法條例制定後

ベシ然レモ今其数ヲ推算スルニ由ナシ夫レ一千八百零六年以来法庭ノ公判ヲ經タル犯罪者ハ増シテ七倍ノ夥キニ至レリ然リ而シテ法網ヲ泄レ刑ヲ免カレタル犯罪者ハ該年以來其数七倍余ニ増進スルヲナカリシ乎又タ法庭ノ審判ヲ免カレタル重罪人ニシテ往々上流社會ノ体面ヲ汚ス者ハ其数立法行政兩官ノ頭微闡幽ノ注視ヲ免カレ能ハサル輕罪人ノ數ニ超過セサル乎余輩其増進スルヲナキト超過セサルトニツナガラ之レヲ保証スル能ハサルナリ

右ニ序述シ來ル統計表ニ由テ余輩ハ國債積山收稅重課ノ苦域ニ沈淪スル國ノ情狀ヲ一目ニ瞭然タラシムル便ヲ供ヘタリト信ス蓋シ英國ノ一度此苦域ニ沈淪セシヤ貿易上ニ於テハ保護主義ヲ持續スル能ハサル勢トナリ

テ自由貿易ヲ許セハ外國ト競争ヲ保持スル能ハサルノ困難ニ逼迫シ内ニハ貧困破産ノ慘狀ヲ顯出シ從テ民俗壞敗シ人民ノ德義蕩然トシテ地ヲ掃テ罪ヲ犯シ法ヲ破ル者全社會ニ滋蔓シ終ニ國家顛覆ノ凶兆ヲ顯ハスニ至ル斯ノ如キ情勢ニ際シテハ教育モ其功ヲ奏スル能ハス故ニ論者アリ宗教ヲ傳播シ教育ヲ普及スルハ右ノ如キ弊風惡俗ヲ醫治シ衰勢ヲ挽回スルヲ得ヘシト言ハ、之レヲ狂愚ト評スルノ外ナカルヘシ宗教教育ノ實際ニ効力ナカリシヤ之レヲ證明スルヲ得ベシ抑モ此國ニ於テハ數十年前ヨリ宗教教育既ニ盛ニシテ驚クヘク巨多ノ金額ヲ學校ノ保助禮拜堂及ヒ寺院ノ建築給助ニ用費シ而シテ其歳額ヲ年々ニ増加セシヲ見ル例之ハ一千八百五十八年ノ如キ國會其年ノ會議ニ議定シタル教育費

ハ六十六万三千四百三十五封度ノ巨額ナリシ即チ之レ  
ヲ前年度ノ教育費議定高ニ比スレハ八万三千封度ノ増  
額ナリ然レモ教育ニ用費スル金額ハ尚ホ此レニ止マラ  
ス今マ若シ慈善者ノ投與金ノ如キ種々ノ保助金ヲ算入  
スルモハ施濟教育費ノ歳額ハ殆ント一百万封度即チ  
一ムスニ世統治ノ時ニ於ケル全歳入ノ半額ニ居ルナラ  
ン其他寺院禮拜堂ヲ建築シタル費額ノ如キハ余輩今マ  
之レヲ推算スルニ由ナシト雖モ蓋シ非常ノ巨額ナルヘ  
シト信ス是レニ由テ之レヲ觀ルモハ一千八百年来英  
國ニ於テ教育ノ隆盛ニ進ミシヤ昭々トシテ明カナリ然  
ルニ其隆盛ニ拘ハラス此國ノ病患愈々増進シタルヲ見  
レハ余輩其疾患ハ原因ノ何タルヲ論ヤス教育ノ如キ藥  
石ニ由テ醫治セラルヘキモノニアラスト断定マサルヲ

得ス蓋シ斯ク断定スルニアラ<sup>ラス</sup>ンハ患者其醫師配劑ノ藥  
石ヲ服スルニ從テ病ニ愈々重キヲ加ラキハ是レ平癒ノ  
吉徴ナリト言フカ如キ甚シキ誤謬ノ断案ニ歸著スルノ  
外ナカルベシ  
然リト雖モ尚ホ茲ニ一大決案ノ歸著スルニ難カラアル  
モノアリ何ソヤ即チ英國ノ執政者若シ現行政路ヲ固ク  
進行スルモハ必ラス其終末ニ到着スルノ期アルヲ是レ  
ナリ而シテ我執政者ノ將來尚ホ現行政路ヲ進行スヘキ  
ハ疑ヲ容レサルモノ、如シ何トナレハ今マ我國社會ノ  
情状ヲ觀察スルニ非常ノ智ト勇トヲ兼備スル非常ノ英  
雄豪傑國ニ顯ハル、ヲアリテ人民ヨリ政權ヲ委任セラ  
レ以テ此ノ國ノ痼疾ヲ醫治シ其衰運ヲ挽回スヘキ非常  
ノ政畧ヲ施スヲアルガ如キハ萬々望ムベカラザレハナ

リ是レ識者ヲ待タヌシテ明カナリ然ラハ則チ我國ハ現  
行政路ヲ進行スルノ外ナカルベシ已ニ然ルキハ愈々進  
テ艱難愈々甚シ其艱難ノ極度ニ至テ一大事変ノ起ルコ  
アラハ是レ則チ最後ノ危運ヲ見ルノ時ナルヘシ若シ夫  
レ其危運ヲ將來我英國ニ見ルコアルモ仁人君子豈ニ之  
レヲ悲シムヲ要センヤ何トナレハ其危運ノ結果如何ニ  
至リテハ天ナリ人間ノ預知シ得ヘキ所ニアラザレハナ  
リ蓋シ吾人ノ智ヲ以テ測知シ得ル所ハ唯々其結果ノ如  
クニ至テハ禍ヒヲ轉シテ福トナスヘキ大智大能ヲ有ス  
ル上帝ノ意中ニアルカ故ニ上帝必ラス其場合ニ於テ賞  
罪ヲ明カニシ又々其意ニ從テ特旨ノ寛典ヲ施スコモア  
ルベシト言フニ過キサルナリ

